

大東市埋蔵文化財調査報告第28集

鍋田川遺跡Ⅲ

—大阪産業大学校舎（15号館）建設に伴う発掘調査報告書—

2008年3月

大東市教育委員会

大東市埋蔵文化財調査報告第28集

鍋田川遺跡Ⅲ

—大阪産業大学校舎（15号館）建設に伴う発掘調査報告書—

2008年3月

大東市教育委員会



1. 調査地遠景（西より）



1. 土器群 (南東より)



2. 同上 (接写)



1. 第4遺構面東半部（北西より）



2. SK-401・402（北西より）



1. SK-401遺物出土状況①



2. SK-401遺物出土状況②

序 文

大阪府の北東部に位置する大東市は、東部に飯盛山を含む生駒山系が南北に連なり、西部では古くに河内湾、河内湖、また江戸時代中頃までは深野池という大きな池が存在し、山や海・池などに縁取られた多様な地形環境のなかで古来より豊かな自然を有してきました。

そのような環境のなかでわたしたちの先人達は個性豊かな歴史、文化を育み、その足跡として遺跡や神社仏閣、様々な美術工芸品など、いわゆる文化財が数多く残され今日に至っています。

鍋田川遺跡は昭和33年に鍋田川の砂防堰堤工事の際に発見されて以来、その特異な出土遺物からたいへん注目されてきた遺跡でありましたが、今回の報告書はその第3次発掘調査の成果であります。その内容としましては従来調査成果と同様、縄文から近世に至る貴重な成果をあげることができましたが、特に古墳時代から奈良時代にかけての成果については新たな知見を得ることができ、従来から言われてきました遺跡の特異性と共に、さらに遺跡周辺を含めた古代史像を明らかにできたものと思われまます。

今後、これらの成果を市民共有の財産として活用していくと共に、本報告書が本市の歴史や文化を知る基礎資料として活用され、歴史や文化財に対する理解を深めるための契機となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査および整理作業の費用負担をはじめ多大なご協力を賜りました大阪産業大学をはじめ、お世話になりました関係機関・各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

また教育委員会では、今後とも先人より受け継いできた貴重な文化財を大切に保存・活用し、未来を担う次世代に託したく努力する所存でありますので、市民の皆様方におかれましては今後とも本市の文化財保護行政にご理解、ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成20年 3 月

大東市教育委員会

教育長 中 口 馨

例 言

1. 本書は、大阪府大東市中垣内3丁目における鍋田川遺跡発掘調査（NBT98-1）の報告書である。
2. 調査は大学校舎建設に伴うもので、学校法人大阪産業大学より依頼を受け、大東市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査および整理作業は大東市立歴史民俗資料館、中達健一（現、生涯学習課）が担当した。
4. 本調査に係る費用については学校法人大阪産業大学がこれを負担した。記して感謝の意を表す。
5. 調査面積は511.94㎡。調査期間は平成10年8月3日～同年11月21日である。
6. 現地調査における遺構等その他測量にあたっては阪奈ソーケン株式会社が実施した。また作図等の記録作業については大林組・大末建設共同企業体大阪産大JV工事事務所の西川雅友氏、横田友太氏の協力を得た。
7. 整理作業にあたっては下記の諸氏の協力を得た。（敬称略、五十音順）
谷崎光子、樋口里美、宮田八重子
8. 本調査における基準点、水準点の設置については、阪急航空株式会社に委託した。
9. 本調査で使用した座標は国土座標第Ⅵ系であり、方位は座標北を使用している。また、標高はT.P.（東京湾平均海面値）である。尚、国土座標の数値については日本測地系での表示である。
10. 報告書作成に係る一部図面作成、遺物一覧表、遺物写真撮影については、大東市教育委員会の指導のもと、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
また、一部出土品の分析・保存処理についても、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
11. 本書の執筆、編集は中達が行った。
12. 本調査に関わる出土遺物、実測図、写真、カラスライド等の各資料は大東市立歴史民俗資料館において保管している。広く利用されることを希望する。

本文目次

序文

例言

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第3章 調査の方法	5
第4章 調査成果	
第1節 基本層序	6
第2節 第1遺構面	10
第3節 第2遺構面	13
第4節 第3遺構面	15
第5節 第4遺構面	19
第5章 まとめ	23

挿図目次

第1図 調査地位置図	1
第2図 大東市位置図	2
第3図 周辺遺跡分布図	4
第4図 調査区区割図	5
第5図 調査区北壁断面図(1)	7～8
第6図 セクション①断面図	7～8
第7図 調査区東壁断面図	9
第8図 調査区北壁断面図(2)	9
第9図 第1遺構面遺構配置図	10
第10図 第1遺構面全体図	11
第11図 第2遺構面遺構配置図	13
第12図 第2遺構面全体図	14
第13図 第3遺構面北東部遺構配置図	15
第14図 第3遺構面全体図	16
第15図 土器群出土状況図	17
第16図 第4遺構面全体図	20
第17図 SK-401・402平・断・遺物出土状況図	21
第18図 NR-402遺物出土状況図	22
第19図 NR-402各土器出土状況図	22
第20図 NR-301出土遺物(1)	27
第21図 NR-301出土遺物(2)	28

第22図	N R - 301出土遺物 (3)	29
第23図	N R - 301出土遺物 (4)	30
第24図	N R - 301出土遺物 (5)	31
第25図	土器群出土遺物 (1)	32
第26図	土器群出土遺物 (2)	33
第27図	土器群出土遺物 (3)	34
第28図	S K - 401出土遺物	35
第29図	S K - 402出土遺物	36
第30図	N R - 401出土遺物 (1)	37
第31図	N R - 401出土遺物 (2)	38
第32図	N R - 401出土遺物 (3)	39
第33図	N R - 401出土遺物 (4)	40
第34図	N R - 402出土遺物 (1)	41
第35図	N R - 402出土遺物 (2)	42
第36図	N R - 402出土遺物 (3)	43
第37図	N R - 402出土遺物 (4)	44
第38図	N R - 402出土遺物 (5)	45
第39図	N R - 403出土遺物 (1)	46
第40図	N R - 403出土遺物 (2)	47
第41図	第 X VI 層出土遺物	48

表 目 次

第 1 表	出土遺物一覧表	49
-------	---------	----

写真図版目次

巻頭カラー図版 1

1. 調査地遠景 (西より)

巻頭カラー図版 2

1. 土器群 (南東より)
2. 同上 (接写)

巻頭カラー図版 3

1. 第 4 遺構面東半部 (北西より)
2. S K - 401・402 (北西より)

巻頭カラー図版 4

1. S K - 401遺物出土状況①
2. S K - 401遺物出土状況②

図版 1 遺構(1)

1. 調査地遠景 (西より)
2. 第 1 遺構面全景 (南東より)

図版 2 遺構(2)

1. 第2遺構面東半部（北西より）
図版3 遺構(3)
1. 第3遺構面全景（北東より）
図版4 遺構(4)
1. 第3遺構面北東部（南東より）
図版5 遺構(5)
1. 土器群（南東より）
図版6 遺構(6)
1. 土器群（北東より）
図版7 遺構(7)
1. 土器群（部分接写）②
図版8 遺構(8)
1. 第4遺構面全景（南東より）
図版9 遺構(9)
1. SK-401・402（北西より）
図版10 遺構(10)
1. SK-401断面（北より）
図版11 遺構(11)
1. SK-401遺物出土状況①
図版12 遺構(12)
1. SK-401遺物出土状況②
図版13 遺構(13)
1. SK-402遺物出土状況①
図版14 遺構(14)
1. NR-401・402・403（北西より）
図版15 遺構(15)
1. NR-401（北東より）
図版16 遺構(16)
1. NR-402遺物出土状況①
図版17 遺構(17)
1. NR-402遺物出土状況③
図版18 遺構(18)
1. NR-402遺物出土状況⑤
図版19 出土遺物(1) [土器]
- 図版20 出土遺物(2) [土器]
- 図版21 出土遺物(3) [土器]
- 図版22 出土遺物(4) [土器]
- 図版23 出土遺物(5) [土器]
2. 第2遺構面全景（南東より）
2. 第3遺構面東半部（北西より）
2. NR-301断面（北西より）
2. 土器群（南西より）
2. 土器群（部分接写）①
2. 土器群（部分接写）③
2. 第4遺構面全景（北西より）
2. SK-401・402（南東より）
2. SK-402断面（北西より）
2. 同上（接写）
2. SK-401遺物出土状況③
2. SK-402遺物出土状況②
2. NR-401・402・403（南東より）
2. NR-403（南西より）
2. NR-402遺物出土状況②
2. NR-402遺物出土状況④
2. NR-402遺物出土状況⑥

- 図版24 出土遺物(6) [土器]
- 図版25 出土遺物(7) [土器]
- 図版26 出土遺物(8) [土器]
- 図版27 出土遺物(9) [土器]
- 図版28 出土遺物(10) [土器]
- 図版29 出土遺物(11) [土器]
- 図版30 出土遺物(12) [土器]
- 図版31 出土遺物(13) [瓦]
- 図版32 出土遺物(14) [瓦]
- 図版33 出土遺物(15) [瓦・土製品等]
- 図版34 出土遺物(16) [石製品]
- 図版35 出土遺物(17) [石製品]
- 図版36 出土遺物(18) [石製品]
- 図版37 出土遺物(19) [石製品]
- 図版38 出土遺物(20) [金属製品]

第1章 調査に至る経緯

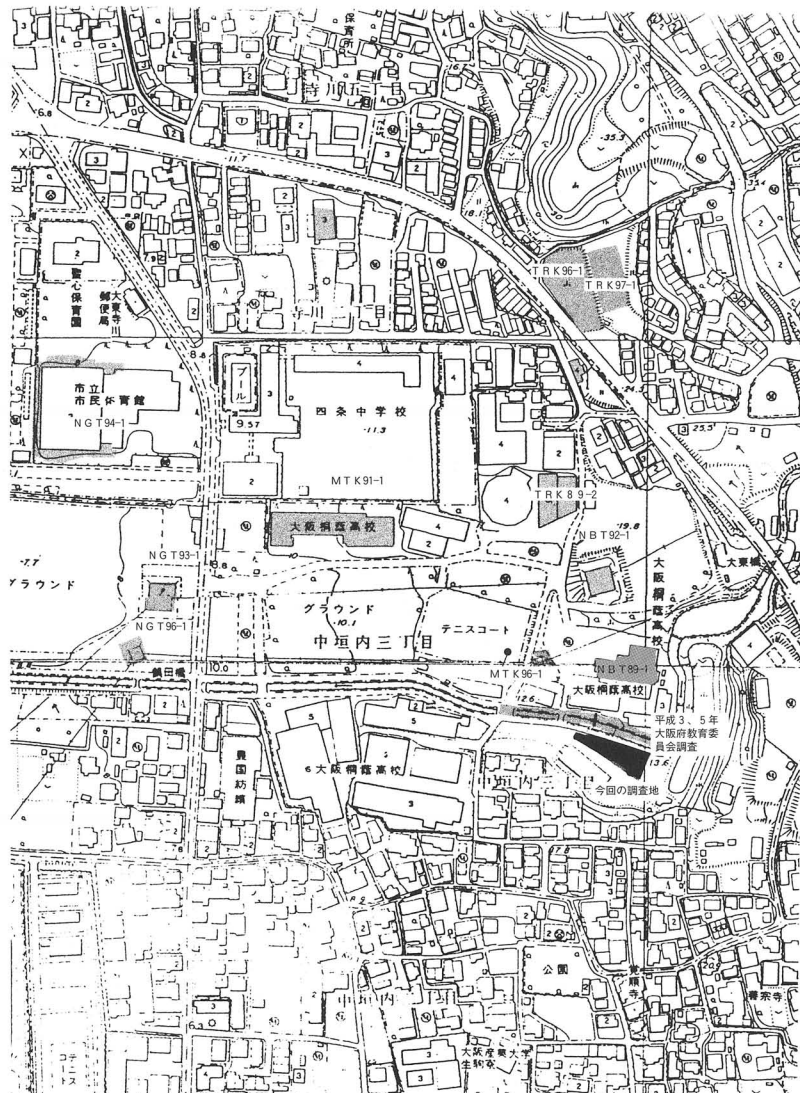
鍋田川遺跡は昭和33年に砂防堰堤工事の際に発見された遺跡である。それに伴う出土遺物に古墳時代の土器、滑石製有孔円板、鹿角製品、卜骨などが出土したことにより古墳時代の祭祀遺跡と考えられてきた。その後、長年にわたり発掘調査の機会には恵まれなかったが、平成元年から平成5年にかけて本格的な調査が実施され、現在では縄文時代から近世に至る複合遺跡との性格が与えられている。

今回の調査は、学校法人大阪産業大学により校舎（15号館）の建設工事の事業計画がなされたことによるものであるが、その計画地は鍋田川遺跡の範囲内であったため、学校法人大阪産業大学より本市教育委員会に当該事業における埋蔵文化財の取り扱いについての事前協議の申し入れがあった。

本市教育委員会では、文化財保護法第57条の2（現、93条）に基づく届出の提出を求めるとともに、工事によって遺跡の損壊が想定される場合には工事の設計変更による現状保存または発掘調査が必要である旨を伝えた。

以上の協議を経て、本市教育委員会が範囲確認調査を実施したところ、遺物を多量に含んだ包含層を確認するなど遺跡の広がり確認された。その後、遺跡の保存に関して協議を行ったが、事業内容の計画変更は困難であるとのことから発掘調査を実施することで合意した。

調査は計画地511.94㎡を対象に、平成10年8月3日から着手し、同年11月21日に終了した。



第1図 調査地位置図

第2章 遺跡の位置と環境

鍋田川遺跡は大阪府大東市中垣内に所在し、南北約220m、東西約290mの範囲を持つ遺跡である。これまで数次にわたって調査が実施されており、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが明らかにされている。特に弥生～古墳時代における成果が顕著である。

地理的には、生駒山地より派生する鍋田川の左岸一帯および右岸に形成された低位段丘から扇状地にかけて立地している。

以下、大東市域の遺跡を中心に歴史的推移を概観する。

〈旧石器時代〉

中垣内遺跡からナイフ形石器が出土している。しかし、昭和34年の東大阪変電所建設時における出土のため、その詳細は明らかでないが、この時代の遺物としては現在のところ市内唯一のものである。

〈縄文時代〉

集落を示すような具体的な遺構は検出されていないため、様相については明らかではない。唯一、中垣内遺跡で中期後半の土坑状の遺構と推測されるものが確認されているのみである。遺物では、北条遺跡、宮谷古墳群で草創期の有舌尖頭器などが出土・採集している他、自然河川、自然流路、包含層等からの出土ではあるが主に宮谷川、鍋田川周辺の遺跡から中～晩期を中心とした土器の出土が確認されている。

そして、磨耗を受けず比較的残りの良好な土器の出土も多いことから丘陵、扇状地などに集落跡の存在した可能性は十分高いものと考えられる。

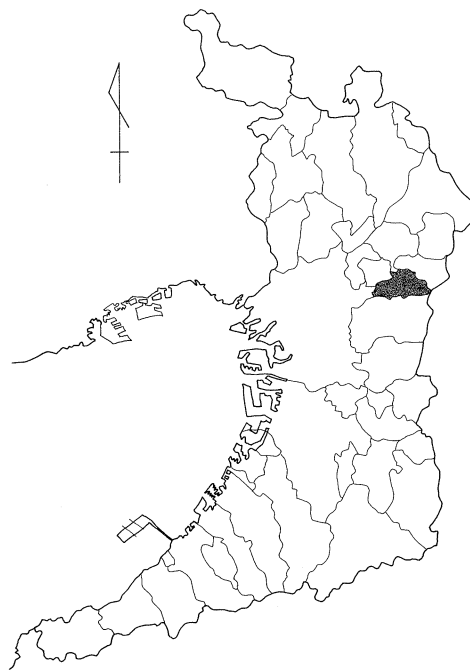
〈弥生時代〉

この時代から市域においても遺構を伴う遺跡が多数確認されるようになる。前～中期の集落跡が確認された中垣内遺跡、北条西遺跡、後期の竪穴住居を検出した北条遺跡などがある。また、中垣内遺跡の東に位置する鍋田川遺跡では後期のまとまった遺物が出土しており、当時の集落の動向を考えるうえでも重要な遺跡であることが明らかになりつつある。

〈古墳時代〉

当時、河内湖東岸に位置していた市域においても多数の集落が営まれるようになり、前期では鍋田川遺跡、中～後期にかけては北新町遺跡、メノコ遺跡などがある。特に特徴的な様相としては初期須恵器、韓式系土器、鳥足文を施した陶質土器の出土など渡来系的な影響の強い遺物が目立ち、先に述べた河内湖東岸という地理的状況からも頷けるものである。

古墳に関しても多くの古墳、古墳群が周知されているが、残念ながら詳細の解らないものが多い。その中において城ヶ谷遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群、堂山古墳群で古墳の調査が行われている。特に堂山古墳群では三角板皮綴短甲、衝角付冑、鉄刀、鉄鏃など多量の鉄製武器、武具類が出土していることか



第2図 大東市位置図

ら当時の有力な首長墓と考えられており、当時の社会を考えるうえで貴重な成果をあげている。

〈古代〉

奈良時代では北新町遺跡、寺川遺跡、元粉遺跡で集落跡が確認されている。特に北新町遺跡では人面墨書土器が出土し、また寺川遺跡では「白麻呂」と墨書された土器が出土するなど、官衙的集落の存在が推定されている。

平安時代では寺川遺跡で集落跡が確認されている。特に、直径1 m程の木を刳り貫いた井筒などは注目され、また河川跡からはウマの骨が一体復元出来るほどの出土があり、通常の集落とはかなり違う様相を示している。

〈中世〉

北新町遺跡で12～13世紀を中心とした集落跡、御領遺跡で13～14世紀の集落跡が確認されており、地域における中世の様相も明らかにされてきている。また、城跡に関しても、戦国武将、三好長慶の飯盛城、その支城とされる野崎城、キリシタンで有名な三箇サンチヨの三箇城などが知られている。ただ、考古学的には飯盛城において発掘調査がわずかに実施されているのみで残念ながら詳細は明らかにされていない。

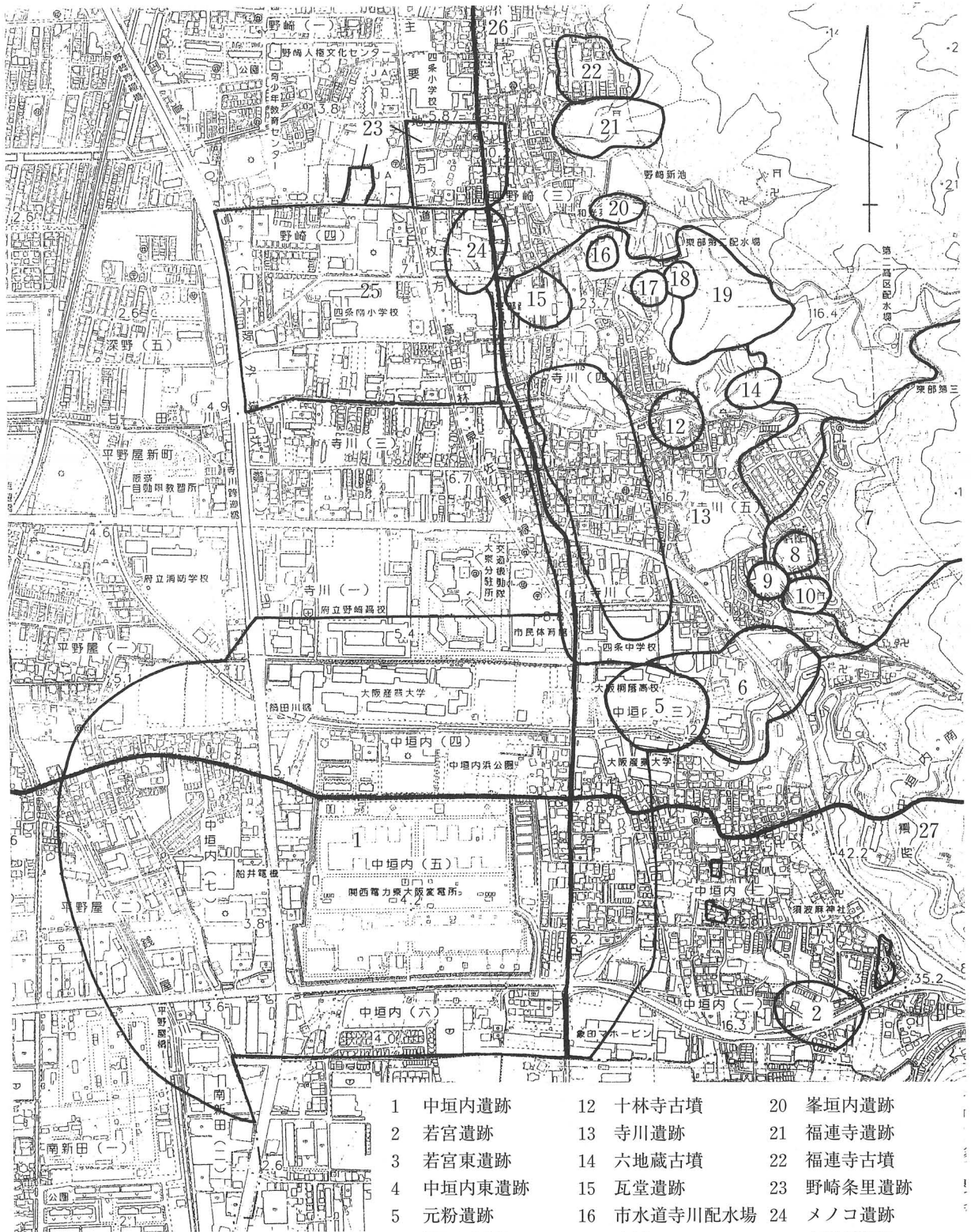
〈近世〉

大阪城の築城、また江戸幕府による再築の際、石垣用石材の供給地であった石切場跡や、宝永元年(1704)の大和川付け替えに伴い新田開発が行われるが、その管理・運営施設であった平野屋新田会所などがある。

また西諸福遺跡では深野池、新開池とは別の池と推定されている遺構が検出されており、備前播鉢、壺、美濃窯系天目茶碗、胎土目唐津窯系皿、堺播鉢、石臼などの陶磁器類がまとまって出土している。

(引用・参考文献)

- 大阪府史編集専門委員会 1991年 『大阪府史』別巻 大阪府
大東市教育委員会 1973年 『大東市史』
大東市教育委員会 1987年 『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第1集
大東市教育委員会 1989年 『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』大東市埋蔵文化財調査報告第3集
大東市教育委員会 1990年 『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第6集
大東市教育委員会 1997年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集
大東市教育委員会 1997年 『寺川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第13集
大東市教育委員会 1998年 『メノコ遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第14集
大東市教育委員会 1999年 『御領遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第15集
大東市教育委員会 2000年 『西諸福遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第17集
大東市教育委員会 2002年 『旧平野屋新田会所屋敷と建物』大東市文化財調査報告書
大東市教育委員会 2004年 『元粉遺跡Ⅰ』大東市埋蔵文化財調査報告第19集
大東市教育委員会 2004年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第20集
大東市北新町遺跡調査会 1986年 『北新町遺跡第1次発掘調査概要報告書』
大東市北新町遺跡調査会 1991年 『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』
大東市北新町遺跡調査会 1997年 『北新町遺跡第3次発掘調査概要報告書』
大阪府教育委員会 1993・1994年 『堂山古墳群』大阪府文化財調査報告書第四五輯
中達健一 1995年 「大東市・北条西遺跡(93・1次調査)」 『まんだ』第五十六号
黒田淳 1988年 「大東市“宮谷古墳群の調査”」 『まんだ』第三十五号



- | | | |
|------------|--------------|-----------|
| 1 中垣内遺跡 | 12 十林寺古墳 | 20 峯垣内遺跡 |
| 2 若宮遺跡 | 13 寺川遺跡 | 21 福連寺遺跡 |
| 3 若宮東遺跡 | 14 六地藏古墳 | 22 福連寺古墳 |
| 4 中垣内東遺跡 | 15 瓦堂遺跡 | 23 野崎条里遺跡 |
| 5 元粉遺跡 | 16 市水道寺川配水場 | 24 メノコ遺跡 |
| 6 鍋田川遺跡 | 古墳 | 25 寺川浜遺跡 |
| 7 大谷古墳群 | 17 堂山下古墳 | 26 東高野街道 |
| 8 城の越上の段古墳 | 18 堂山上遺跡 | 27 古堤街道 |
| 9 城の越古墳 | 19 堂山古墳群 1号墳 | |
| 10 大谷神社古墳 | 堂山古墳群 2号墳 | |
| 11 寺川古墳群 | ～ 8号墳 | |

第3図 周辺遺跡分布図

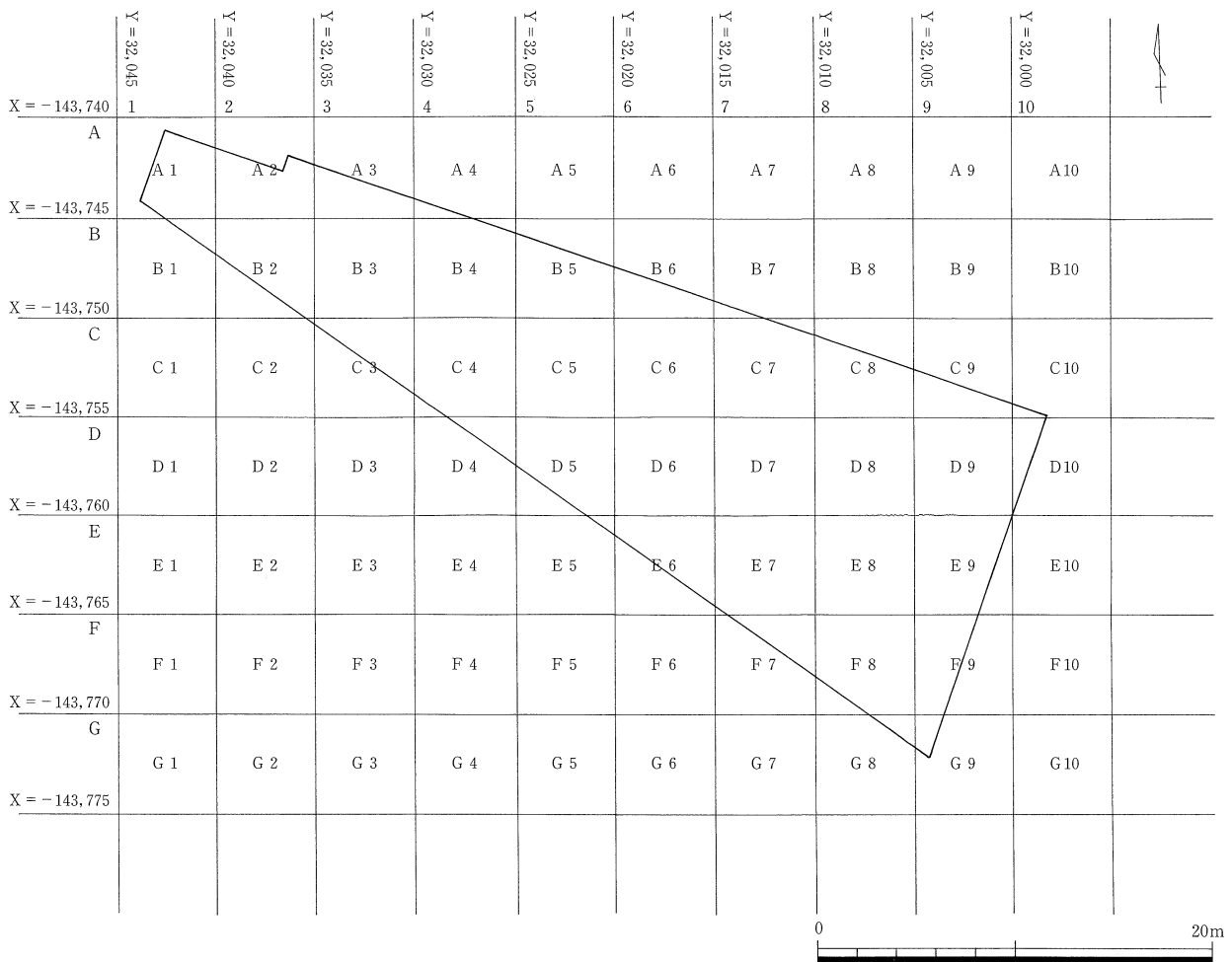
第3章 調査の方法

掘削については、盛土、旧耕作土、床土までを機械掘削の対象とし、以下、包含層については層位ごとに人力による掘削を行った。そして、それぞれの層位面において遺構の確認を行いながら、地山面に至るまで順次繰り返した。

遺構の平面実測については、すべて平板測量で実施した。また必要に応じて遺構平面図・断面図・遺物出土状況図を適宜作成した。

調査区の区割り設定については、調査区付近において調査区をバランスよくカバーできるように考慮しながら任意の地点を決め、それを基点に国土座標第VI系による座標を使用して調査区全体を東西南北それぞれ5mごとに座標軸を順次配しながら囲み、調査区内に5m四方の区画を設定した。各区画の呼称については南北座標軸に西端を起点として算用数字を順次付し、また東西座標軸については北端を起点としてアルファベットを順次付すことにより各交点を記号化し、その北西隅の交点を用いている。また、水準についてはT.P.(東京湾平均海面値)を使用している。先に述べた遺物出土状況など各種記録作業、また包含層などの遺物の取り上げについては、すべてこれらの基準に基づいている。また、報告書の記述においても同様である。

遺構番号については遺構面ごとに付与しており、各遺構面を示す数字を遺構番号の頭に冠している。写真撮影については6×7の中型カメラによるモノクロ撮影、35mm小型カメラによるモノクロ、カラーそれぞれにおいて撮影を行い、またスライドの作成も行っている。



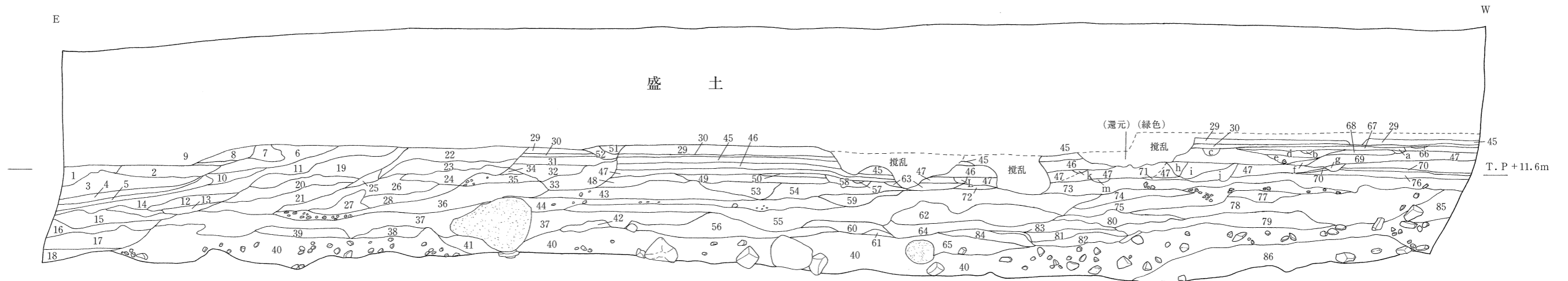
第4図 調査区区割図

第4章 調査成果

第1節 基本層序

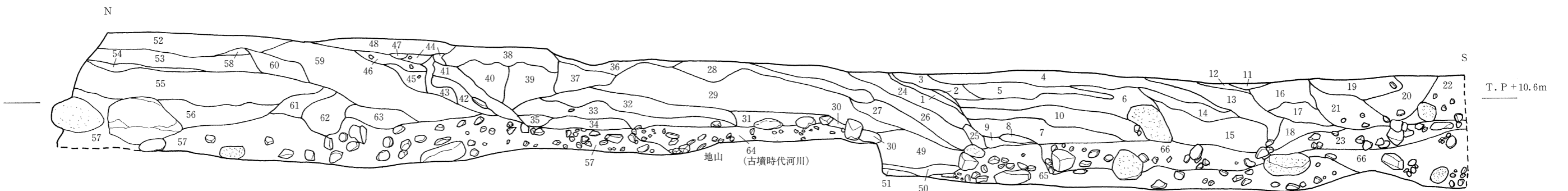
今回の調査では層位的に4面の遺構面を確認した。基本的な層序については以下の通りである。

- 第0層 機械掘削の対象とした層で盛土、旧耕土、床土である。層厚はそれぞれ約2.0m、0.15m、0.05mを測る。
- 第I層 オリーブ灰色砂質土。調査区西側A1～2区にかけて堆積する層で、西側にかけて落込んでいく。層厚は最大で約0.5mを測る。
- 第II層 褐灰色砂質土～土。調査区西側A1～3区、B2～3区にかけて堆積する層で、ほぼ西側にかけて厚く堆積する。層厚は0.1～0.5mを測る。
- 第III層 淡灰～淡褐色シルト。調査区北東部D9区に堆積する。層厚は0.15～0.2mを測る。
- 第IV層 青灰色砂質土～土。調査区西側B3区より西側に堆積し、南西に向けて厚く堆積する。層厚は0.2～0.3mを測る。
- 第V層 灰色微砂。調査区西側に堆積する。層厚は0.1m前後を測る。
- 第VI層 褐灰～暗灰褐色砂質土。調査区北東部に堆積し、第1遺構面のベース層になる。層厚は約0.15～0.2mを測る。
- 第VII層 暗灰～暗灰褐色土。調査区北東部に堆積し、第2遺構面のベース層になる。層厚は約0.1～0.2mを測る。
- 第VIII層 灰黄色粗砂～淡灰緑色微砂。調査区東部に堆積する。層厚は約0.05～0.1mを測る。
- 第IX層 灰褐色シルト。調査区西側に堆積する。層厚は約0.1m前後を測る。
- 第X層 黄灰色細砂・暗灰緑色シルト混暗灰色砂質土。調査区西側に堆積する。層厚は0.3～0.4mを測る。
- 第XI層 灰色砂ブロック混暗灰緑色シルト。調査区西側に堆積する。層厚は0.1～0.15mを測る。
- 第XII層 暗灰色粘質土が主体をなす。調査区西側に堆積する。層厚は0.2～0.3mを測る。
- 第XIII層 黒色粘質土。調査区西側に堆積する。層厚は0.4～0.5mを測る。
- 第XIV層 暗灰色粘土が主体をなす。調査区西側に堆積し、西側に向けて厚く堆積する。層厚は0.1～0.30mを測る。
- 第XV層 淡灰緑色～にぶい淡黄緑色シルトが主体をなす。調査区北東部に堆積し、第3遺構面のベース層になる。層厚は約0.2～0.3mを測る。
- 第XVI層 灰褐色シルトブロック混白色粗砂が主体をなす。調査区北東部に堆積する。層厚は約0.1～0.2mを測る。
- 第XVII層 明灰緑色粘土が主体をなす。考古学で言う地山層である。



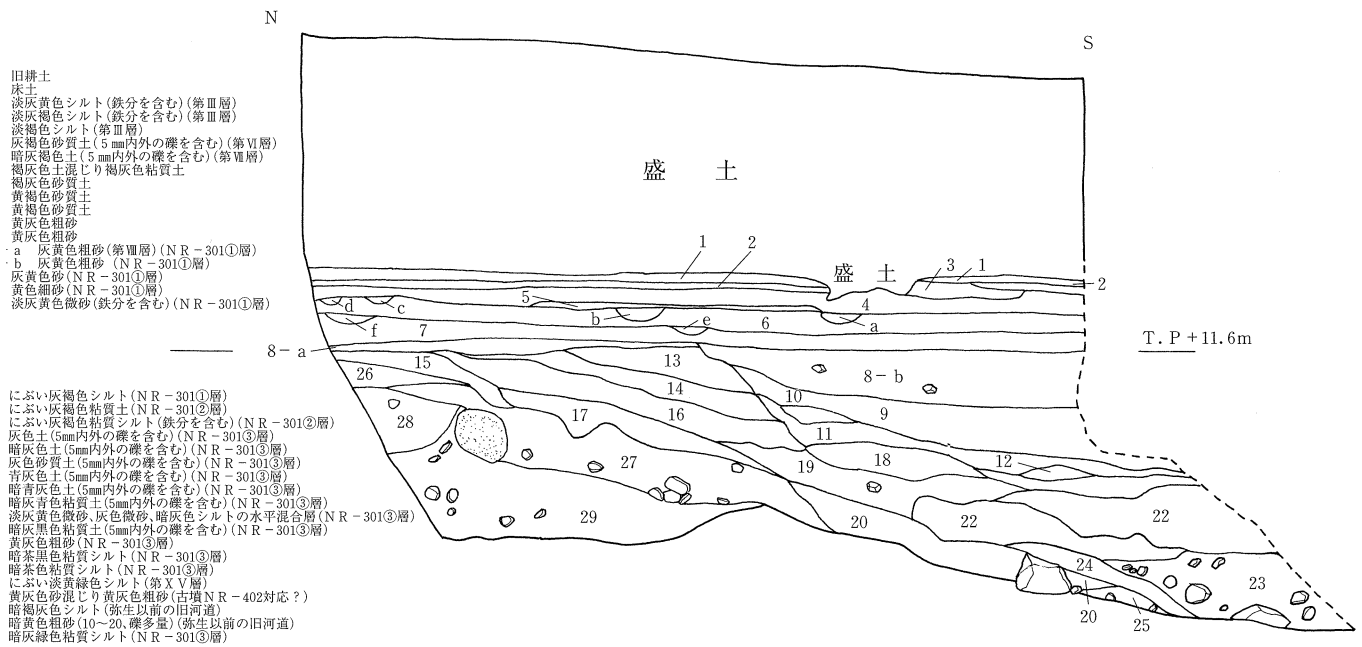
- | | | | | |
|---------------------------|------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| 1 灰色砂質土 (5mm内外の礫を含む) | 21 暗灰緑色粘質土 | 41 淡灰青色微砂 | 61 白色細砂 | 81 緑灰色微砂 |
| 2 におい灰黄色砂 | 22 淡灰緑色砂質土 (5mm内外の礫を含む) | 42 黄色微砂と白色微砂 (水平堆積層) | 62 白色粗砂 (鉄分を含む) | 82 灰緑色微砂と腐植土の互層 |
| 3 灰白色砂~粗砂 (右側、マンガン沈着) | 23 淡灰褐色粘質土 | 43 白色砂 | 63 暗灰褐色土 (遺構) | 83 淡灰赤色シルト |
| 4 青灰色粘質シルト | 24 灰白色砂~粗砂 | 44 灰白色粗砂 | 64 淡緑色シルト (鉄分を含む) | 84 淡灰黄色粗砂 |
| 5 淡青灰色微砂~シルト | 25 緑灰色粘質土 | 45 灰褐色シルト (第Ⅲ層) | 65 白色砂 (鉄分を含む) | 85 暗褐色シルト |
| 6 におい黄灰色シルト | 26 灰白色砂混じり暗緑灰色シルト | 46 暗灰褐色土 (鉄分を含む) (第1遺構面ベース層) | 66 淡灰黄色微砂 (上層遺構) | 86 黄色粗砂 (鉄分を含む) |
| 7 暗灰色砂質土 | 27 灰白色砂 | 47 暗灰色土 (鉄分を含む) (第2遺構面ベース層) | 67 淡灰緑色シルト | a 67と同じ (鑿-107) |
| 8 におい灰黄色粗砂 | 28 白色粗砂 (5cm~10cm位の礫多量) | 48 白色砂 (締まっている) (第3遺構面ベース層) | 68 灰褐色土 (5mm内外の礫を含む) (第1遺構面ベース層) | b 67と同じ (鑿-113) |
| 9 暗灰色土 | 29 旧耕土 | 49 淡灰緑色シルト (鉄分を含む) (第3遺構面ベース層) | 69 灰褐色砂質土 (5mm内外の礫を含む) (第1遺構面ベース層) | c 緑灰色シルト (鑿-114) |
| 10 暗灰色シルト | 30 床土 | 50 淡灰黄色微砂 (第3遺構面ベース層) | 70 灰褐色粗砂 (第Ⅳ層) | d 暗灰褐色土 (5mm内外の礫を含む) (SK-101) |
| 11 暗灰色土 (5mm内外の礫を含む) | 31 灰褐色砂質土 | 51 灰緑色砂質土 | 71 淡灰緑色微砂 (第Ⅳ層) | e 灰褐色砂質土 (SK-101) |
| 12 暗灰色土混じり緑色シルト | 32 褐色土 (遺構) | 52 白色砂 | 72 淡灰緑色シルト (鉄分を含む) (第3遺構面ベース層) | f 暗褐色土 (5mm内外の礫を含む) (SK-101) |
| 13 緑灰色砂質土 | 33 白色粗砂 (遺構) | 53 白色微砂混じり緑灰色微砂 | 73 緑灰色シルト (鉄分を含む) (第3遺構面ベース層) | g 灰白色粗砂 (鑿-203) |
| 14 暗灰褐色シルト | 34 暗灰色土 (第2遺構面ベース層) | 54 におい緑灰色微砂 | 74 淡灰緑色砂混じり淡灰緑色粗砂 (鉄分沈着) (弥生以前河川) | h 茶褐色土 (SK-202) |
| 15 暗緑灰色粘質土 | 35 淡灰緑色シルト (鉄分を含む、第3遺構面ベース層) | 55 緑灰色シルト (鉄分を含む) | 75 灰褐色シルトブロックを含む白色粗砂 | i 灰白色砂 (SK-202) |
| 16 灰白色粗砂 | 36 白色粗砂 (弥生以前河川) | 56 白色砂 | 76 暗灰色土混じり暗灰色粘質土 (NR-301の③層) | j 暗灰褐色土 (SK-202) |
| 17 緑灰色砂 | 37 暗緑灰色微砂 (鉄分を含む) | 57 灰褐色砂質土 (遺構) | 77 淡灰黄色微砂混じり淡灰黄色シルト (鉄分を含む) | k 褐色砂質土 (鑿-207) |
| 18 灰白色粗砂 | 38 暗褐色粗砂 | 58 暗灰色土 (鉄分、マンガンを含む) (遺構) | 78 灰褐色粘質シルト (鉄分を多量に含む) | L 白色細砂 (遺構) |
| 19 におい灰褐色砂質土 (5mm内外の礫を含む) | 39 淡灰黄色細砂 | 59 淡黄色微砂混じり淡灰緑色微砂 | 79 緑灰色シルト (鉄分、マンガンを含む) | m 灰白色微砂 (鑿-305) |
| 20 灰色砂 | 40 暗黄褐色粗砂 | 60 灰色微砂 | 80 黄褐色微砂と淡灰緑色シルトの互層 | ※ 1~28まで近世以降の河川 |

第5図 調査区北壁断面図(1)

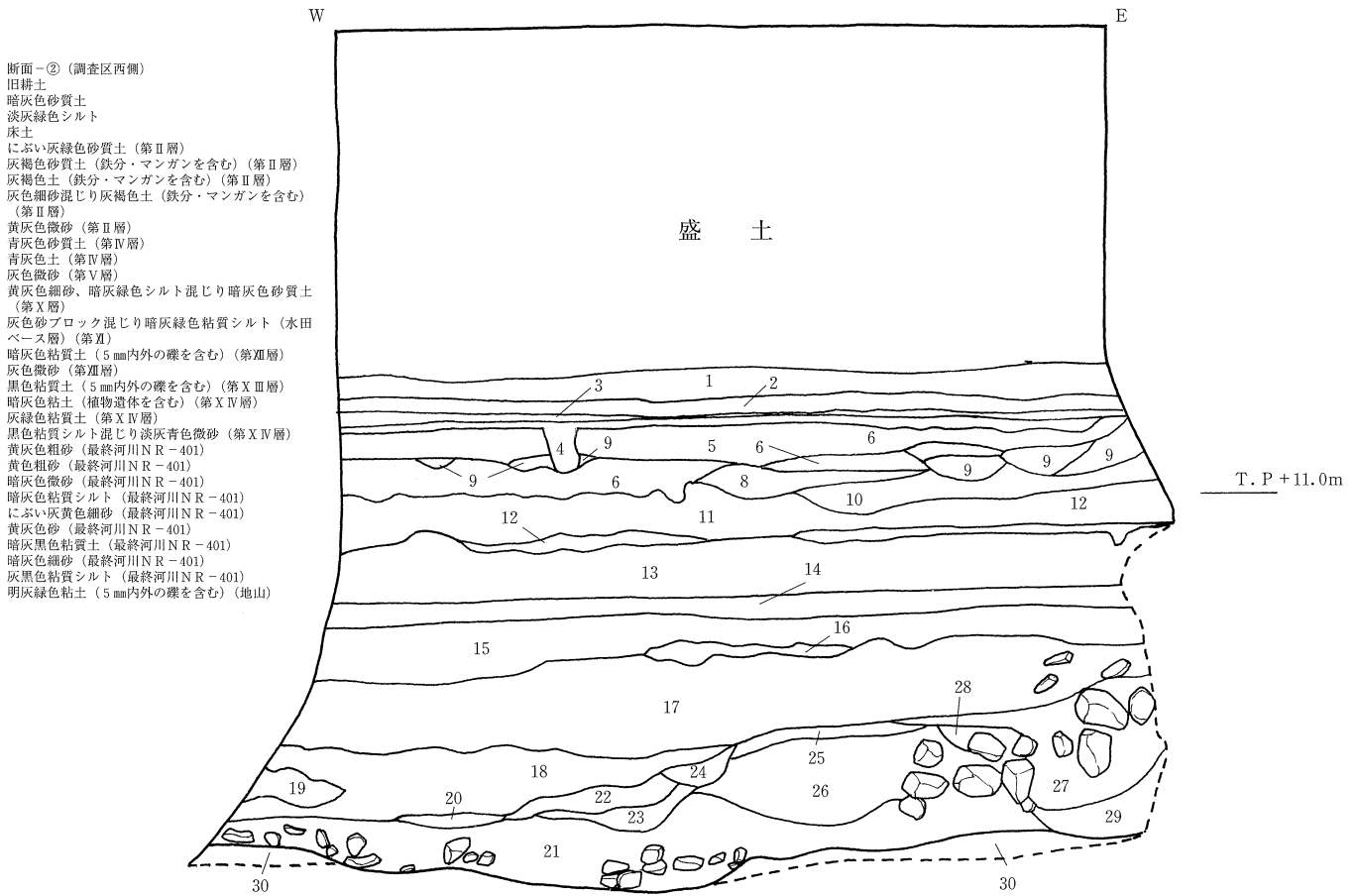


- セクション1 (西面断面)
- | | | | |
|--|---|--------------------------------|--------------------------------------|
| 1 におい灰黄色微砂 (NR-301①層) | 21 灰緑色微砂と黄褐色砂との混合層 (NR-301の層) | 41 淡灰青色微砂 | 61 黄灰色砂混じり黄灰色粗砂 (弥生以前河川) |
| 2 灰白色細砂 (NR-301①層) | 22 暗褐色粗砂 (NR-301の層) | 42 黄色微砂と白色微砂 (水平堆積層) | 62 暗灰色シルト、灰緑色シルト、灰黄色シルトの混合層 (弥生以前河川) |
| 3 灰褐色砂質土 (マンガンを含む) (NR-301①層) | 23 黄褐色粗砂と粗砂の混合層 (10~30cmの石多量) (NR-301の層) | 43 白色砂 | 63 灰黄色粗砂ブロックを含む白色微砂 (鉄分を含む) (弥生以前河川) |
| 4 灰色砂質土 (灰黄色微砂を含む) (鉄分・マンガンを含む) (NR-301①層) | 24 灰褐色粘質シルト (鉄分・マンガンを含む) (NR-301②層) | 44 灰白色粗砂 | 64 暗褐色粗砂 (NR-402) (弥生以前河川) |
| 5 淡黄灰色微砂 (鉄分・マンガンを含む) (NR-301①層) | 25 暗灰緑色粘質シルト (NR-301②層) | 45 灰褐色シルト (第Ⅲ層) | 65 淡灰青色粗砂 (NR-401) (弥生以前河川) |
| 6 淡灰緑色微砂 (鉄分・マンガンを含む) (NR-301①層) | 26 灰青色砂質土 (5mm内外の礫を含む) (NR-301③層) | 46 暗灰褐色土 (鉄分を含む) (第1遺構面ベース層) | 66 暗褐色粗砂 (弥生以前河川) |
| 7 灰白色粗砂混じりにおい黄灰色砂 (鉄分・マンガンを含む、沈着) (NR-301①層) | 27 黒灰色粘質土 (5mm内外の礫を含む) (NR-301③層) | 47 暗灰色土 (鉄分を含む) (第2遺構面ベース層) | |
| 8 淡灰緑色細砂 (鉄分を多量に含む) (NR-301①層) | 28 暗灰色砂質土 (5mm内外の礫を含む) (NR-301③層) | 48 白色砂 (締まっている) (第3遺構面ベース層) | |
| 9 緑灰色微砂 (NR-301①層) | 29 暗灰褐色シルト混じり暗緑灰色砂質土 (NR-301③層) | 49 淡灰緑色シルト (鉄分を含む) (第3遺構面ベース層) | |
| 10 におい黄灰色粗砂 (鉄分・マンガンを含む) (NR-301①層) | 30 暗灰色粗砂 (NR-301③層) | 50 淡灰黄色微砂 (第3遺構面ベース層) | |
| 11 暗褐色砂質土 (NR-301の層) | 31 灰色シルト (NR-301③層) | 51 灰緑色砂質土 | |
| 12 明褐色砂 (NR-301の層) | 32 暗灰色シルト (5mm内外の礫を含む) (NR-301③層) | 52 白色砂 | |
| 13 におい淡灰黄色微砂 (鉄分を若干含む) (NR-301の層) | 33 暗灰色微砂 (NR-301③層) | 53 白色微砂混じり緑灰色微砂 | |
| 14 灰黄色砂混じり灰オリーブ色微砂 (NR-301の層) | 34 灰色微砂混じり淡灰黄色微砂 (NR-301③層) | 54 におい緑灰色微砂 | |
| 15 灰黄色細砂 (NR-301の層) | 35 黒灰色粘質土 (NR-301③層) | 55 緑灰色シルト (鉄分を含む) | |
| 16 暗褐色砂 (黒い鉱物が入る) (NR-301の層) | 36 灰色微砂混じり暗灰色シルト (NR-301③層) | 56 白色砂 | |
| 17 暗褐色粗砂 (NR-301の層) | 37 灰緑色砂質土 (5mm内外の礫を含む) (NR-301③層) | 57 灰褐色砂質土 (遺構) | |
| 18 暗褐色砂 (黒い鉱物が入る) (NR-301の層) | 38 におい灰褐色砂質土 (5mm内外の礫を含む) (NR-301③層) | 58 暗灰色土 (鉄分、マンガンを含む) (遺構) | |
| 19 オリーブ灰色シルトブロック混じり灰色砂質土 (鉄分を含む) (NR-301の層) | 39 鈍い灰褐色シルト混じりにおい灰褐色砂質土 (5mm内外の礫を含む) (鉄分を含む) (NR-301③層) | 59 淡黄色微砂混じり淡灰緑色微砂 | |
| 20 淡灰緑色微砂、褐色粗砂の混合層 (NR-301の層) | 40 灰褐色シルト混じり灰褐色砂質土 (5mm内外の礫を含む) (鉄分を含む) (NR-301③層) | 60 灰色微砂 | |

第6図 セクション①断面図



第7図 調査区東壁断面図



第8図 調査区北壁断面図(1)

第2節 第1遺構面

今回の調査地は、平成6年に鍋田川が改修工事により流路が変更される以前の旧流域であったためそのほとんどが旧河川の痕跡であったが、調査地北東部において僅かに遺構を確認することができたものである。基本層序第Ⅵ層をベース面として土坑、ピット、鋤溝などを検出した。標高はT. P. +11.7m前後を測る。

1. 土坑

S K - 101

C 9 ~ D 9 区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、規模は明らかにし得ないが、深さは約0.07mを測る。埋土は1層で灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

S K - 102

D 9 区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.7m、短径約1.0m、深さ約0.07mを測る。埋土は1層で灰黄色シルトである。遺物は土師器が出土している。

S K - 103

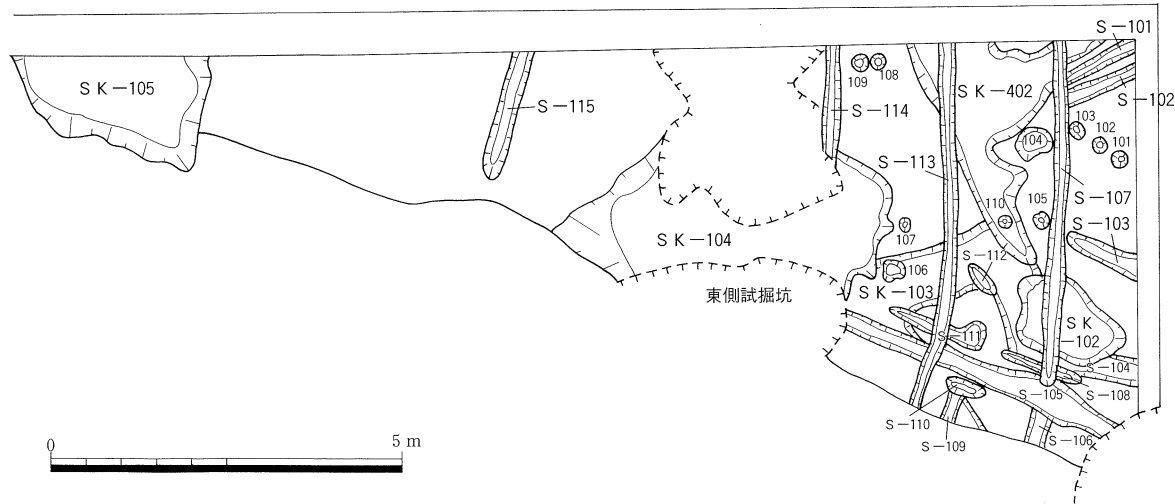
D 9 区で検出した。形態は不定形を呈し、規模は明らかにし得ないが、深さは約0.16mを測る。埋土は1層で灰褐色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、陶器などが出土している。

S K - 104

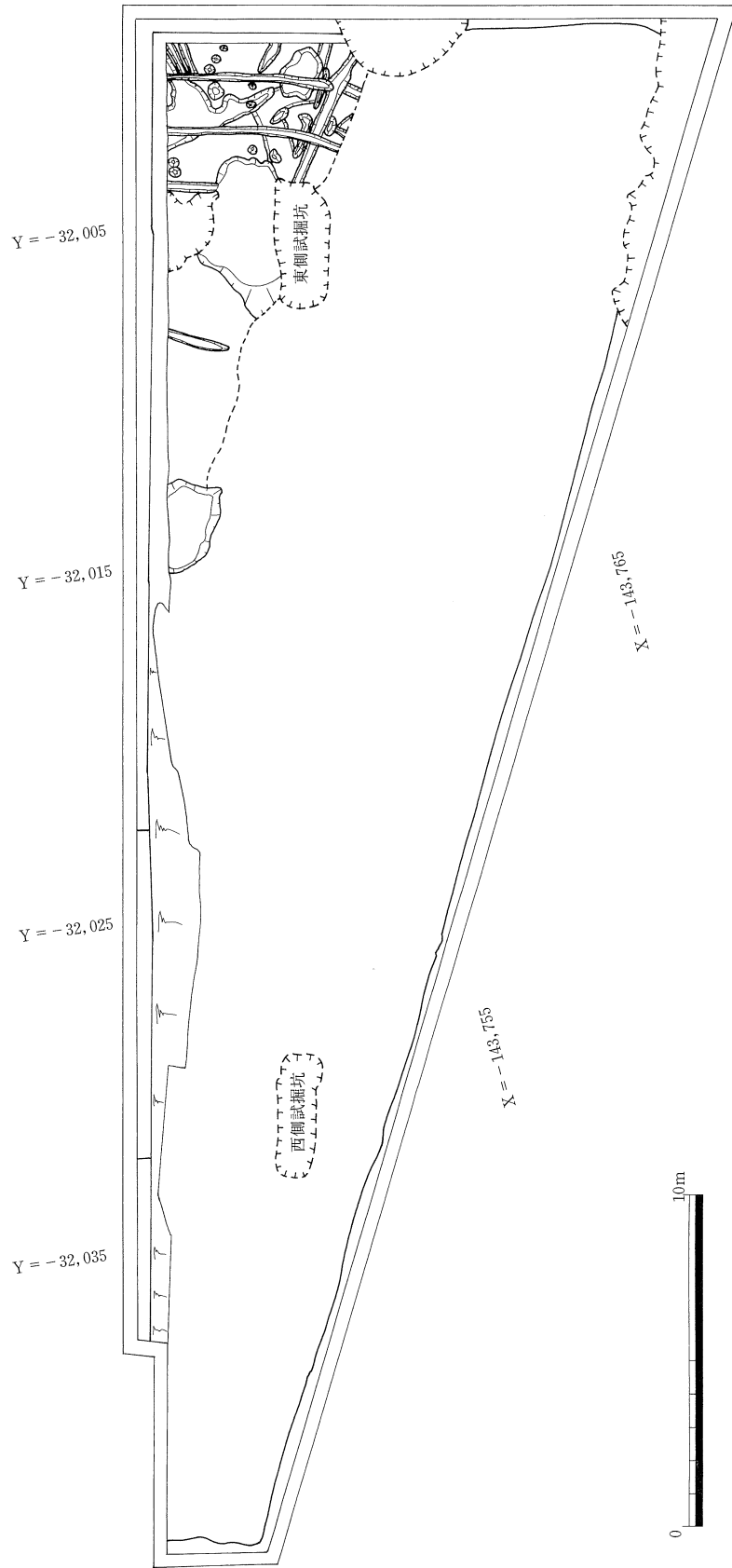
C 8、D 8 ~ 9 区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、規模は明らかにし得ないが、深さは約0.07mを測る。埋土は6層で灰色系のシルト、砂が主体をなす。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、陶器、染付磁器、瓦などが出土している。

S K - 105

C 7 区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約2.75m、短径約1.65m、深さ約0.07mを測る。埋土は3層で灰色系のシルト、砂が主体をなす。遺物は土師器、須恵器、陶器、染付磁器、瓦などが出土している。



第9図 第1遺構面遺構配置図



第10図 第1遺構面全体図

2. ピット

10基を検出した。建物を構成できるものは確認し得なかった。形態は概ね円形を呈し、規模は概ね径0.3m前後、深さ0.1～0.2mを測るものが主体をなす。埋土についても1層で灰緑色シルト～砂質土が主体をなす。遺物は土師器などが出土している。

3. 鋤溝

15条を検出した。概ね旧河川に平行あるいは垂直に走るものである。規模は概ね幅0.3m前後、深さは0.05m前後を測るものが主体をなす。埋土についても1層で淡灰緑色シルト～砂質土が主体をなす。

遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、陶器などが出土している。

4. その他

旧河川の川床から枡状の形態を呈する落込みを検出し、一部に石積み、円形の筒状の木樋が確認された。近世以降に比定されるものであるが、ある時期において取水などが行われていたと考えられる。

第3節 第2遺構面

第1遺構面と同様の状況であったため調査地の北東部で僅かに遺構を確認したものであり、基本層序第Ⅶ層をベース面として土坑、落ちこみ状遺構、鋤溝を検出した。標高はT. P. +11.6前後を測る。

1. 土坑

S K - 201

D 9区で検出した。形態は不定形で段状を呈するものである。規模は最大長約3.35m、最大幅約2.4m、深さ約0.22mを測る。埋土は1層で暗緑灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、石錘などが出土している。

S K - 202

C 8～9区、D 8～9区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、規模は明らかにし得ないが、深さは約0.12mを測る。埋土は1層で灰褐色シルトである。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器が出土している。

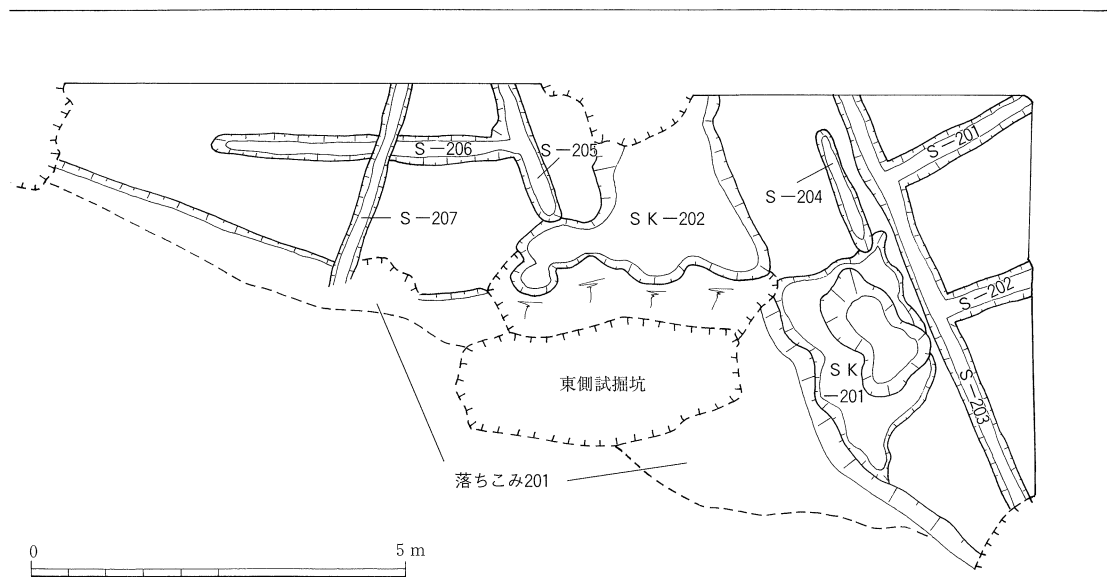
2. 落ちこみ状遺構

落ちこみ201

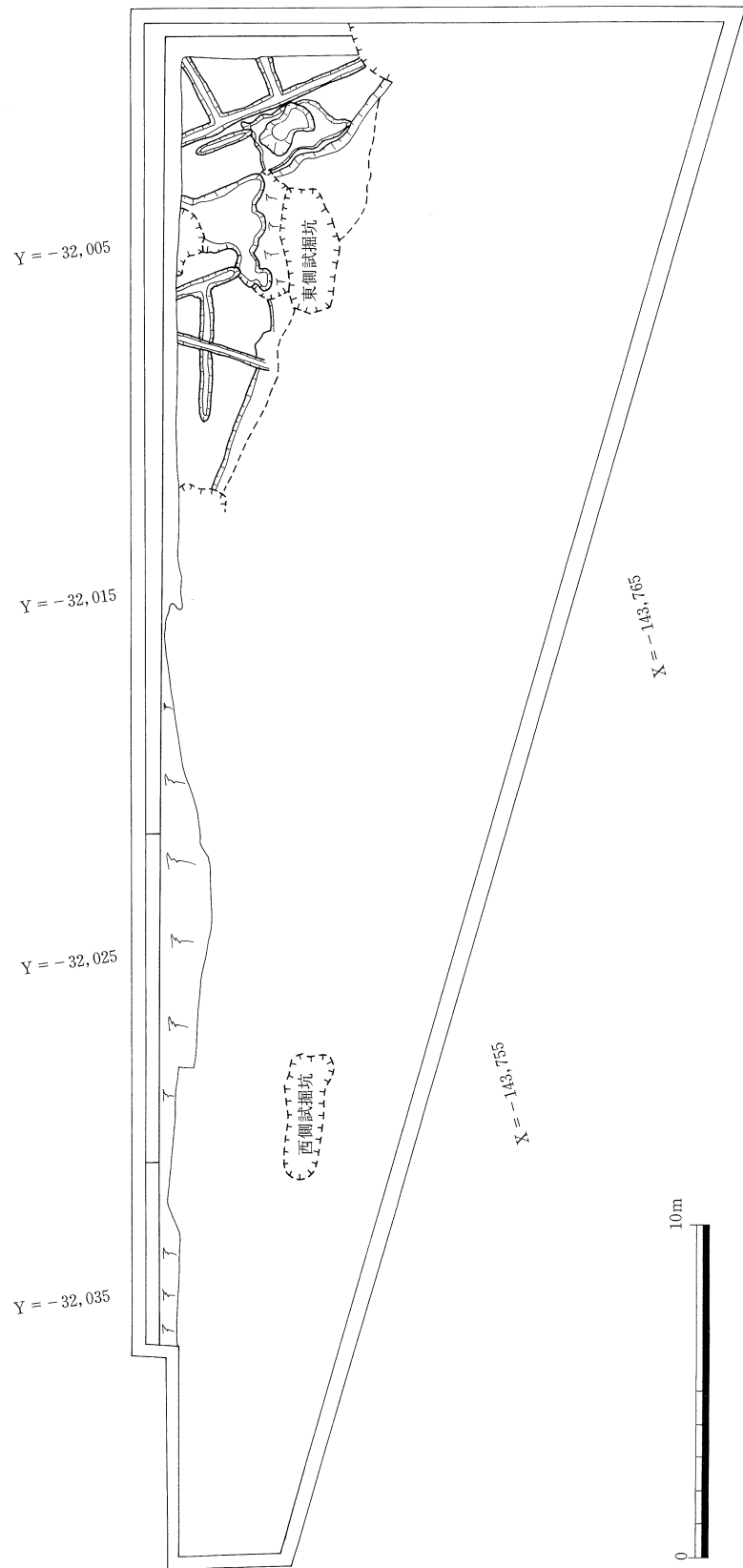
C 7区、D 8～9区、E 9区にかけて検出したもので、南側の旧河川に沿って落込んでいく状況であり、ある時期における河川の肩部の可能性も考えられる。形態・規模は明らかにし得ないが、最大深で0.36mを測る。埋土は5層で灰色系の砂、シルトが主体をなす。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器などが出土している。

3. 鋤溝

7条を検出した。概ね東西南北に走るものである。規模は概ね幅0.35m前後、深さは0.1m前後を測るものが主体をなす。埋土はほぼ1層で褐色系の粗砂、シルトが主体をなす。遺物は土師器、須恵器などが出土している。



第11図 第2遺構面遺構配置図



第12図 第2遺構面全体図

第4節 第3遺構面

調査地北東部では第1、2遺構面と同様の状況で僅かに遺構面が残されている状況で、基本層序第XV層をベース面として溝、土坑、ピットを検出し、調査地南側ではほぼ全域にわたって旧河川の時期をさらに遡る自然河川を検出した。また、時期は異なるが自然河川の肩部から川床にかかる部分で土器群も検出している。なお、調査地北東部での遺構面の標高はT.P.+11.5m前後を測る。

1. 溝

SD-301

C8～D8区にかけて検出したほぼ南北方向に走る溝である。規模は幅約0.45m、深さ約0.13mを測る。埋土は1層で暗灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SD-302

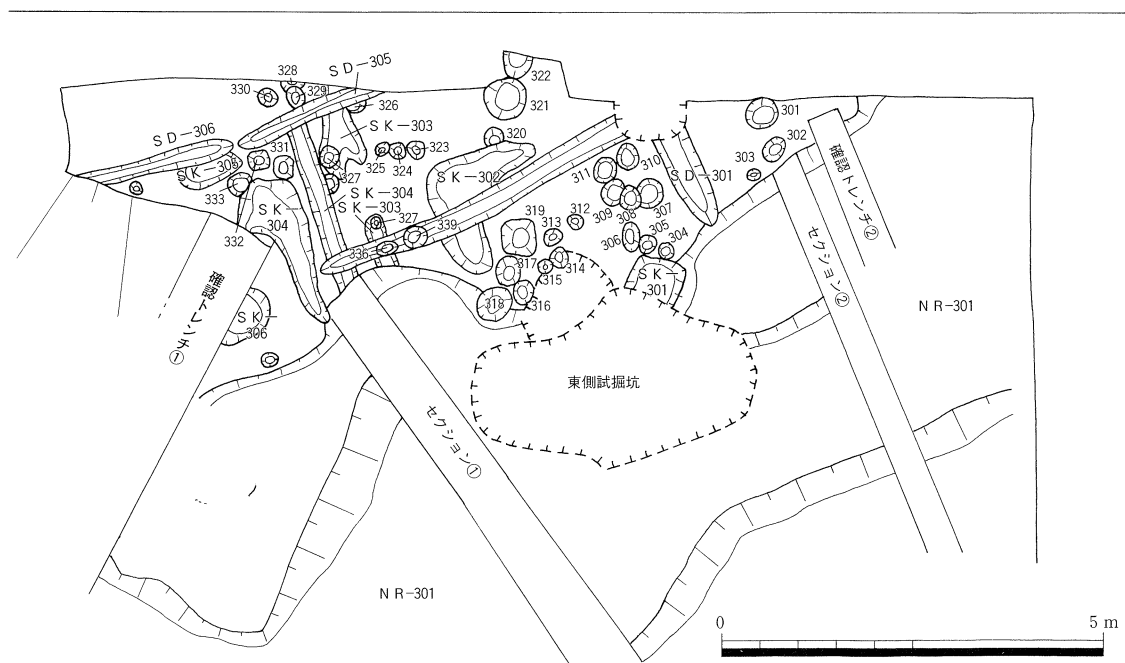
C8区で検出したほぼ東西方向に走る溝である。規模は幅約0.35m、深さ約0.11mを測る。埋土は3層で黒灰色砂質土、灰黄色シルト、黒灰色粘質土である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器などが出土している。

SD-303

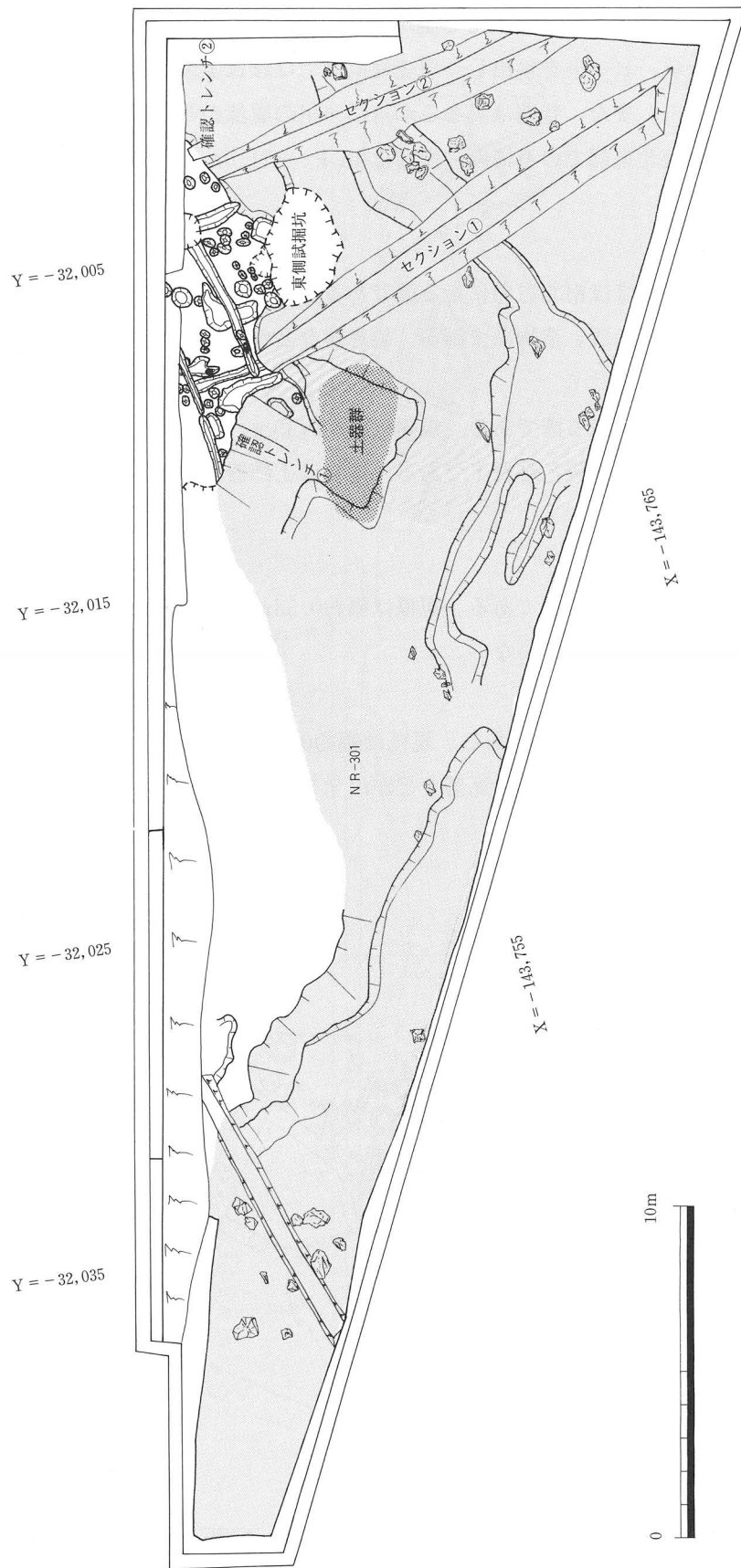
C8区で検出したほぼ南北方向に走る溝である。規模は幅約0.35m、深さ約0.09mを測る。埋土は1層で暗灰色砂質土である。遺物は出土していない。

SD-304

C8区で検出したほぼ南北方向に走る溝である。規模は幅約0.3m、深さ約0.11mを測る。埋土は1層で灰黒色土である。遺物は土師器、須恵器、瓦器などが出土している。



第13図 第3遺構面北東部遺構配置図



第14図 第3遺構面全体図

S D - 305

C 7 ~ 8 区にかけて検出したほぼ東西方向に走る溝である。規模は幅約0.25m、深さ約0.05mを測る。埋土は1層で淡灰黄色シルトである。遺物は土師器、瓦器などが出土している。

S D - 306

C 7 区で検出したほぼ東西方向に走る溝である。規模は幅約0.3m、深さ約0.09mを測る。埋土は1層で暗灰褐色砂質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

2. 土坑

S K - 301

D 8 区で検出した。形態・規模は試掘坑に切られているため明らかでないが深さは約0.04mを測る。埋土は1層で茶褐色砂質土である。遺物は土師器、瓦器などが出土している。

S K - 302

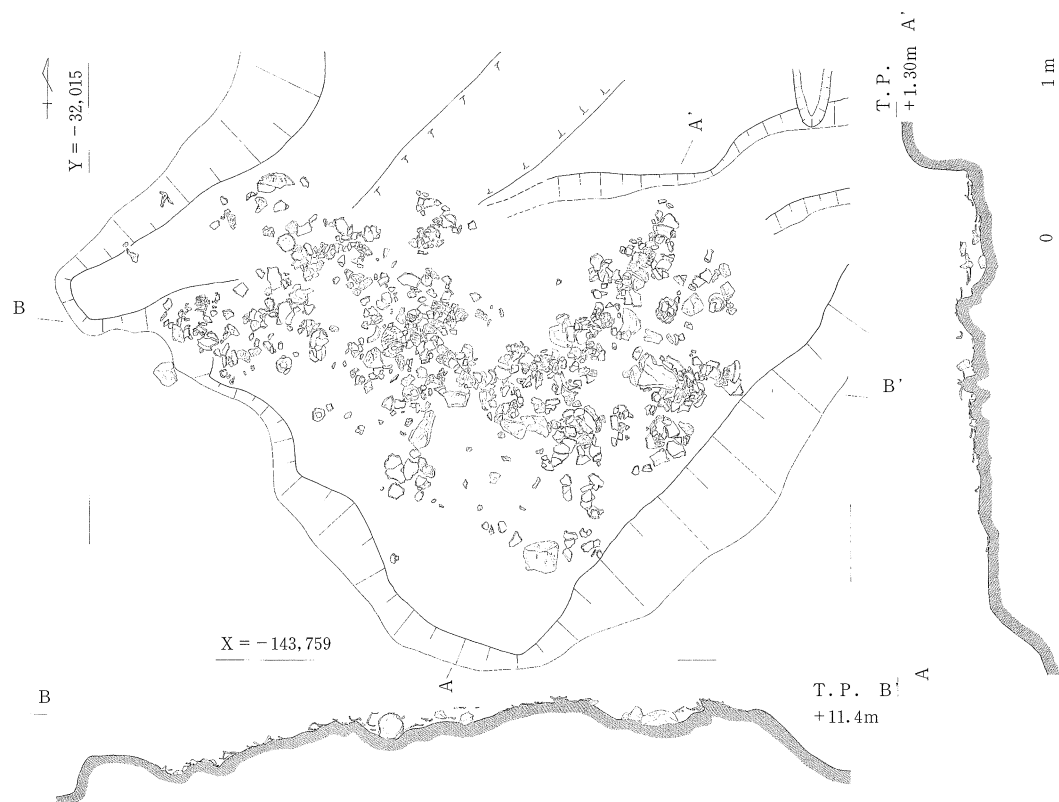
C 8 ~ D 8 区にかけて検出した。形態は不定形を呈する。規模は最大長約1.6m、最大幅約1.6m、深さ約0.16mを測る。埋土は2層で灰緑色シルト混黒灰色土、黒灰色土・灰緑色シルト、灰黄色微砂の混合層である。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦などが出土している。

S K - 303

C 8 区で検出した。形態・規模は調査地外に広がるため明らかでないが深さは約0.15mを測る。埋土は1層で灰緑色シルト混黒灰色土である。遺物は土師器、黒色土器A・B類、瓦器などが出土している。

S K - 304

C 7 ~ D 7 区にかけて検出した。形態は不定形を呈する。規模は最大長約2.15m、最大幅約0.9m、



第15図 土器群出土状況図

深さ約0.16mを測る。埋土は1層で暗灰褐色土である。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦などが出土している。

SK-305

C7区で検出した。形態・規模はSD-306に切られているため明らかでないが深さは約0.18mを測る。埋土は1層で暗灰色シルトである。遺物は瓦器などが出土している。

SK-306

C7～D7区にかけて検出した。形態・規模は確認トレンチに切られているため明らかでないが深さは約0.11mを測る。埋土は2層で灰緑色シルト、黄褐色粗砂である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

3. ピット

39基を検出した。建物を構成できるものは確認し得なかった。形態は概ね円形を呈し、規模は径約0.18～0.6m、深さ約0.15～0.6mを測るものが主体をなす。埋土についても1層で灰色系のシルト～土が主体をなす。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦などが出土している。

4. 自然河川

NR-301

調査地南半部全域において検出した。形態・規模は調査地外に広がるため明らかにし得ないが、深さは最大で約1.5mを測る。埋土は河川跡であるため煩雑であるが総じて灰～褐色系のシルト、砂、粗砂などが主体をなす。遺物についても大量に出土する状況であり、また0.3～0.7m大の花崗岩の転石も見受けられた。この河川についても当然、西流するものであるが、東端と西端の高低差は約1.9mを測るものであった。

5. 土器群

D7区において一辺約3.8mを測るほぼ方形に突き出たテラス状を呈した部分に集積するものである。弥生時代後期の土器類を中心にまとまって出土するもので、当該期における河川の浅瀬または川岸において何らかの意図的行為の状況を窺わせるものである。

第5節 第4遺構面

基本層序をすべて除去した状態で、土坑、自然河川を検出したものである。

1. 土坑

S K - 401

B 4～C 4区にかけて検出した。平面的には後述するS K - 402と繋がる状況であるため溝状の様相を呈するが断面形態を考慮しここでは土坑と捉えた。形態は不定形を呈し、最大長約6.1m、最大幅約3.8m、深さ約1.3mを測る。埋土は12層で、緑灰色系のシルト、灰色系の砂、粘質シルトが主体をなす。遺物は弥生土器、土師器、土製品、サヌカイトなどが出土している。

S K - 402

A 3～4区、B 3～4区にかけて検出した。S K - 401と同様に平面的には溝状の様相を呈するが断面形態を考慮し同じく土坑と捉えた。形態は調査地外に広がるため明らかにし得ないが、最大長約4.8m、最大幅約3.0m、深さ約1.1mを測る。埋土は11層で、灰色系の粘質シルトが主体をなす。遺物は土師器、石製品などが出土している。

2. 自然河川

N R - 401

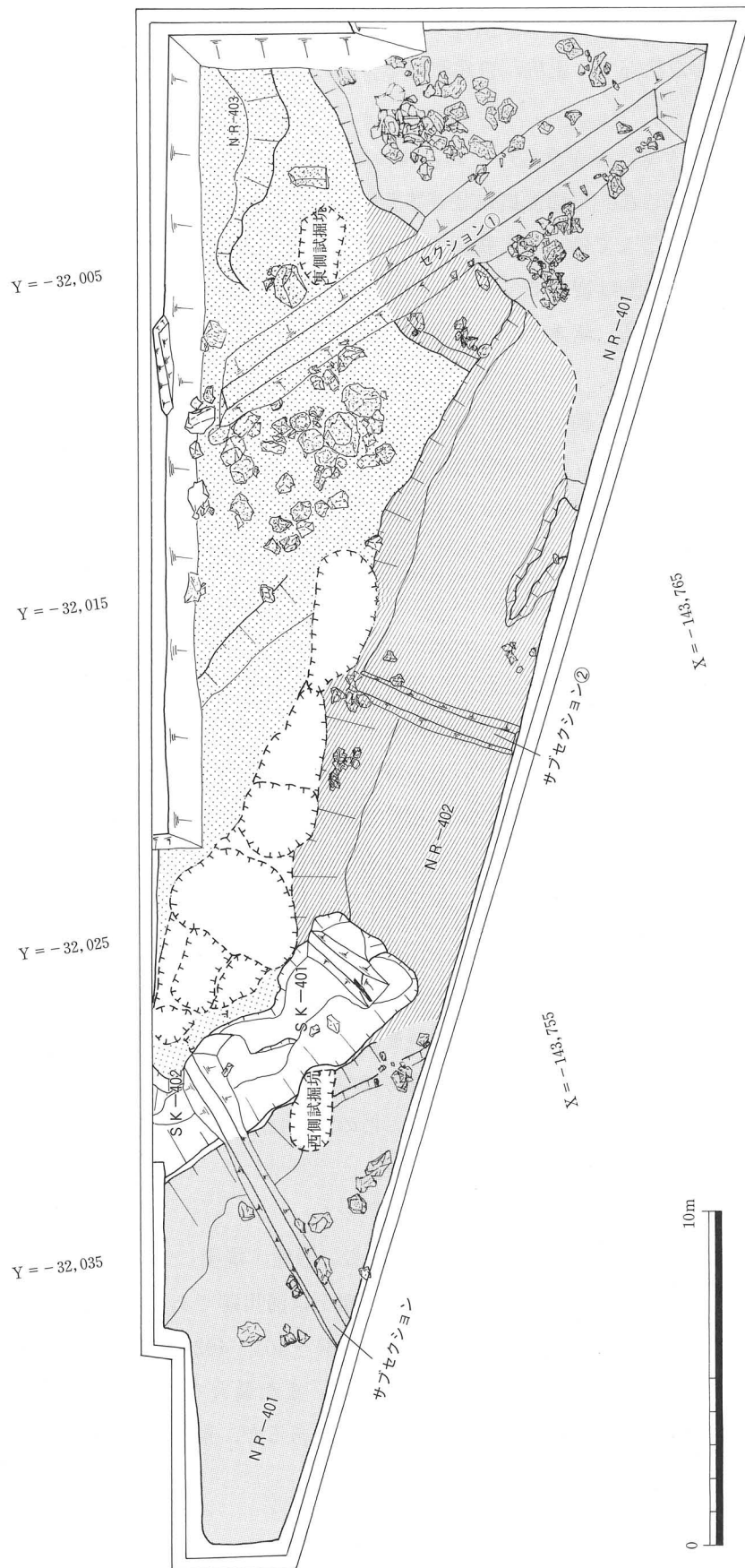
調査地の南東部および西部において検出した。形態・規模については調査地外に広がるため明らかにし得ないが、深さは最大で約1.37mを測る。埋土は河川跡であるため煩雑であるが総じて灰～黄色系のシルト、砂、粗砂などが主体をなす。遺物についても多量に出土する状況で土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、緑釉陶器、輸入陶磁器、瓦、石製品、金属製品などが出土している。また約0.3～0.5m大の花崗岩の転石も見受けられた。この河川についても当然、西流するものであるが、東端と西端の高低差は約1.1mを測るものであった。

N R - 402

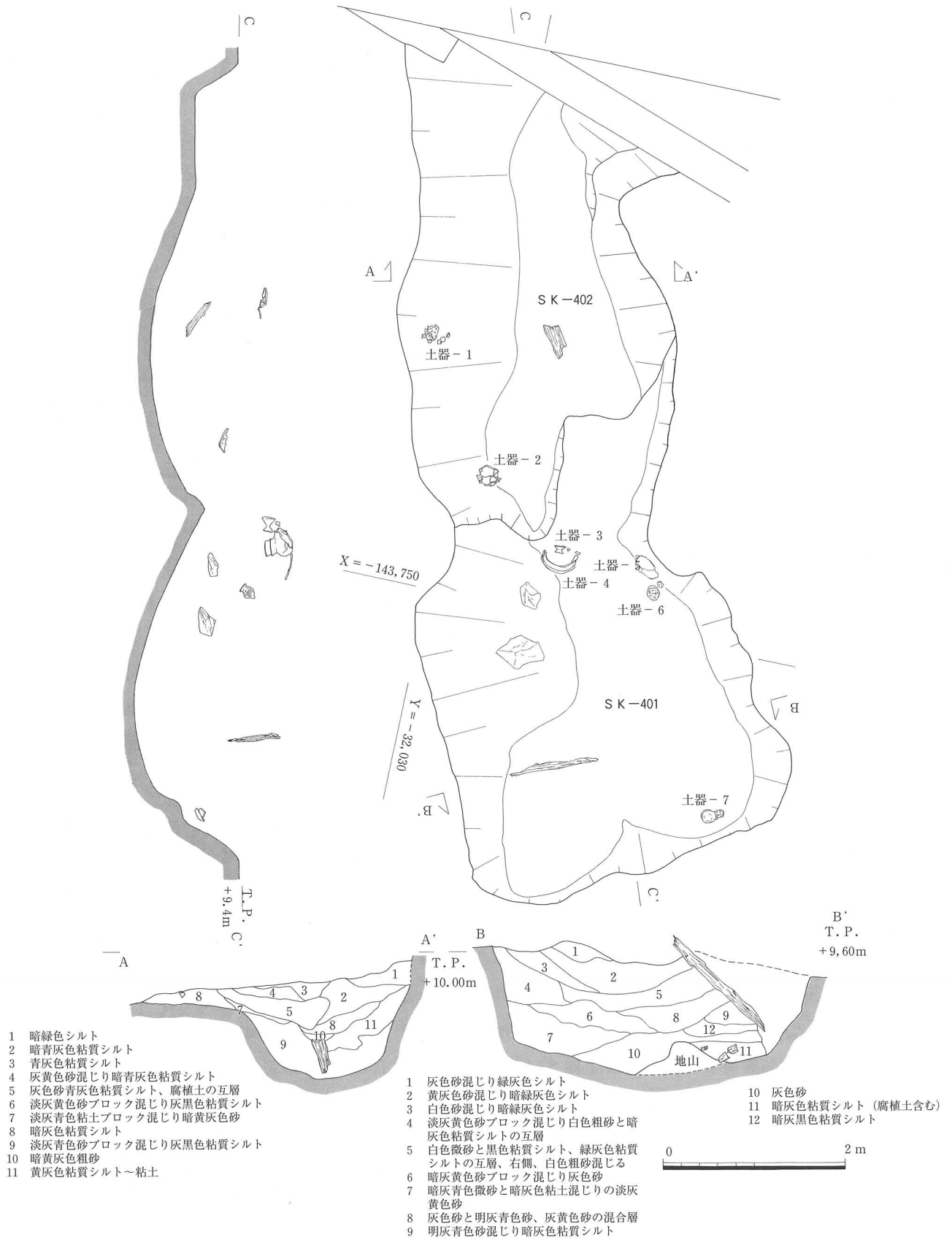
調査地の南側中央部において検出した。N R - 401に切られる。形態・規模については調査地外に広がるため明らかにし得ないが、深さは最大で約0.39mを測る。埋土は河川跡であるため煩雑であるが総じて灰白～灰黄色系の砂、粗砂などが主体をなす。遺物についても多量に出土する状況で弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器、石製品などが出土している。この河川についても当然、西流するものであるが、東端と西端の高低差は約0.58mを測るものであった。

N R - 403

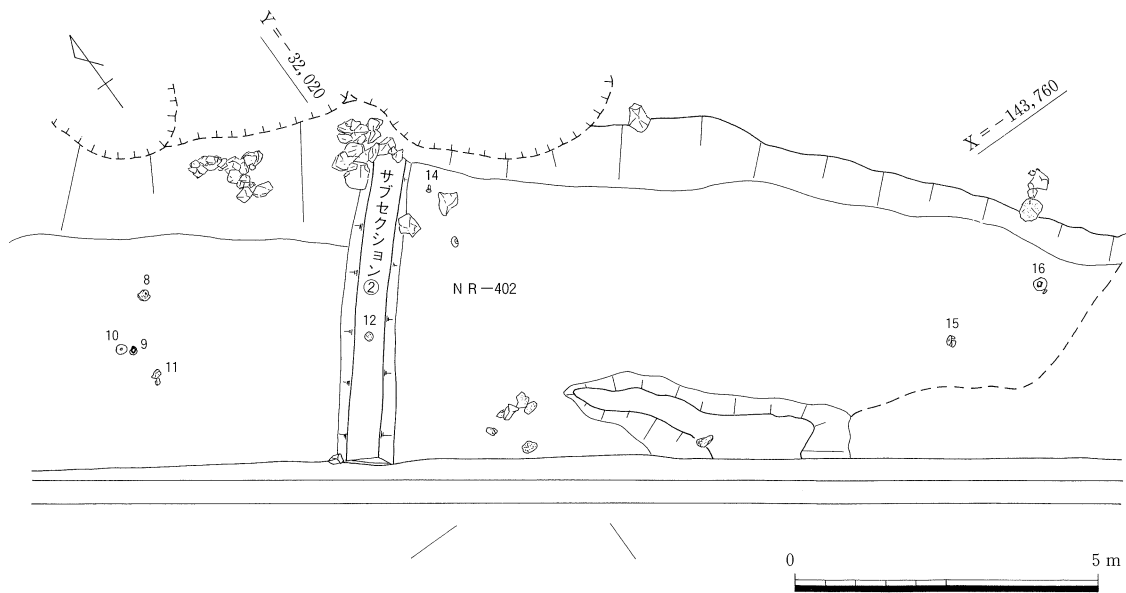
調査地の北東部において検出した。N R - 402に切られる。形態・規模については調査地外に広がるため明らかにし得ないが、深さは最大で約1.26mを測る。埋土は河川跡であるため煩雑であるが総じて灰～褐色系の砂、粗砂などが主体をなす。遺物についてはN R - 401・402に比較すると格段に少なくなるが、縄文土器、弥生土器、サヌカイトなどが出土している。また最大で約1.2m大の花崗岩の転石も多く見受けられた。この河川についても当然、西流するものであるが、東端と西端の高低差は約0.41mを測るものであった。



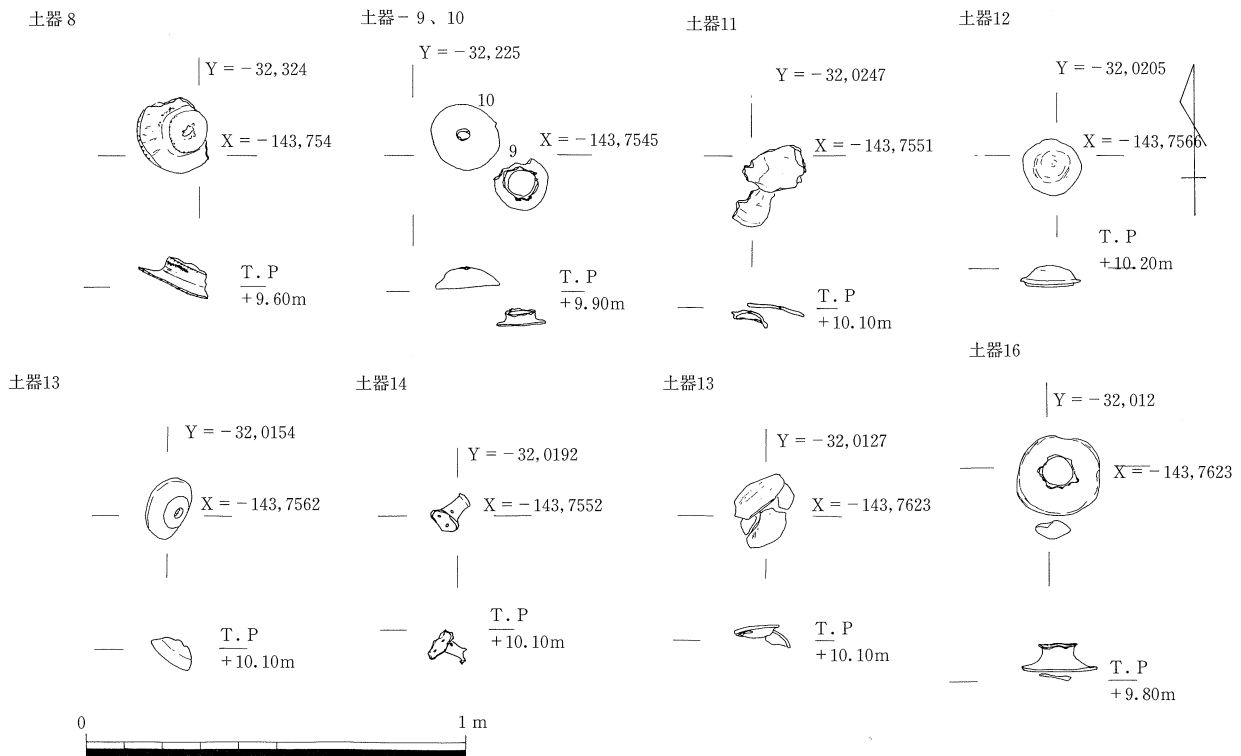
第16図 第4遺構面全体図



第17図 SK-401、402平・断・遺物出土状況図



第18図 NR-402遺物出土状況図



第19図 NR-402各土器出土状況図

第5章 まとめ

今回の調査では4面の遺構面を確認し、それぞれにおいて遺構の検出、および多彩な遺物が出土し、鍋田川遺跡の様相を把握するうえで貴重な成果をあげることができた。以下、各遺構面の成果について概括することでまとめとしたい。

[第1遺構面]

第1遺構面においては調査区のほとんどが河川改修される以前の旧河川であったため、その北東部においてわずかに確認されたもので、鋤溝を主体とするものであった。時期的には近世以降であり、当時の河川との関係性は明らかにし得ないが、周辺の調査成果と同様に耕作地であったことが窺われる。

[第2遺構面]

検出状況としては第1遺構面とほぼ同様の状況を示すもので、鋤溝を主体とするものであった。時期的には中～近世にかけて比定されるものである。これまでの鍋田川遺跡での既往の調査、また隣接する中垣内遺跡や元粉遺跡などの調査成果においてもほぼ同様の状況を示すことから、その様相について再認識させるものであった。

[第3遺構面]

この遺構面では中世の時期に比定される自然河川や、中世の集落跡の存在を想定させるピット群などが検出された。集落跡を想定させる成果としては、北に隣接する平成5年度実施の大阪府教育委員会の調査において若干の成果が窺えるものの、その北側に隣接する平成元年度実施の大東市教育委員会の調査（NB T89-1）や、北側約120mに位置する平成4年度実施の調査（NB T92-1）においてはその痕跡をほとんど認めることが出来なかったため、集落という性格で捉えるには難があるように思える。今回の集落的状況を呈する様相については河川周辺において何らかの人為的営みが行われた積み重ねの結果であると捉えておきたい。

また、この面では弥生時代後期の土器群がテラス状を呈した場所に集積する状況であったが、何らかの祭祀的行為を示唆するものと思われる。今後の類例の増加に期待し今後の検討課題としたい。

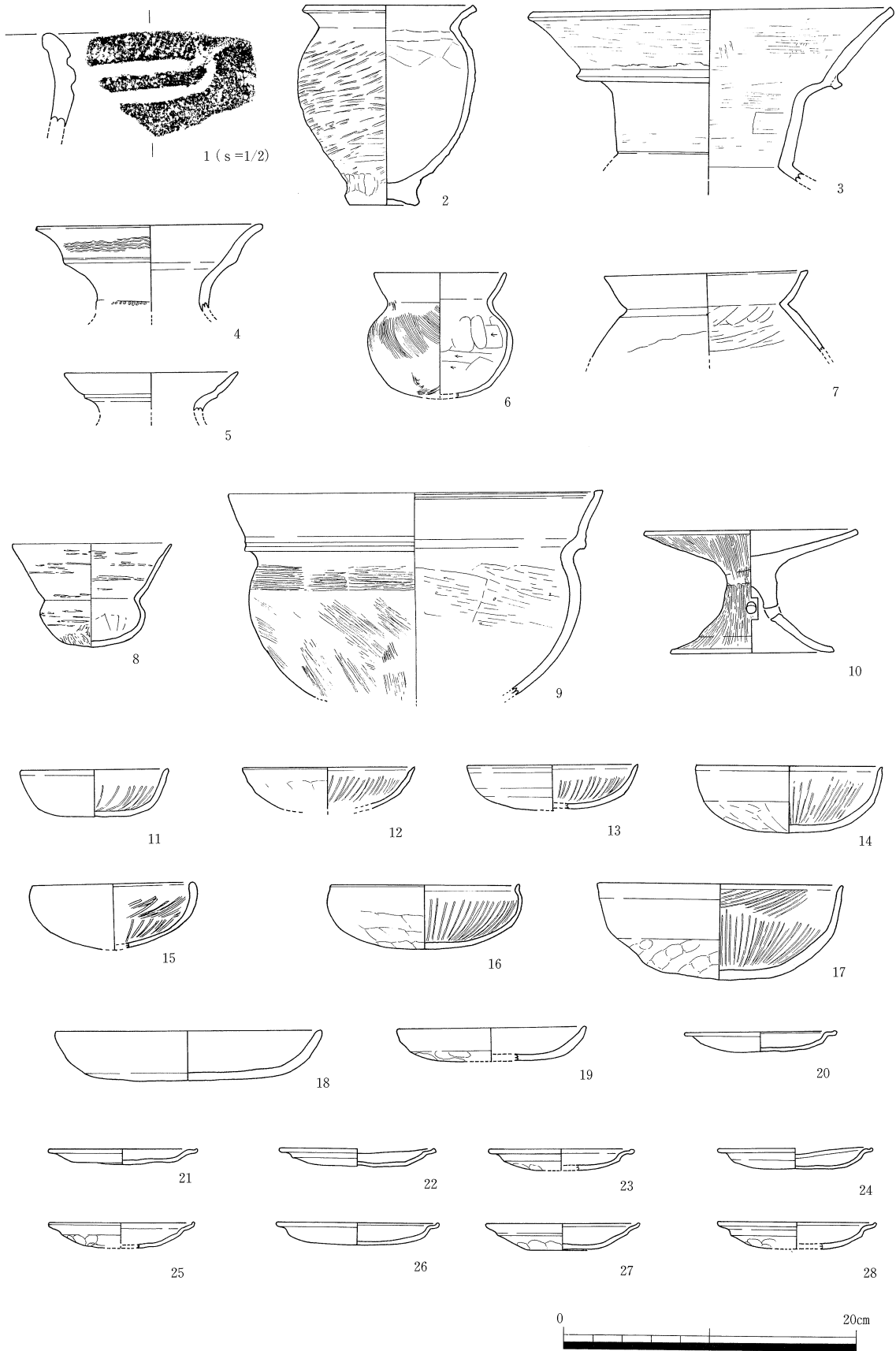
[第4遺構面]

この遺構面では調査区全域において自然河川跡を検出する状況であったが、切りあい関係が比較的明瞭であったため、3時期の河川跡を確認することができた。時期的にはNR-401が奈良～平安時代、NR-402が概ね古墳時代、NR-403が弥生時代以前に比定できるもので、この状況は時期により河川の流路が大きく変遷していたことを明確にするものである。また、古墳時代前期に比定される土坑が検出されているが、性格については明らかにし難く、現在のところ井戸的な性格の可能性を想定しておきたい。

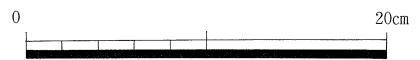
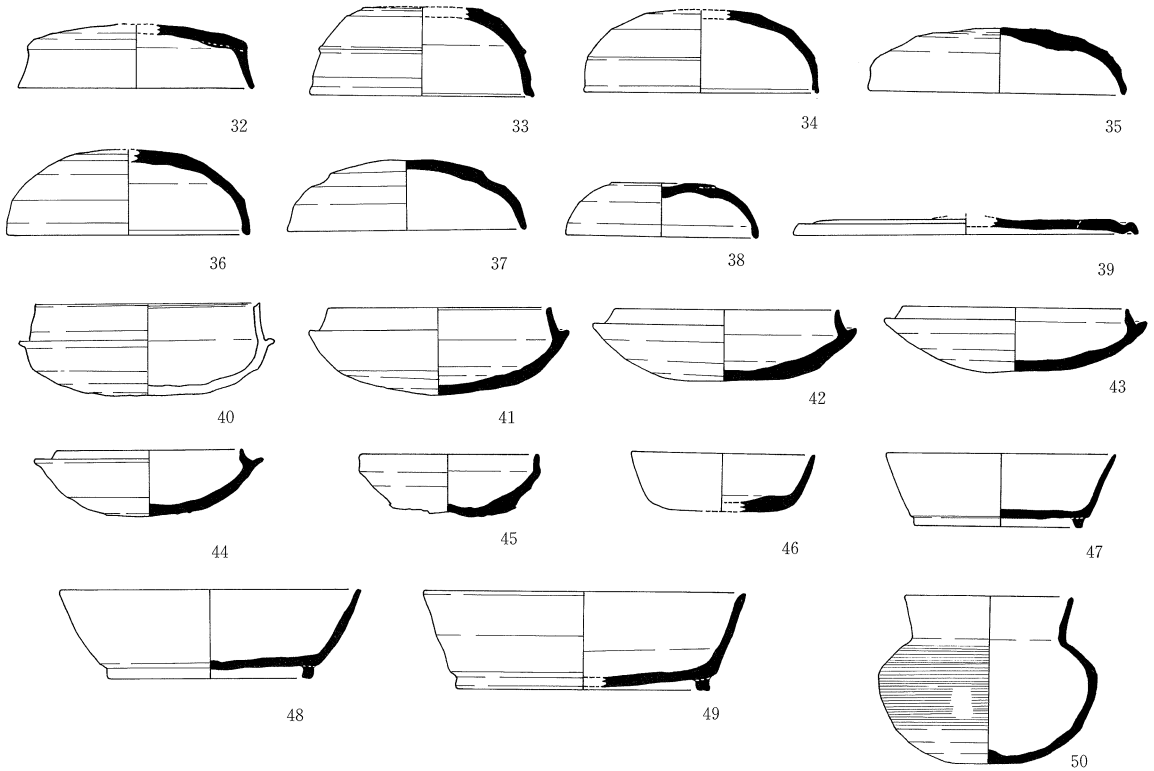
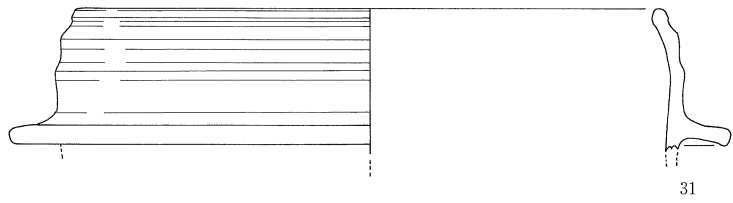
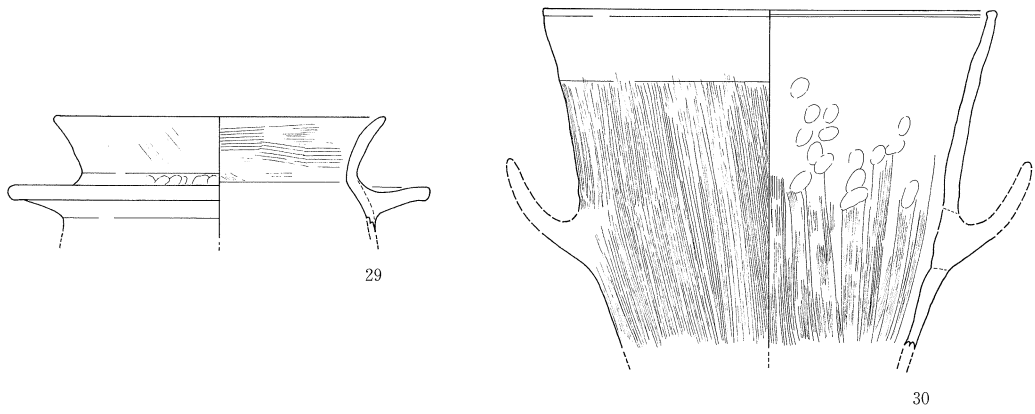
遺物で特筆すべきものとしてはNR-401から銚帯（巡方）と釵子を思わせる金属製品が出土しており、周辺において通常の集落跡ではなく官衙等の存在を想定させるものである。北側に隣接する寺川遺跡では「白麻呂」銘の墨書土器が出土しており、今回の出土はその可能性をさらに高めるものと思われる。

以上、今回の調査では自然河川の変遷を成果の中心とするものであったが、各時代の多彩な遺物の出土から鍋田川周辺地域では人々の営みが綿々に行われてきたことを明らかにするものであった。それが川と密接な関係があったことは言うまでもないであろう。

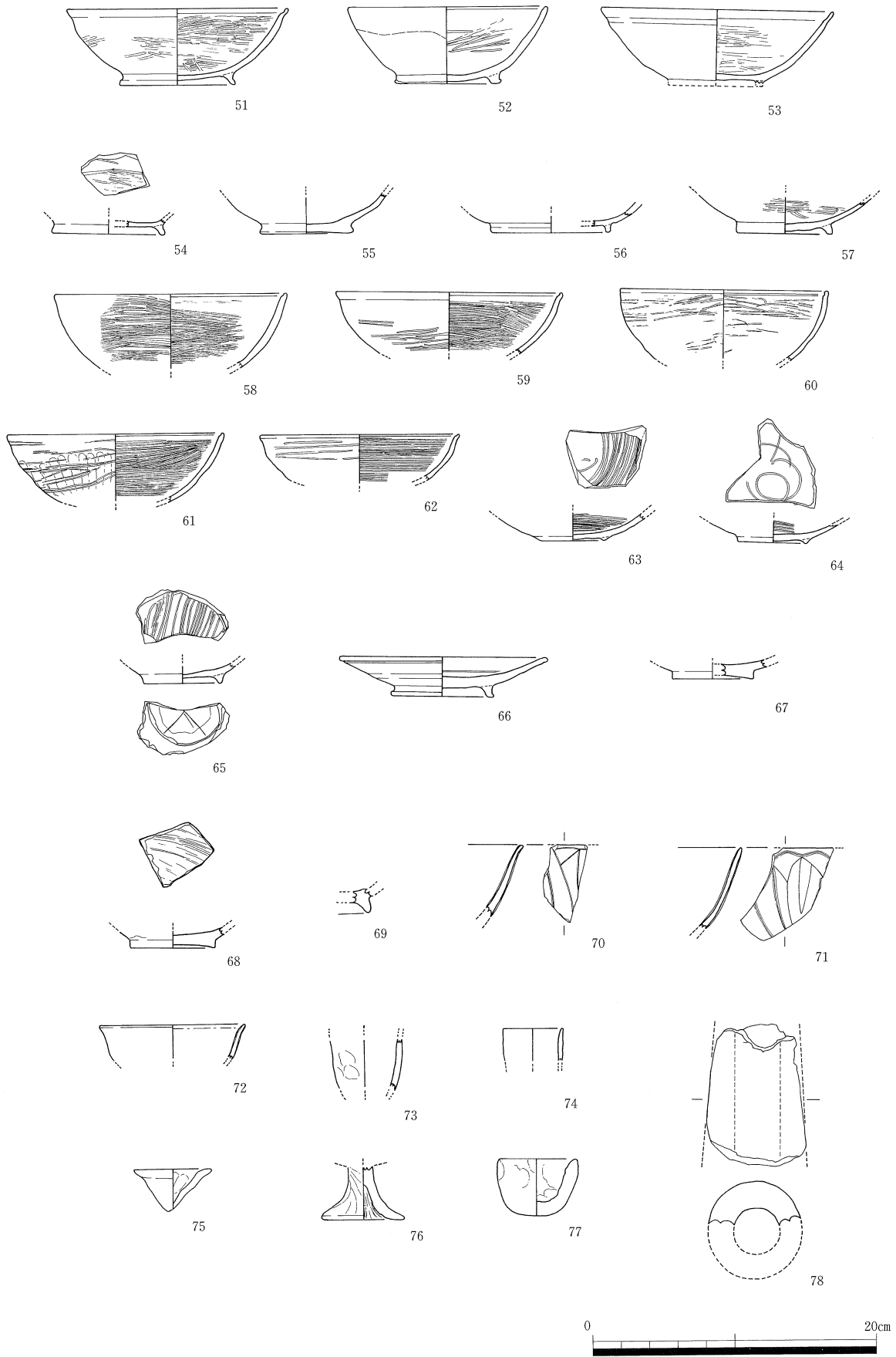
出土遺物実測図・一覧表



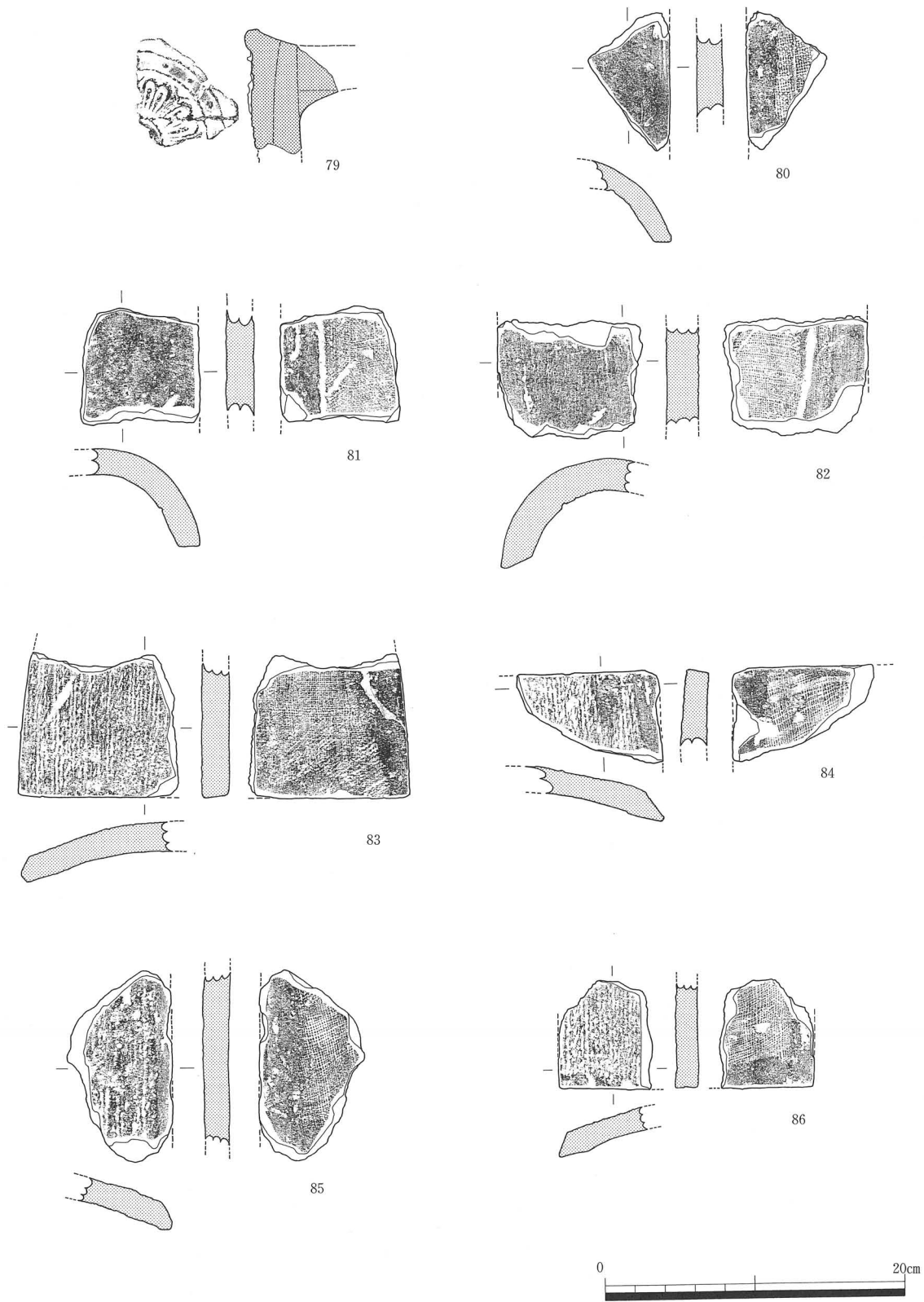
第20图 NR-301出土遺物(1)



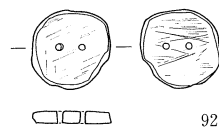
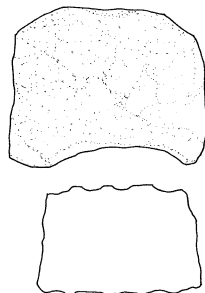
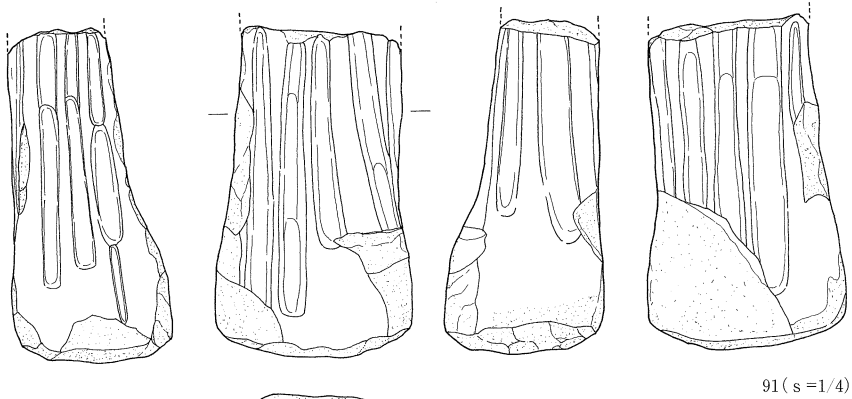
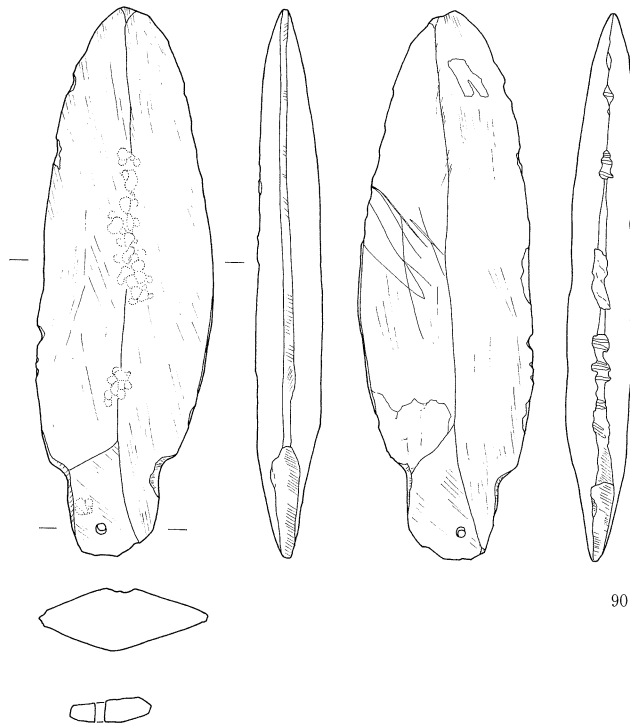
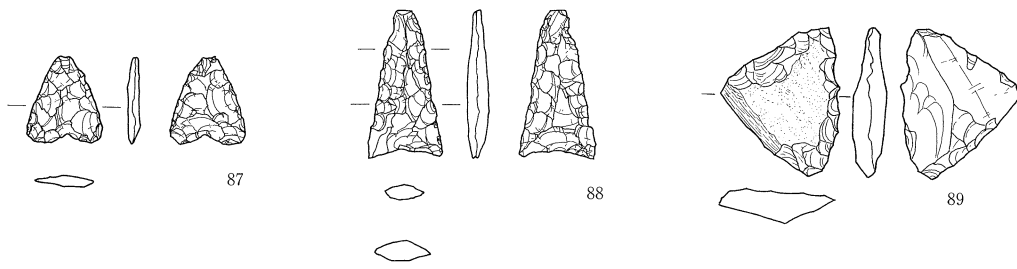
第21図 NR-301出土遺物(2)



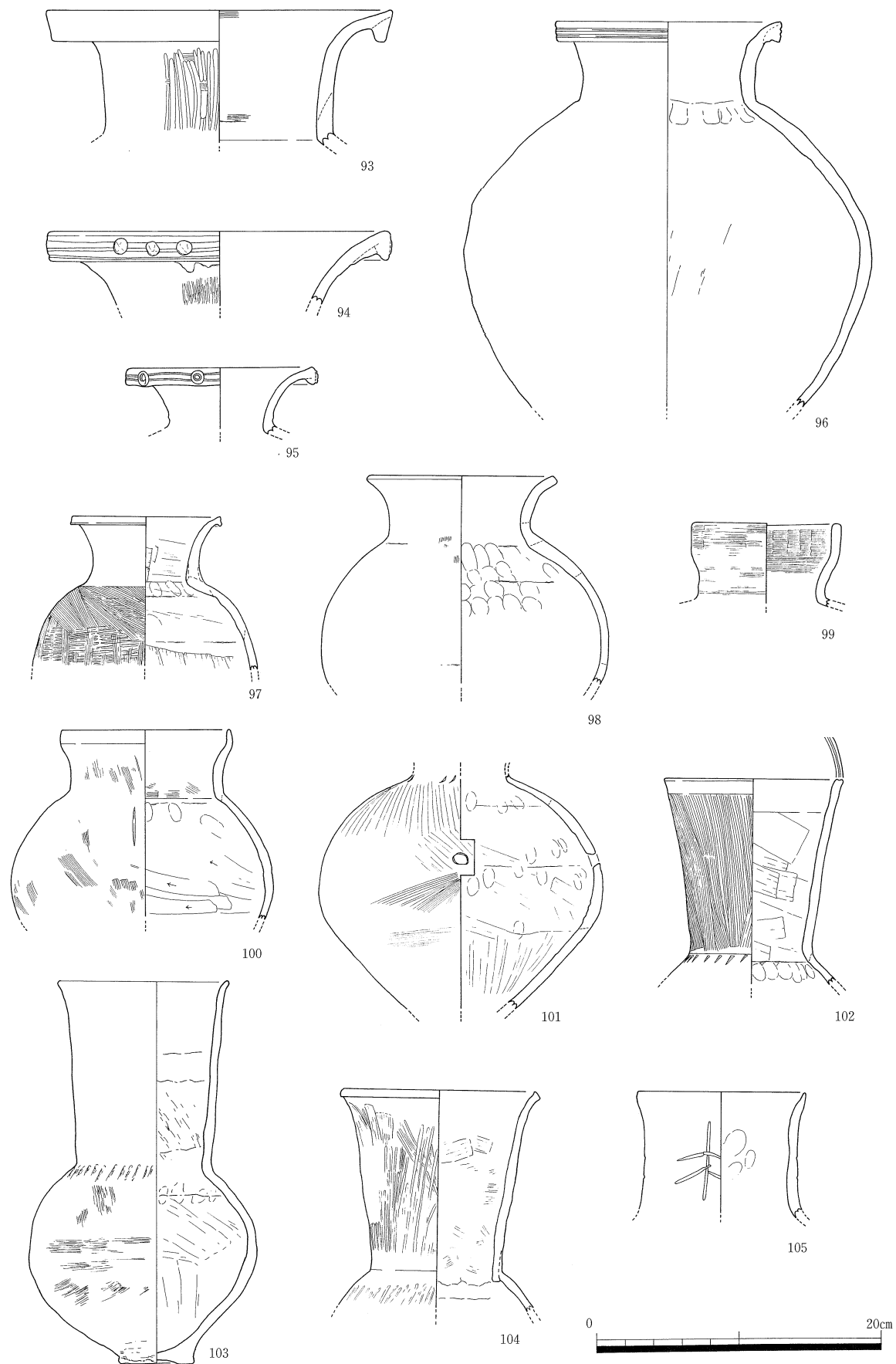
第22図 NR-301出土遺物(3)



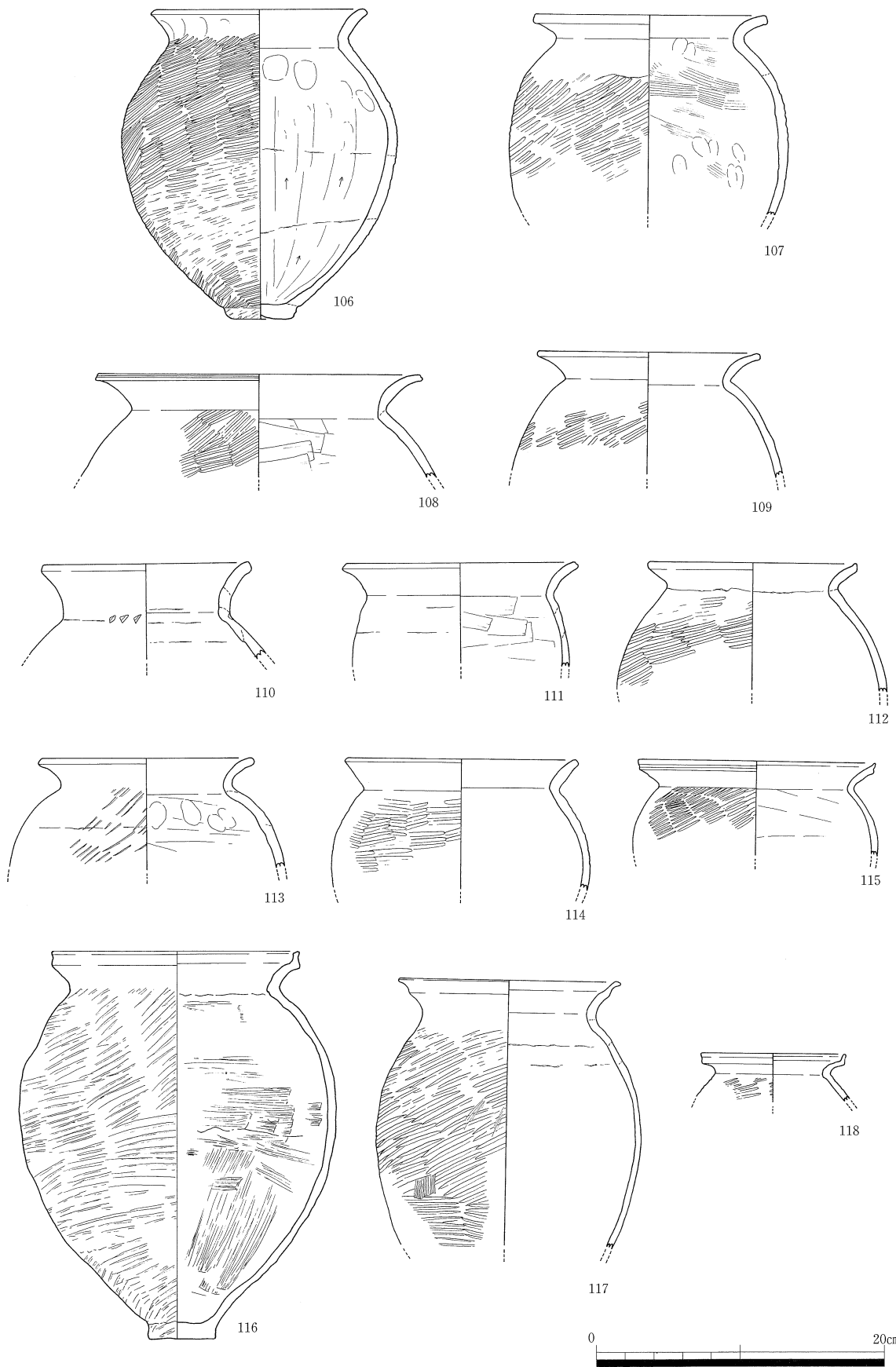
第23図 NR-301出土遺物(4)



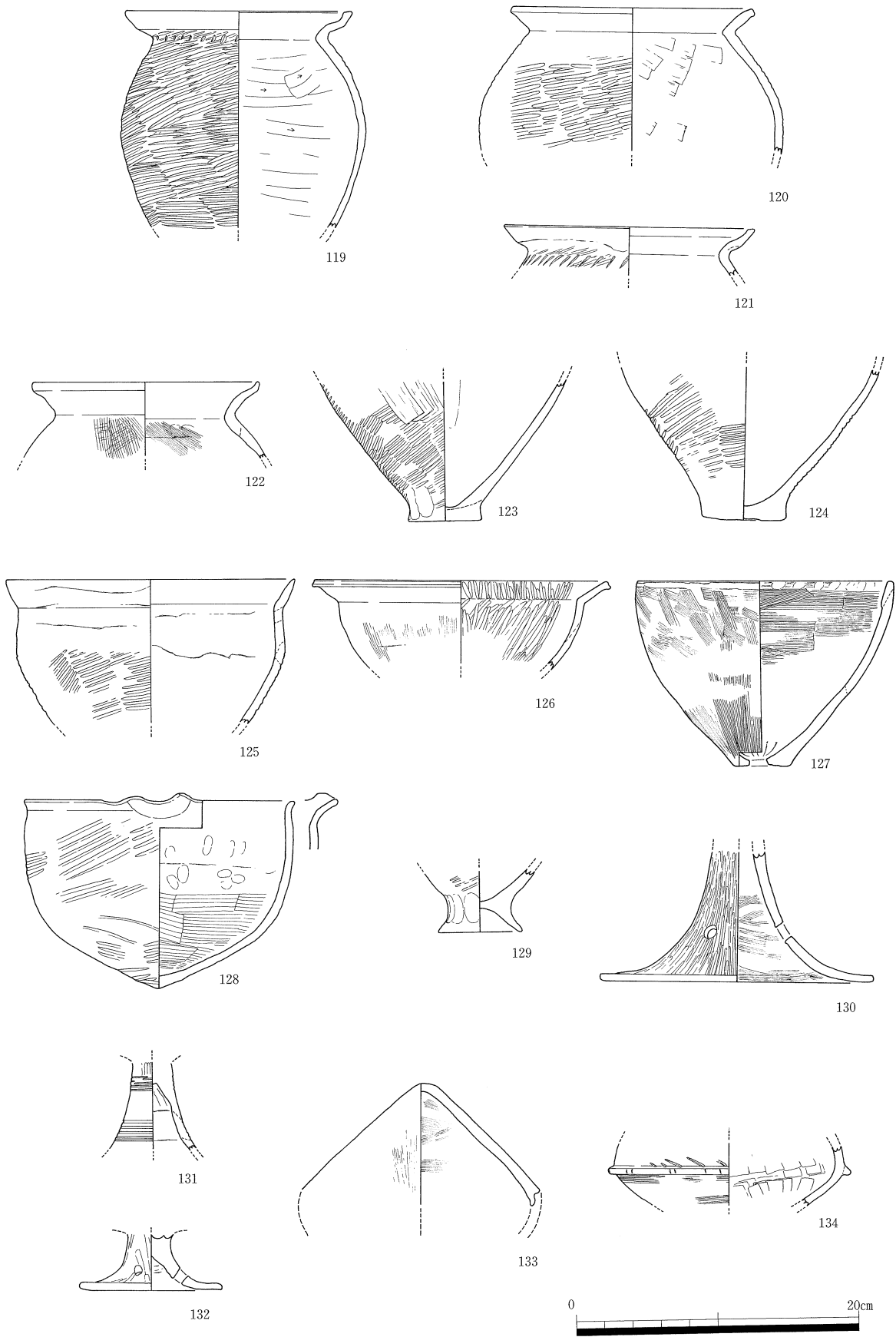
第24図 NR-301出土遺物(5)



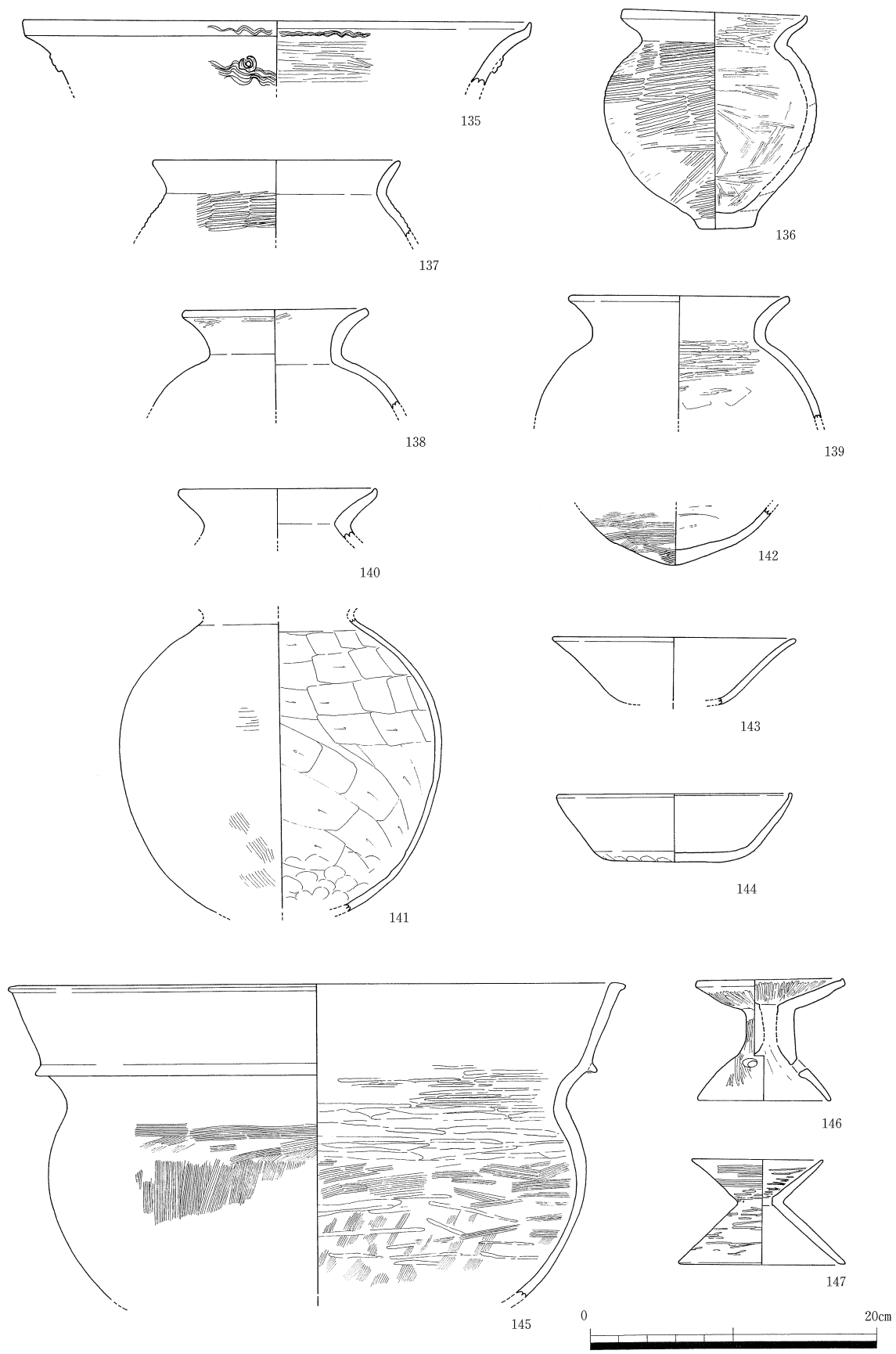
第25图 土器群出土遺物（1）



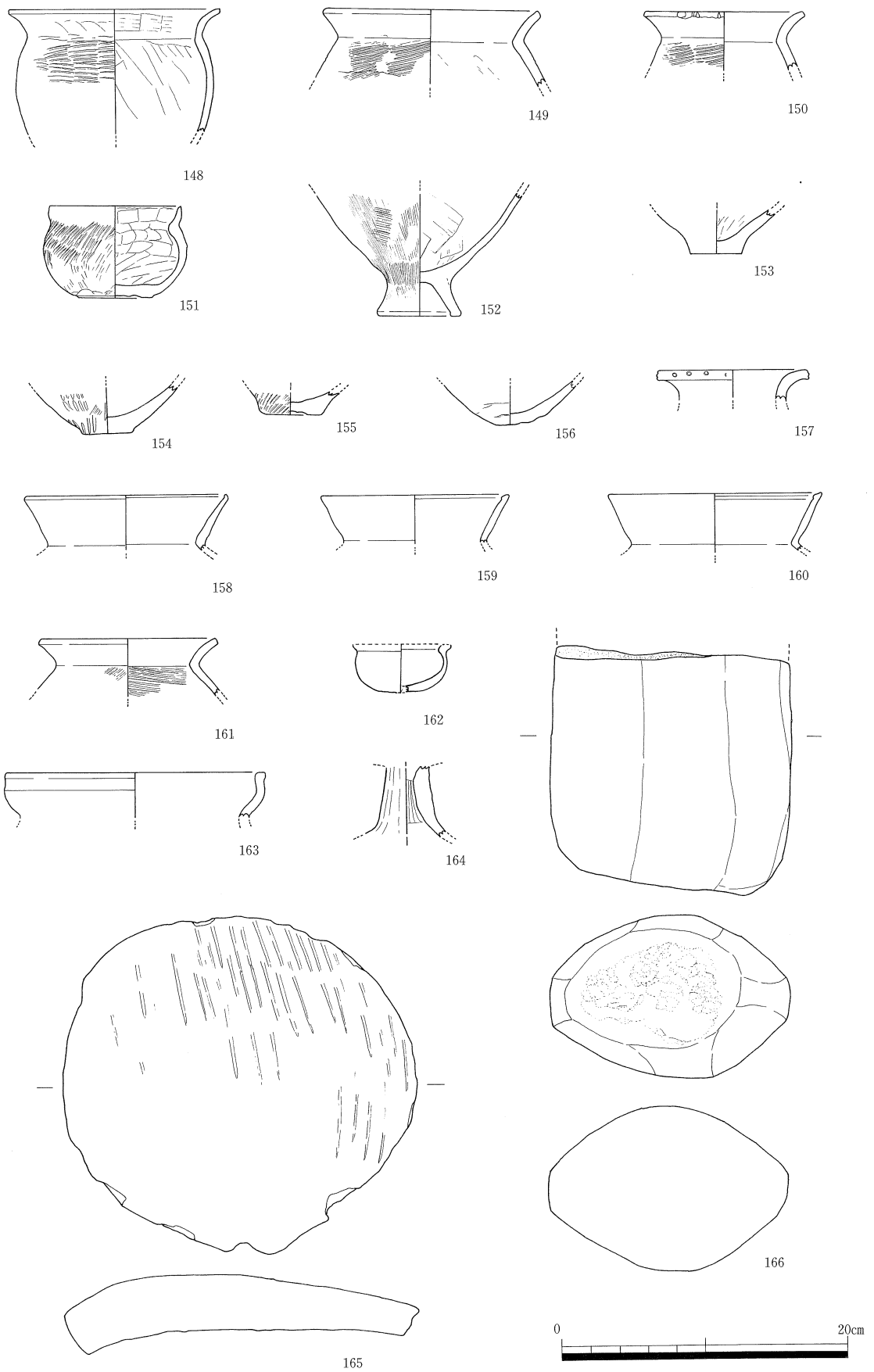
第26図 土器群出土遺物（2）



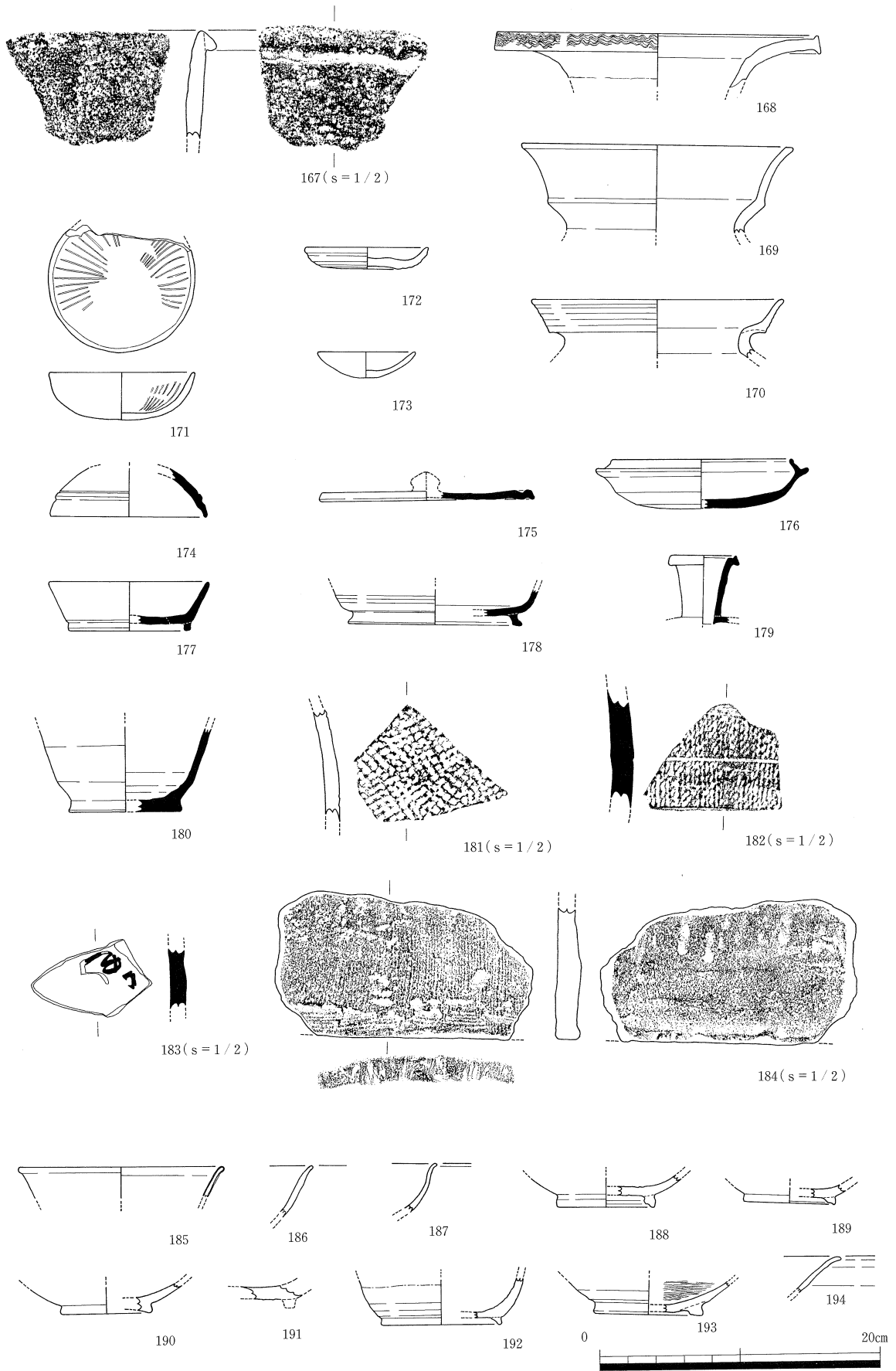
第27図 土器群出土遺物（3）



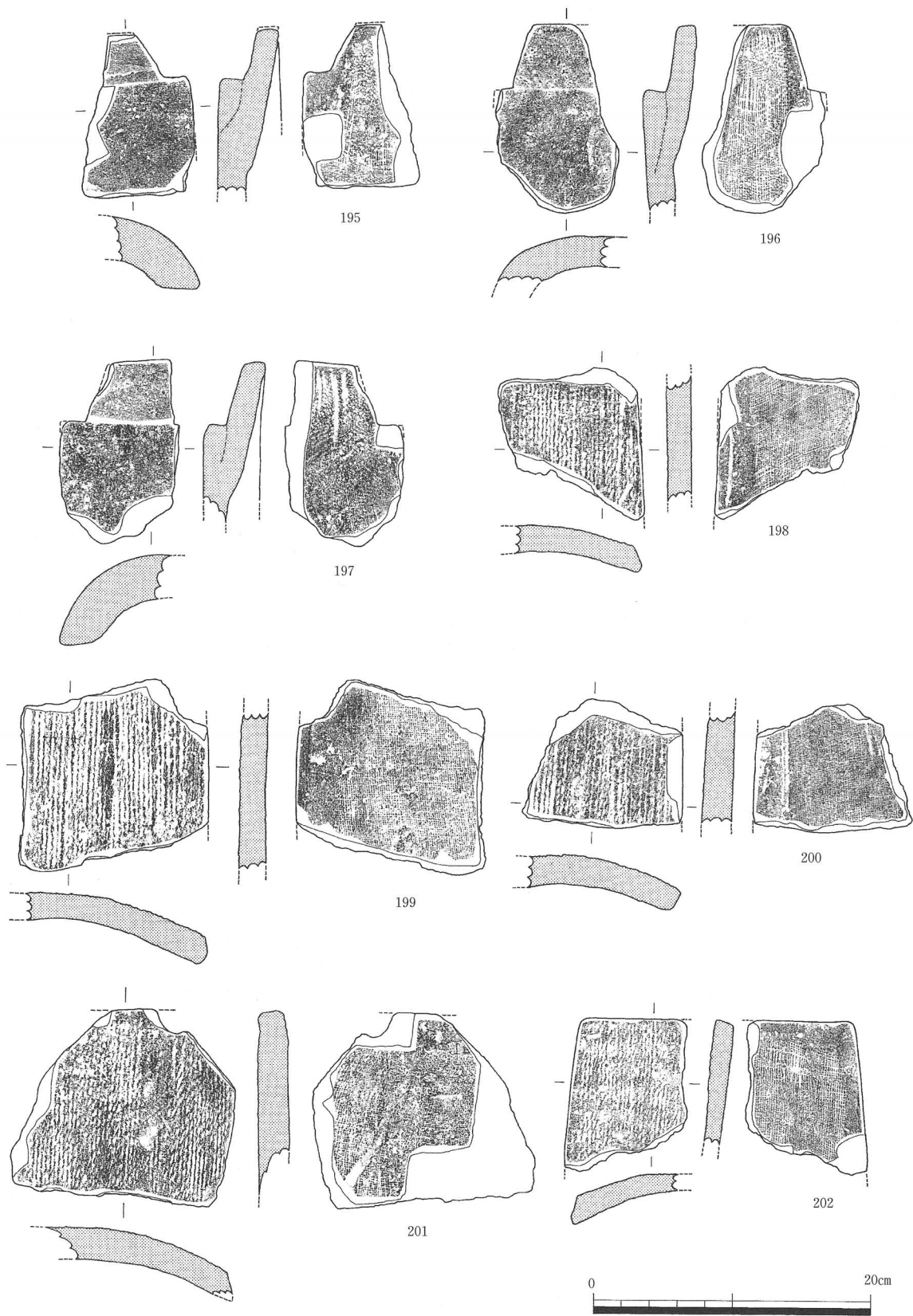
第28図 SK-401出土遺物



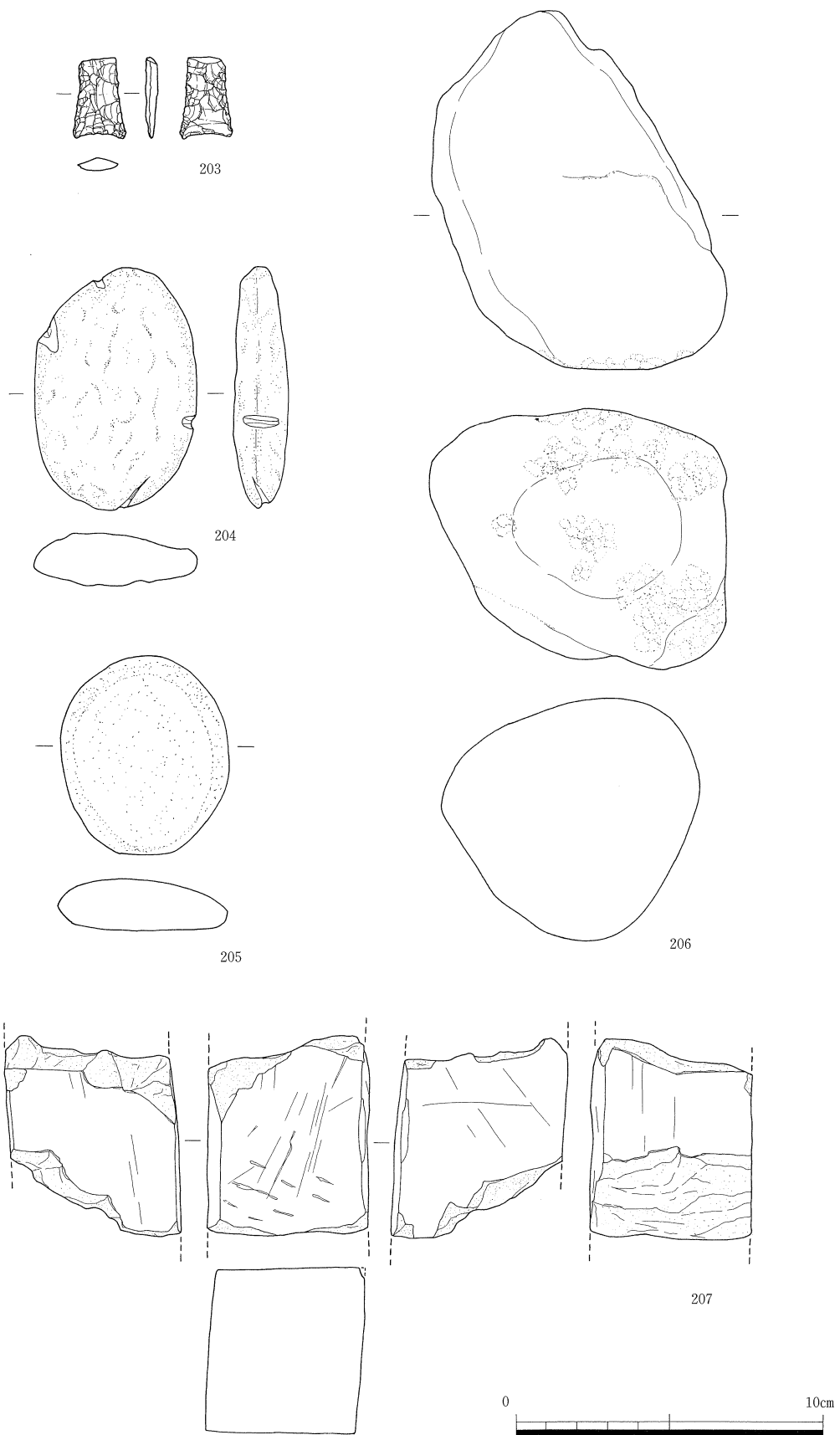
第29图 SK-402出土遺物



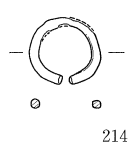
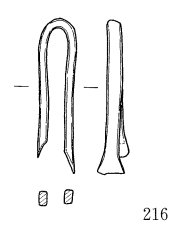
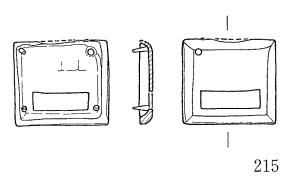
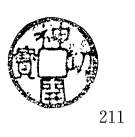
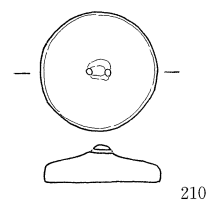
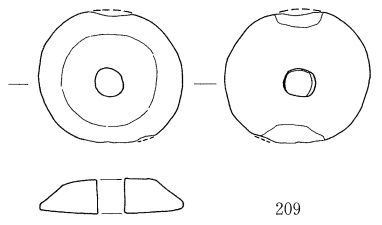
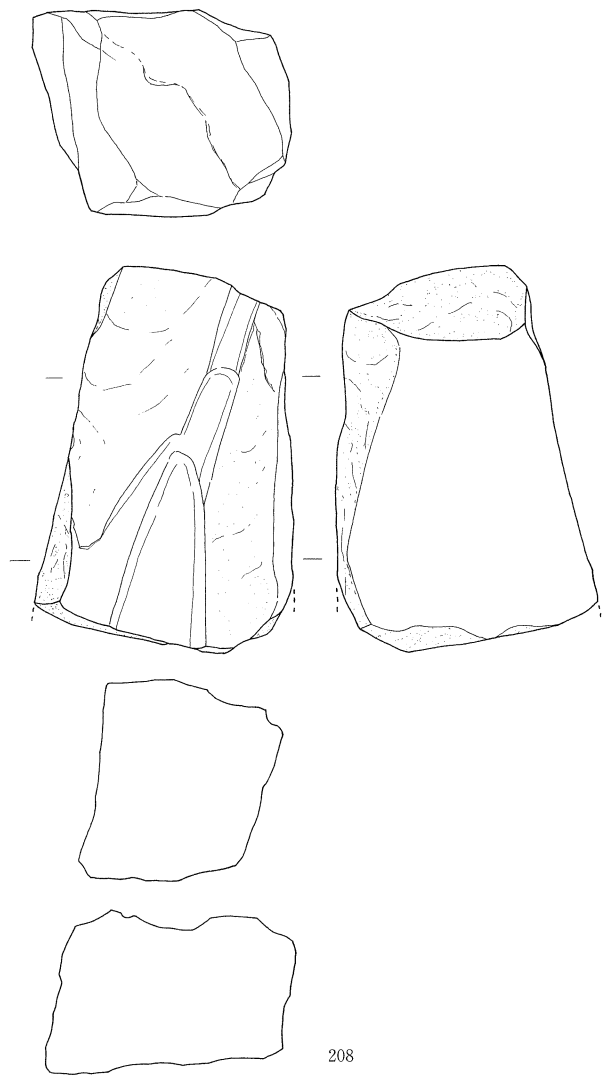
第30图 NR-401出土遺物 (1)



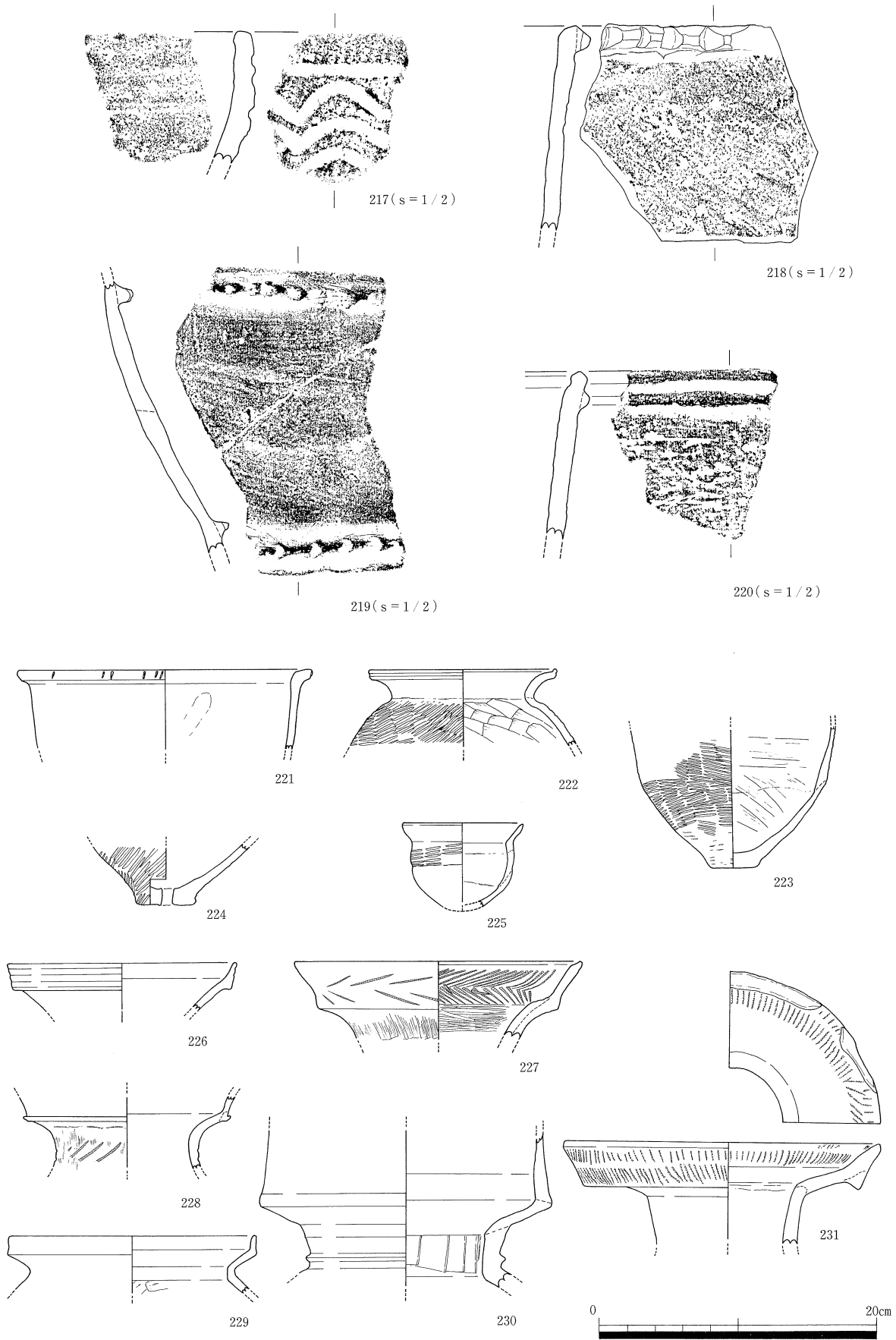
第31図 NR-401出土遺物(2)



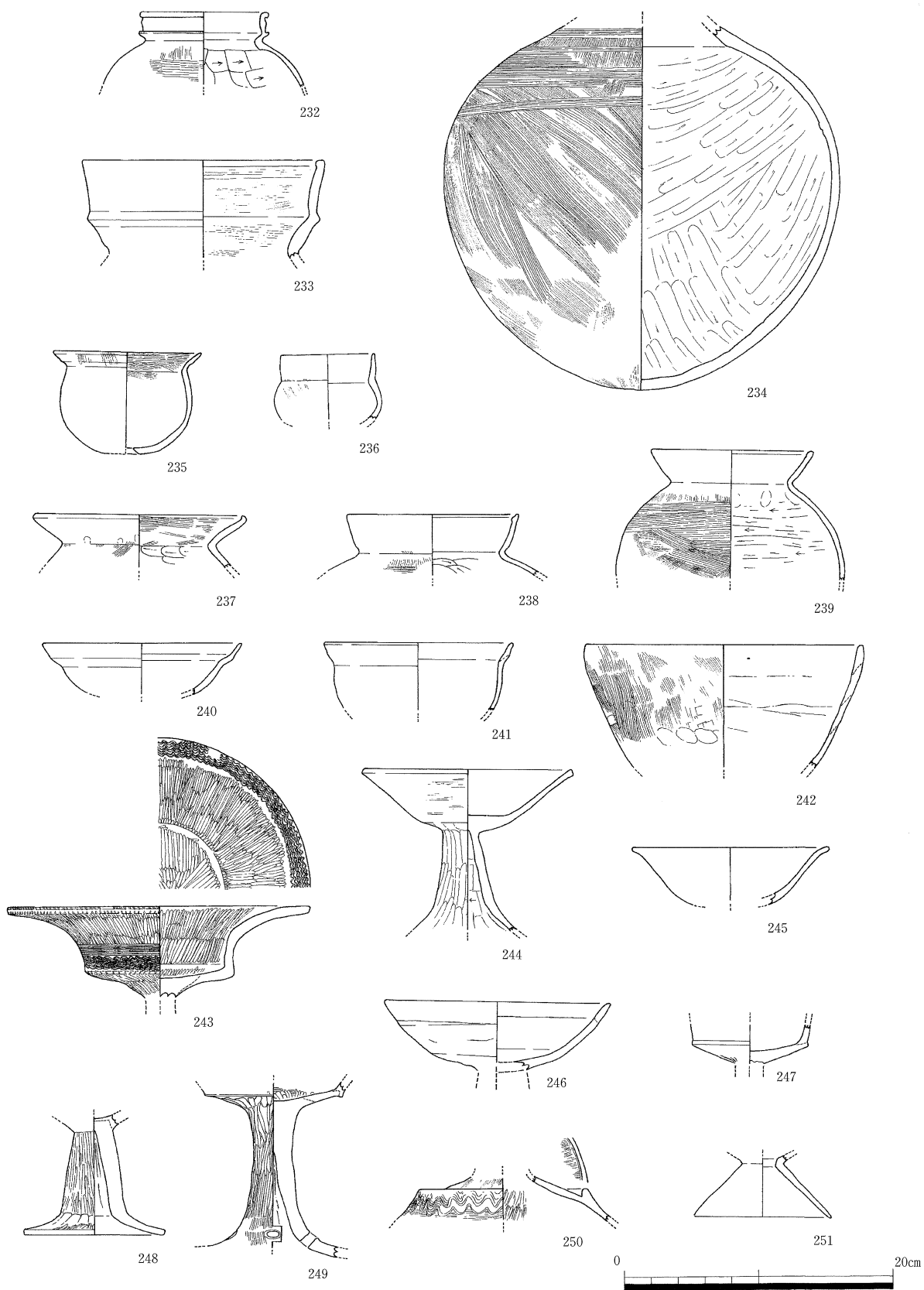
第32図 NR-401出土遺物(3)



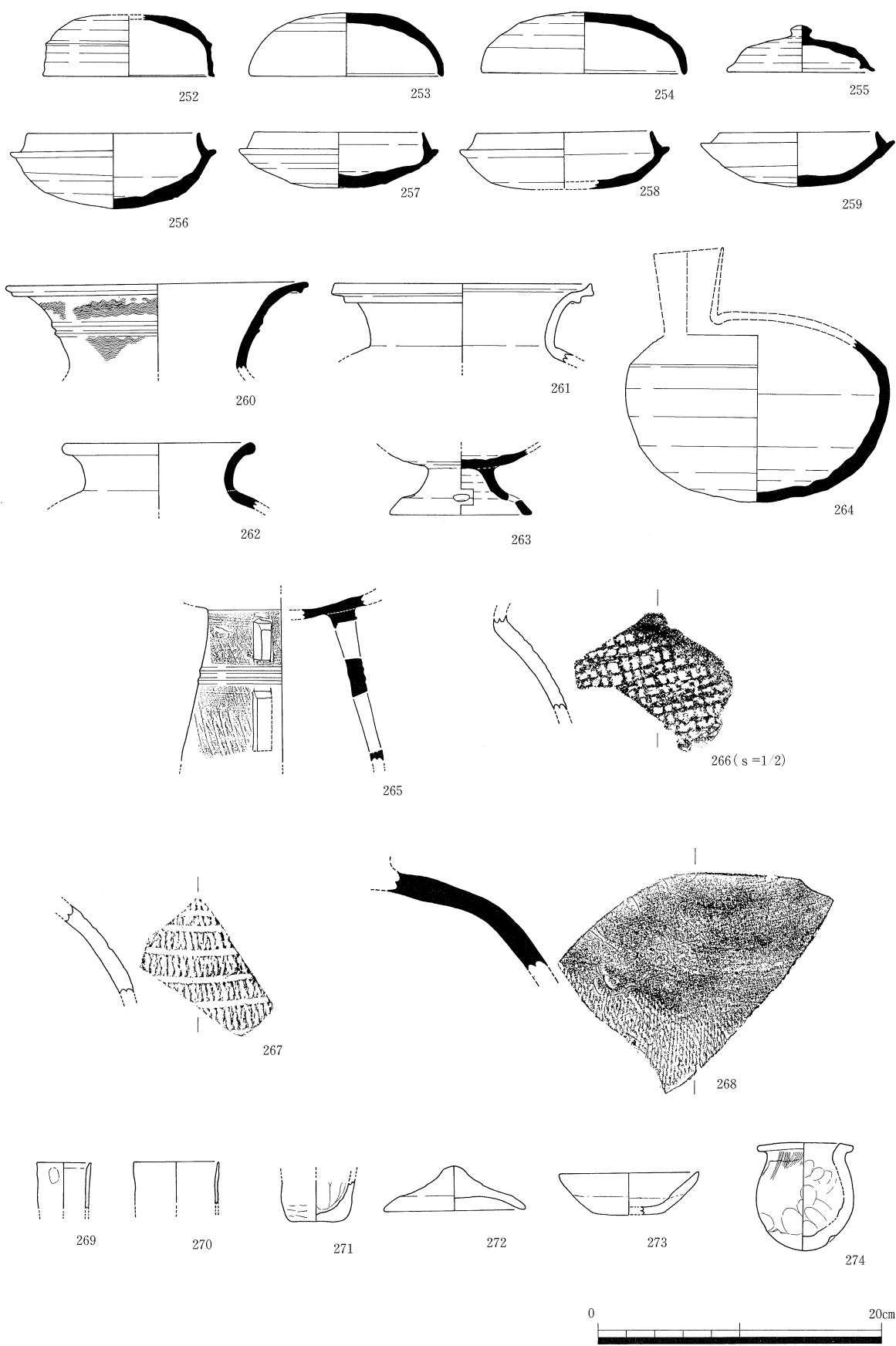
第33图 NR-401出土遺物(4)



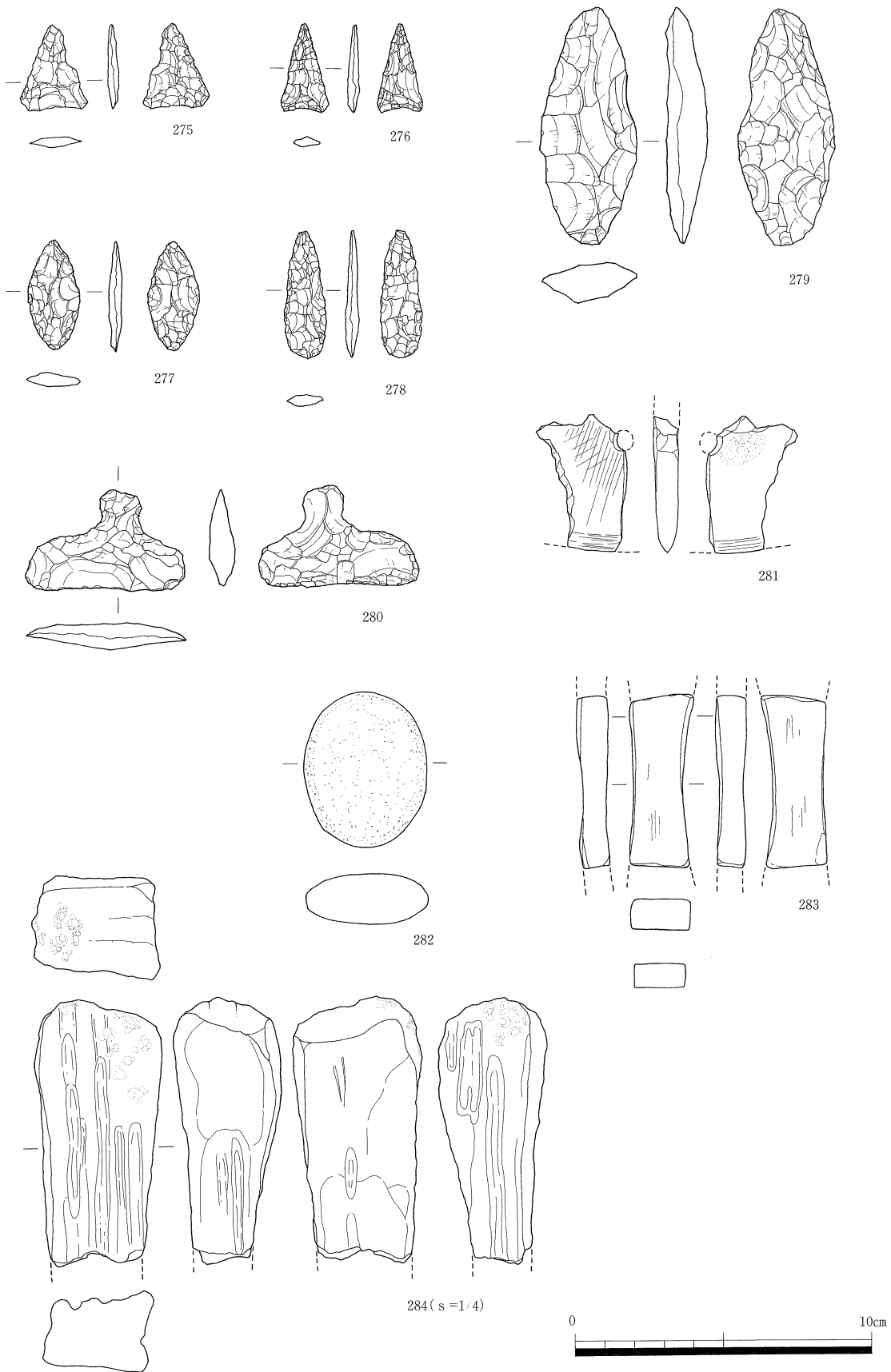
第34図 NR-402出土遺物(1)



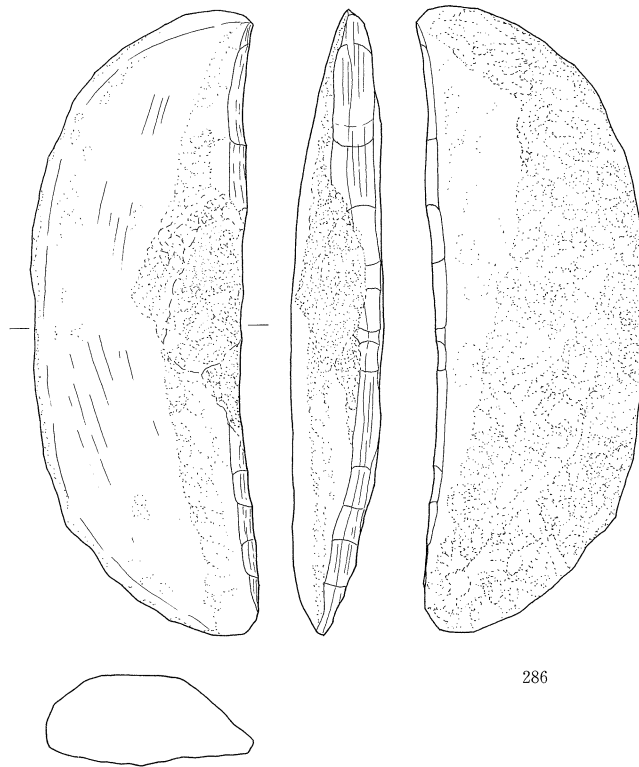
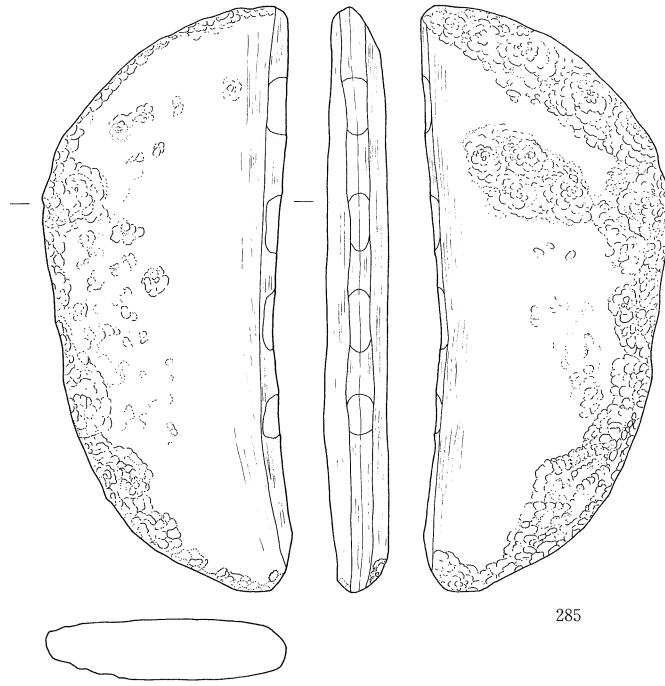
第35图 NR-402出土遗物(2)



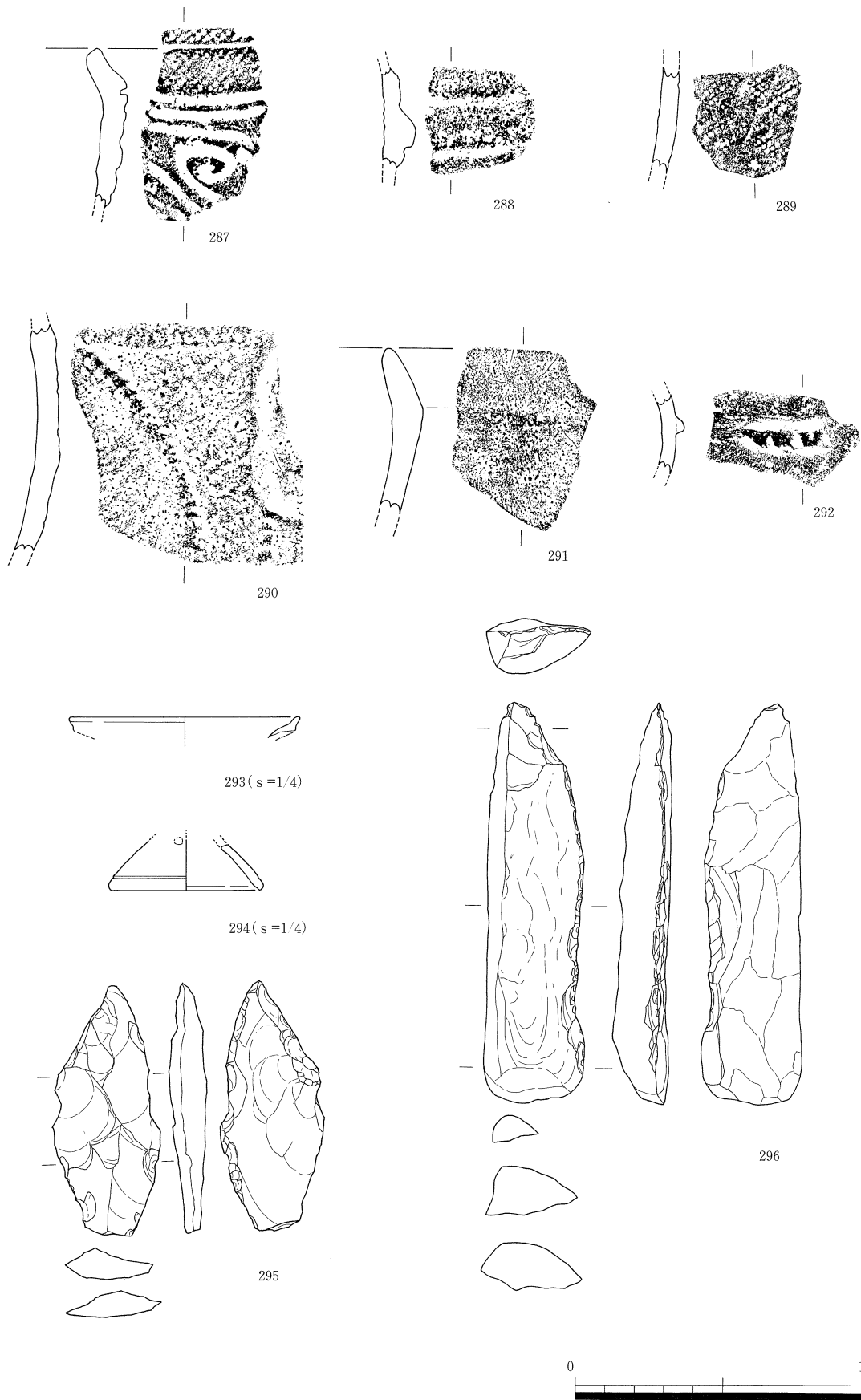
第36图 NR-402出土遺物 (3)



第37图 NR-402出土遺物 (4)



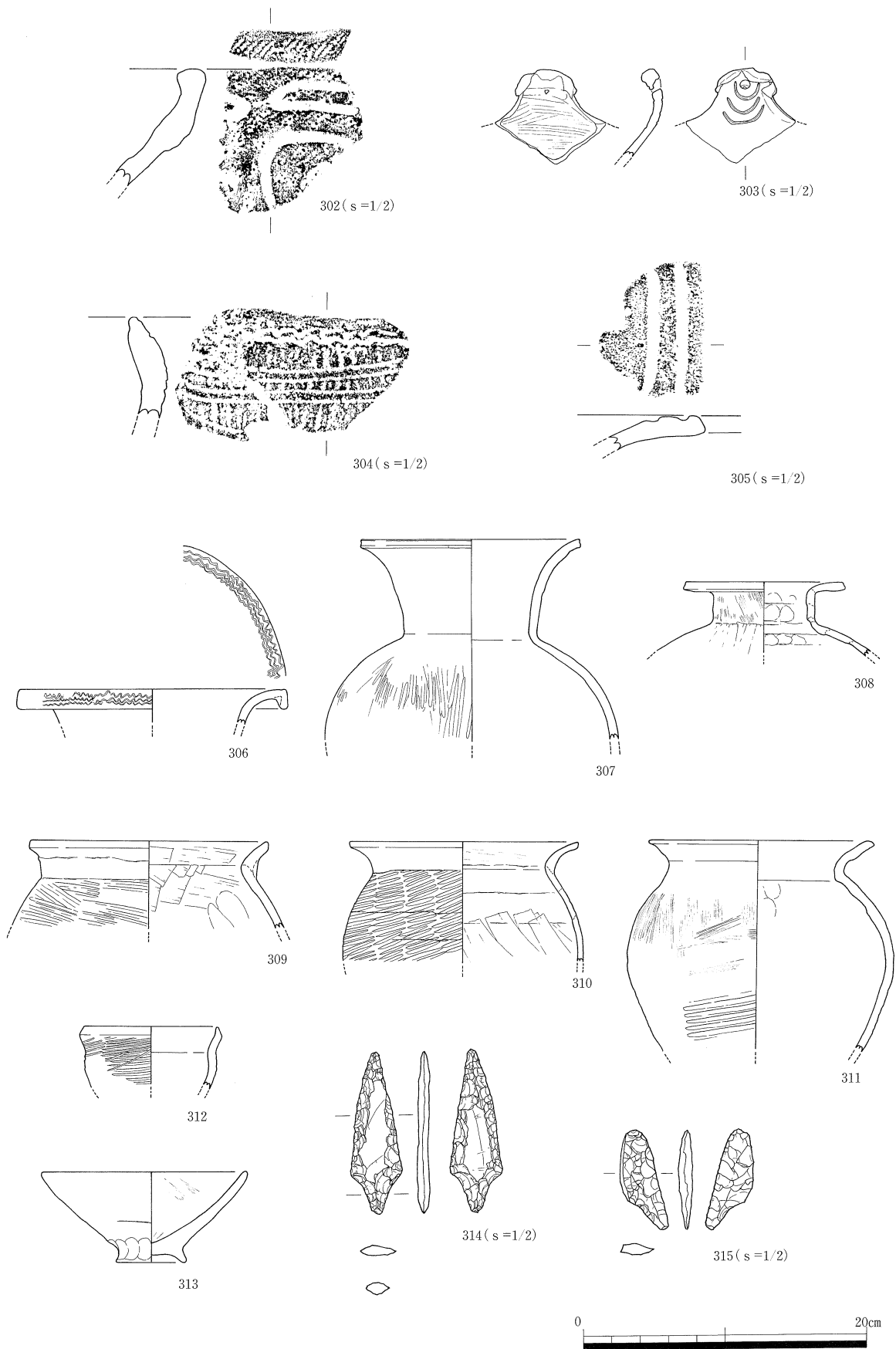
第38図 NR-402出土遺物(5)



第39图 NR-403出土遺物 (1)



第40図 NR-403出土遺物(2)



第41図 第XVI層出土遺物

出土遺物一覧表

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
1	縄文土器 浅鉢	NR-301	器高(残) 3.2	外)黄褐 内)ぶい黄褐 断)ぶい黄褐	良好	やや粗	外面ナデと沈線文 内面ナデ	
2	弥生土器 甕	NR-301	口径(復)11.5 底径4.6 器高13.7	外)浅黄~黄灰~明赤褐 内)ぶい黄 断)黄灰	やや不良	密	外面口縁部ヨコナデ、体部ナデとタタキ目、底部指ナデとナデ 内面口縁部ヨコナデ、体部斜め横位ヘラナデと縦位ヘラナデ、 粘土継ぎ、筋頭直	外面体部全体に火を受けている
3	弥生土器 壺	NR-301	口径24.4 器高(残)12.0	外)灰黄褐 内)ぶい黄褐 断)褐灰	良好	密	外面ヨコナデ、斜位のハケナデの後強いヨコナデ 内面ヨコナデ、斜め及び縦位のハケナデ の後強いヨコナデ、内外面に粘土粗痕	
4	土師器 壺	NR-301	口径16.8 器高(残)6.5	外)灰黄 内)灰黄 断)黄灰	良好	密	外面ナデ、工具による模様、工具による 凹斑 内面ナデ	
5	土師器 壺	NR-301	口径(復)11.9 器高(残)2.8	外)明赤褐 内)橙 断)橙	良好	密	外面ヨコナデ 内面磨減により不明	
6	土師器 小型丸底壺	NR-301	口径(復)9.1 器高(残)8.6	外)ぶい黄褐 内)ぶい黄褐 断)灰黄褐	良好	密	外面ハケ目(左上がり)方向単位10本/2.6cm) 内面ケズリ(体部から底部にかけて)、 肩部に指頭圧痕、口縁部内外面ヨコナデ	
7	土師器 甕	NR-301	口径(復)15.0 器高(残)6.0	外)ぶい黄 内)ぶい黄 断)黒	良好	密	外面横方向のナデ、ナデ 内面横方向のナデ、ケズリ	外面煤付着
8	土師器 小型丸底壺	NR-301	口径10.9 器高7.0	外)ぶい橙 内)ぶい橙 断)灰	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ(部分的にヘラミガキ)、ヘラケズリ 内面ヨコナデ、ナデ(部分的にヘラミ ガキ)、板ナデ	
9	土師器 鉢	NR-301	口径(復)25.6 器高(残)14.0	外) 内) 断)			口縁部頸部内外面ヨコナデ、ナデ、外 面口縁部下部に沈線あり 内面体部ヘラケズリ、ナデ	
10	土師器 台	NR-301	口径(復)15.7 底径(復)12.1 器高8.95	外)ぶい黄橙 内)ぶい橙 断)灰白	良好	密	外面指オサエ、ヨコナデ、ミガキ 内面ヨコナデ、ナデ、ミガキ	穿孔3ヶ所あり
11	土師器 杯	NR-301	口径10.1 器高3.2	外)ぶい橙 内)ぶい橙 断)ぶい赤褐	良好	密	内外面ナデ、ヨコナデ 内面に暗文とナデ上げが見られる	内外面ともに黒斑あり
12	土師器 杯	NR-301	口径(復)12.6 器高(残)3.1	外)ぶい橙 内)ぶい橙 断)ぶい黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ後ナデ 内面ナデ後正放射状暗文	
13	土師器 杯	NR-301	口径(復)12.5 器高(残)3.2	外)ぶい橙 内)ぶい橙 断)ぶい褐	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ 内面ヨコナデ、暗文	
14	土師器 杯	NR-301	口径(復)12.8 器高4.55	外)橙 内)橙 断)浅黄橙	良好	密	外面口縁部付近ヨコナデ、体部下半ナ デ 内面正放射状暗文	
15	土師器 杯	NR-301	口径12.0 最大径(復)12.4器 高(残)4.8	外)橙 内)橙 断)赤赤橙	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ、磨減のため不明瞭 内面ヨコナデ、暗文	
16	土師器 杯	NR-301	口径(復)13.8 器高4.8	外)橙 内)橙 断)褐灰	良好	やや粗	外面ヨコナデ、ケズリ後ナデ 内面板ナデ後正放射状暗文	
17	土師器 杯	NR-301	口径16.8 器高6.6	外)橙 内)ぶい橙 断)ぶい橙	良好	密	外面ナデ、掌状圧痕 内面ナデ、暗文	
18	土師器 皿	NR-301	口径(復)19.4 器高(残)3.7	外)ぶい黄橙 内)ぶい黄橙 断)ぶい黄橙	やや軟	粗	外面ヨコナデ、指オサエ 内面ヨコナデ	
19	土師器 皿	NR-301	口径(復)12.8 器高(残)2.3	外)褐灰 内)褐灰 断)褐灰	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ 内面ヨコナデ	
20	土師器 皿	NR-301	口径10.4 器高1.4	外)黄灰 内)黄灰 断)灰白	良好	密	内外面ナデ	内面に墨書残るが解読不明
21	土師器 皿	NR-301	口径(復)10.2 器高(残)1.05	外)ぶい橙 内)ぶい橙 断)	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ 内面ヨコナデ、ナデ	
22	土師器 皿	NR-301	口径10.5 底径7.0 器高1.25	外)ぶい黄橙 内)ぶい黄橙 断)灰白	良好	密	内外面ヨコナデ、ナデ	
23	土師器 皿	NR-301	口径(復)10.0 器高(残)1.45	外)浅黄橙 内)浅黄橙 断)浅黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ 内面ヨコナデ	
24	土師器 皿	NR-301	口径10.4 底径4.8 器高1.4	外)灰白 内)灰白 断)還元され見えず	良好	密	内外面ヨコナデ、指オサエの後ナデ	
25	土師器 皿	NR-301	口径(復)9.9 器高(残)1.7	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密	口縁部内外面ヨコナデ 外面指オサエ、ナデ、粘土継ぎ目あり 内面ナデ	
26	土師器 皿	NR-301	口径(復)11.0 器高1.55	外)灰白 内)灰白 断)	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ、ナデ 内面不明	
27	土師器 皿	NR-301	口径(復)10.6 器高(残)1.3	外)浅黄橙 内)浅黄橙 断)	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ後ナデ 内面ヨコナデ、ハケ後ナデ	
28	土師器 皿	NR-301	口径(復)10.8 器高(残)1.3	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ 内面ヨコナデ	
29	土師器 羽釜	NR-301	口径(復)19.8 最大径(復)26.0 器高(残)6.9	外)褐 内)褐 断)褐灰	良好	密	外面ハケ後ヨコナデ、指オサエ 内面ハケ、ナデ	
30	土師器 甌	NR-301	口径(復)25.0 器高(残)18.8	外)ぶい黄橙 内)ぶい黄橙 断)ぶい褐	良好	密	外面ハケ、口縁部ヨコナデ、把手貼り付けのナデ 内面口縁部ヨコナデ、体部上部ナデと 指オサエ、体部下半部ハケ	外面一部に煤付着、内面体部下 部のハケはケズリの様に施されて いて一部指オサエにより消される
31	土師器 羽釜	NR-301	口径(復)32.8 最大径39.8 器高(残)7.95	外)浅黄橙 内)浅黄橙 断)黒褐	良好	やや粗	外面ヨコナデ、ナデ 内面ナデ	
32	須恵器 蓋	NR-301	口径(復)13.0 器高(残)5.0	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ケズリ、回転ナデ 内面回転ナデ	
33	須恵器 蓋	NR-301	口径(復)12.3 器高4.85	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
34	須恵器蓋	NR-301	口径(復)14.0 器高(残)4.85	外)灰 内)暗灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
35	須恵器杯蓋	NR-301	口径(復)14.2 器高3.6	外)灰白 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	外面回転ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ 内面ナデ、ヨコナデ、内面に青海波文	
36	須恵器蓋	NR-301	口径(復)14.5 器高(残)5.05	外)青灰 内)暗青灰 断)褐灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ、ナデ	
37	須恵器杯蓋	NR-301	口径(復)13.2 器高3.9	外)灰 内)灰白 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ、ナデ	
38	須恵器杯蓋	NR-301	口径(復)10.6 器高3.0	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、天井部に粘土の貼り付け 内面回転ナデ	
39	須恵器蓋	NR-301	口径(復)19.1 器高(残)0.95	外)灰 内)灰(青っぽい) 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、ヨコナデ 内面回転ナデ、ナデ	
40	須恵器杯	NR-301	口径12.4 受部径14.2 器高5.1	外)灰白 内)にぶい橙 断)灰-緑部(灰底が透れる所あり)	やや軟	やや粗	外面ヨコナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面ヨコナデ、回転ナデ	
41	須恵器杯	NR-301	口径(復)12.4 最大径(復)14.5 器高4.85	外)灰白 内)灰白 断)灰	やや不良	やや粗	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
42	須恵器杯	NR-301	口径12.4 最大径14.6 器高4.0	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面回転ナデ、ナデ	
43	須恵器杯	NR-301	口径12.4 最大径14.6 器高3.6	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面回転ナデ	
44	須恵器杯	NR-301	口径(復)10.2 器高3.7	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面ナデ、回転ナデ	
45	須恵器杯身	NR-301	口径9.8 器高3.5	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面ヨコナデ、ナデ	外面底部は成形調整がなされてい ない、土を盛った状態のまま
46	須恵器杯	NR-301	口径(復)10.1 器高3.25	外)灰 内)灰(青っぽい) 断)灰(青っぽい)	堅緻	密	外面回転ナデ、板圧痕 内面回転ナデ、ナデ	
47	須恵器杯	NR-301	口径12.7 器高4.1	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面ヨコナデ、ナデ、内面に粘土紐痕	高台部何ヶ所かに干割れが見られる
48	須恵器杯	NR-301	口径(復)16.4 底径(復)11.0 器高4.95	外)灰 内)灰 断)赤灰	堅緻	密	外面回転ナデ、高台貼り付けのナデ、 回転ヘラケズリ 内面ナデ、回転ナデ	一部外面に降灰あり
49	須恵器杯身	NR-301	口径(復)17.8 器高(残)5.4	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
50	須恵器短頸壺	NR-301	口径(復)9.2 器高9.3	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	口縁部内外面ヨコナデ 外面頸部ナデ、体部上半部カキ目、体部下半部 から底部にかけて回転ヘラケズリ 内面ナデ	
51	黒色土器椀	NR-301	口径(復)15.6 底径(復)8.2 器高5.5	外)浅黄 内)黒 断)黒褐	良好	密	外面ナデ、指オサエ後ミガキ 内面ミガキ	
52	黒色土器椀	NR-301	口径(復)14.0 高台径7.6 器高5.4	外)にぶい黄褐 内)黒色 断)不明	良好	やや粗	外面ナデ、高台貼付のヨコナデ、内面ミ ガキ、下半部はミガキと思われるが磨滅 のため不明、口縁部内外面ヨコナデ	A類、外面に糺し部分あり、 高台内黒斑あり
53	黒色土器椀	NR-301	口径(復)16.4 器高(残)5.0	外)にぶい橙 内)暗灰 断)にぶい黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ、磨滅してあまり見ら れないがヘラミガキがあったと思われる 内面 ヨコナデ、ハケ目の後ヘラミガキ	
54	黒色土器椀	NR-301	高台径(復)7.8 器高(残)1.1	外)にぶい黄橙 内)黒灰色 断)にぶい黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、不明 内面ミガキ	A類
55	黒色土器椀	NR-301	高台径(復)6.2 器高(残)2.6	外)にぶい黄橙 内)黒 断)黒	やや軟	やや粗	外面回転ナデ、回転糸切り 内面回転ナデ	円盤状高台(緑釉うつし)
56	黒色土器椀	NR-301	底径(復)8.2 器高(残)1.4	外)にぶい黄橙 内)灰 断)灰	良好	密	外面ナデ、ヨコナデ 内面板ナデ	A類
57	黒色土器椀	NR-301	底径6.6 器高(残)2.65	外)暗灰 内)黒 断)灰白	良好	密	外面ヘラミガキ、ナデ、ヨコナデ 内面ナデの後暗文	B類
58	瓦器椀	NR-301	口径(復)16.2 器高(残)5.3	外)黒 内)黒 断)暗灰	良好	密	内外面ヘラミガキ	
59	瓦器椀	NR-301	口径(復)16.0 器高(残)4.4	外)灰 内)暗灰 断)灰黄	良好	密	外面ミガキ、ヨコナデ 内面ヨコナデ、ミガキ、口縁部に1条 の沈線	
60	瓦器椀	NR-301	口径(復)14.6 器高(残)5.0	外)灰 内)灰 断)灰白	良好	密	外面ナデ、ヘラミガキ、指オサエの痕 あり 内面ナデ、ヘラミガキ	
61	瓦器椀	NR-301	口径(復)15.2 器高(残)4.85	外)暗灰色 内)暗灰色 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ、ミガキ 内面ヨコナデ、ミガキ	
62	瓦器椀	NR-301	口径(復)14.0 器高(残)3.3	外)暗灰 内)暗灰 断)灰白	良好	密	外面指オサエ、ナデ、ミガキ 内面ヨコナデ、ミガキ	
63	瓦器椀	NR-301	高台径(復)4.6 器高(残)2.8	外)黒 内)黒 断)灰白	良好	密	外面押さえ、ナデ、高台部付近ヨコナデ 内面ヘラミガキ	
64	瓦器椀	NR-301	高台径4.5 器高(残)1.3	外)灰白 内)灰 断)灰白	やや軟	やや粗	外面ナデ、ヨコナデ 内面ミガキ、暗文	
65	瓦器椀	NR-301	高台径(復)5.4 器高(残)1.35	外)灰 内)灰 断)灰白	良好	密	外面ナデ、ヨコナデ 内面ナデ、暗文	
66	緑釉陶器皿	NR-301	口径(復)14.4 高台径7.2 器高(残)2.85	釉)不明(受火) 胎)不明(受火)	良好	精良	調整不明 見込み部ヘラミガキ(剥落部分より観察) 高台内露胎、他は施釉	東海系 火を受けている
67	緑釉皿	NR-301	口径(復)5.7 器高(残)1.4	外)灰 内)灰 断)暗灰黄	堅緻	密	内外面回転ヘラケズリ、施釉	

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
68	緑釉陶器椀	NR-301	高台径(復)6.0 器高(残)1.55	外)灰(やや青い) 内)灰(やや青い) 断)赤灰	良好	密	外面回転ナデ、回転ケズリ 内面ミガキ 外面施釉	
69	緑釉陶器皿 椀 or 皿	NR-301	器高(残)1.7	釉)濃緑 胎)浅黄橙	良好	密	調整不明 内外面施釉	
70	青磁椀	NR-301	器高(残)5.5	釉)黄褐 胎)灰白	良好	密	内外面施釉	鎬蓮弁文
71	青磁椀	NR-301	器高(残)6.6	釉)オリーブ灰 胎)灰白	良好	密	内外面施釉	鎬蓮弁文
72	白磁皿	NR-301	口径(復)10.5 器高(残)2.5	釉)灰白 胎)灰白	良好	密	内面口縁部口充げ	
73	製塩土器	NR-301	胴部径(復)5.2 器高(残)3.6	外)浅黄橙 内)浅黄橙 断)浅黄橙	良好	密	外面指オサエ、ナデ 内面ナデ	
74	製塩土器	NR-301	口径(復)4.2 器高(残)2.3	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)にぶい橙	良好	密	内外面ナデ	
75	土師器 ミニチュア甕	NR-301	口径(復)5.9 器高3.2	外)にぶい橙 内)橙 断)-	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ 内面ヨコナデ、指オサエ	
76	土師器 ミニチュア高杯	NR-301	底径(復)5.8 器高(残)3.8	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)灰褐	良好	密	外面指ナデ、脚部つまんでねじった痕 内面絞り痕	手握ね成形
77	手握ね土器	NR-301	口径(復)5.3 器高4.0	外)灰黄 内)にぶい黄橙 断)暗灰黄	良好	密	外面ナデ 内面ナデ	
78	土製品 輪羽口	NR-301	長さ(残)10.85 幅(残)7.45	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰黄	良好	やや粗	外面ナデ 内面ナデ	
79	軒丸瓦	NR-301	長さ(残)9.8 幅(残)6.0 灰	堅緻(硬質)	密	瓦当縁ナズリ、 瓦裏に 丸瓦接合部分ナデ	複弁蓮華文軒丸瓦、範傷あり	
80	丸瓦	NR-301	長さ(残)9.9 幅(残)5.85 厚み1.9	凸)黒灰色 凹)黒灰色 断)浅黄	良好	密	凸面ナデ 凹面布目痕	
81	丸瓦	NR-301	長さ(残)8.4 幅(残)8.4 厚み1.9	凸)にぶい黄橙 凹)にぶい黄褐 断)にぶい黄橙	良好	密	凸面ナデ 凹面布目痕	
82	丸瓦	NR-301	長さ(残)8.6 幅(残)9.7 厚み2.3	凸)灰 凹)灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ後ナデ凹面布目痕	
83	平瓦	NR-301	長さ(残)10.3 幅(残)11.5 厚み2.05	凸)灰 凹)灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕、ナデ	
84	平瓦	NR-301	長さ(残)6.7 幅(残)10.2 厚み1.9	凸)灰 凹)灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ、ナデ 凹面布目痕、ナデ	
85	平瓦	NR-301	長さ(残)13.7 幅(残)7.8 厚み1.9	凸)黒灰色 凹)灰黄 断)灰黄	良好	密	凸面縄目タタキ、ナデ 凹面布目痕	
86	平瓦	NR-301	長さ(残)7.9 幅(残)6.8 厚み1.6	凸)灰 凹)灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
87	石器 石 器 鎌	NR-301	長2.34 幅2.01 厚0.32 重1.6g			サヌカイト		全体に激しいローリング受ける
88	石器 石 器 鎌	NR-301	長4.03 幅2.05 厚0.52 重1.1g			サヌカイト		
89	石器 石 器 削器	NR-301	長4.1 幅3.17 厚0.82 重9.8g			サヌカイト (金山?)		
90	石器 石 器 剣	NR-301	長5.45 最大幅4.6 柄部幅2.3 厚1.7 重33.0g			片岩	表面に線刻、柄部に穿孔あり、刃部に 明瞭な面取りがなく刃物上のもので打 撃を加えた痕跡あり	磨製
91	石製品 石 砥	NR-301	長(残)18.6 幅10.7 厚8.8 重2399.9					研磨、玉用筋砥石カ
92	石製品 有孔円板	NR-301	長2.15 幅2.15 厚0.35 重3.0g			滑石	表裏面とも擦痕あり	
93	弥生土器壺	土器群	口径(復)24.4 器高(残)9.5	外)にぶい黄橙 内)にぶい褐 断)黒褐	やや不良	密	外面ナデ、ヨコナデ、ハケ目の後ミガキ 内面ナデ、ヨコナデ、ハケ目	
94	弥生土器壺	土器群	口径(復)23.6 器高(残)5.25	外)橙 内)橙 断)橙	良好	やや粗	外面ナデ、円形浮文、ヨコナデ、ヘラ ミガキ 内面磨滅のため調整不明	
95	弥生土器壺	土器群	口径(復)13.4 器高(残)4.7	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰白	良好	密	外面ナデ、工具痕 内面ナデ、ハケ目からナデへ	
96	弥生土器広口 壺	土器群	口径(復)16.0 器高(残)27.4	外)浅黄橙~灰黄褐 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	密	外面ヘラミガキ、口縁部に2条のヘラ描き沈線 内面指オサエ、ハケ目、粘土組痕	外面体部下半一部に煤付着
97	弥生土器壺	土器群	口径(復)10.4 器高(残)10.7	外)にぶい黄褐 内)にぶい黄褐 断)褐灰	良好	やや粗	外面口縁部ヨコナデ、体部タタキ後タテハケ後軽いナデ調整 内面口縁部板状工具によるナデ、体部 押しさえ及び板状工具によるナデ	
98	土師器壺	土器群	口径13.4 器高(残)14.8	外)にぶい黄橙 内)にぶい褐 断)褐灰	良好	密	外面口縁部ナデ、口縁部から頸部にかけて横方向のナデ、体 部調整不明(体部上部縦方向のハケカ) 内面ハケ後ナデ、ナデ、ヨコナデ、指オサエ痕、内外面に接合痕あり	口縁部歪みあり
99	弥生土器壺	土器群	口径10.5 器高(残)5.8	外)浅黄 内)にぶい黄橙 断)灰黄	良好	密	外面ハケ目 内面ハケ目、ナデ	
100	弥生土器壺	土器群	口径11.8 器高(残)12.8	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)黄灰	良好	密	外面ハケ後ナデ、頸部ナデ 内面ナデ、頸部ハケ、体部下板ナデ 一部指オサエ痕あり、接合痕残る	外面体部に線刻あり
101	土師器甕	土器群	最大径(復)20.0 器高(残)16.6	外)にぶい黄橙 内)褐灰 断)褐灰	良好	密	外面ハケ目(磨滅のため観察困難) 内面指オサエ、ナデ後板ナデ	穿孔1ヶ所確認

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
136	弥生土器甕	S K - 401	口径12.65 底径3.8 器高15.15	外)暗灰 内)灰白 断)灰	良好	やや粗	外面ヘラミガキ、タタキ、ナデ 内面ヘラミガキ、ヘラケズリ	
137	土師器	S K - 401	口径(復)16.4 器高(残)5.8	外)灰黄褐 内)灰黄 断)灰黄	良好	密	外面ヨコナデ、タタキ 内面ヨコナデ、ナデ	外面煤付着
138	土師器	S K - 401	口径(復)14.0 器高(残)7.6	外)にぶい橙 内)口縁部 にぶい橙 内)体部黄灰 断)にぶい橙	良好	密	外面ミガキ(磨滅のため詳細不明) 内面ミガキ(磨滅のため詳細不明)	外面煤付着
139	土師器	S K - 401	口径(復)16.6 器高(残)9.2	外)浅黄橙 内)暗灰 断)灰	良好	密	外面ナデ 内面ナデ、ヘラミガキ、板ナデ	
140	弥生土器	S K - 401	口径(復)15.0	外)黒 内)にぶい黄橙 断)灰	良好	密	外面ヨコ方向ナデ 内面ナデ、板ナデ	外面煤付着
141	土師器(?)	S K - 401	器高(残)22.3	外)灰白 内)灰黄褐 断)灰白	良好	やや粗	外面体部上半ヨコハケ、体部下半タテ ハケ 内面ケズリ、指オサエ	
142	土師器	S K - 401	底径(復)3.6 器高(残)4.4	外)灰黄褐 内)にぶい黄褐 断)褐灰	良好	やや粗	外面ハケ、タタキ後ハケ 内面板ナデ	外面煤付着
143	土師器杯	S K - 401	口径(復)18.1 器高(残)5.0	外)明赤褐 内)明赤褐 断)灰白	良好	やや粗	外面ヨコナデ、不明 内面不明	
144	土師器杯	S K - 401	口径16.4 器高4.8	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)	良好	密	外面ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面ヨコナデ、ナデ	黒斑あり
145	土師器	S K - 401	口径(復)41.2 器高(残)21.6	外)浅黄橙 内)にぶい橙 断)灰白	良好	密	外面部分的にタテハケとヨコハケが見受けられる 内面体部横方向のヘラミガキ、粗雑な横方向のハケ目、縦方向 のハケ目に部分的に横方向のヘラミガキとナデか	磨滅が著しい
146	土師器器台	S K - 401	口径10.45 底径9.2器高8.6	外)にぶい橙 内)橙 断)にぶい橙	良好	密	外面ミガキ 内面板ナデ、ナデ、ミガキ	脚部に穿孔3ヶ所確認
147	土師器器台	S K - 401	口径9.2 底径11.7 器高7.4	外)橙 内)橙 断)浅黄橙	良好	密	外面ハケ目、ミガキ 内面ハケ目、ナデ	黒斑あり
148	土師器	S K - 402	口径(復)15.8 器高(残)9.5	外)赤橙 内)にぶい褐 断)にぶい褐	良好	やや粗	外面ヨコナデ、タタキ 内面板ナデ	
149	土師器	S K - 402	口径(復)16.4 器高(残)6.75	外)にぶい黄橙 内)灰黄褐 断)灰黄褐	良好	密	外面ナデ、タタキ、薄く工具痕のこる 内面ナデ、工具痕らしき痕あり	
150	土師器	S K - 402	口径(復)12.2 器高(残)4.45	外)にぶい黄 内)にぶい黄 断)にぶい黄	良好	やや粗	外面タタキ、ヨコナデ、口縁の一部に 刻み目のような切れ込みあり 内面ヨコナデ、ナデ	
151	土師器	S K - 402	口径(復)10.0 器高(残)7.0	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)にぶい橙	良好	やや粗	外面ヨコナデ、タタキ、指オサエ 内面板ナデ	
152	土師器鉢	S K - 402	底径(復)5.8 器高(残)8.6	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面タタキ後タテハケ 内面板状工具による(クモの巣状)ナデ	
153	土師器	S K - 402	底径3.8 器高(残)3.4	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰黄	良好	粗	外面ナデ 内面板ナデ	
154	弥生土器	S K - 402	底径3.6 器高(残)7.0	外)灰黄褐 内)褐灰 断)灰黄褐	良好	密	外面タタキ、ナデ 内面ナデ	
155	土師器	S K - 402	底径4.7 器高(残)1.8	外)にぶい黄橙 内)灰黄 断)灰黄	良好	密	外面タタキ、ナデ 内面板ナデ	
156	土師器	S K - 402	底径6.0 器高(残)3.45	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)にぶい橙	良好	やや粗	外面板状工具の痕あり、底部貼り付け、 工具痕あり 内面ナデ	
157	土師器	S K - 402	口径(復)11.0 器高(残)2.9	外)橙 内)橙 断)灰	良好	密	外面ヨコナデ、竹管文 内面不明	
158	土師器壺	S K - 402	口径(復)14.0 器高(残)3.9	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)灰	良好	密	内外面ヨコナデ 内面頸部下半ケズリ	
159	土師器	S K - 402	口径(復)14.2 器高(残)3.6	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)浅黄	良好	密	外面ヨコ方向ナデ 内面ヨコ方向ナデ	
160	土師器	S K - 402	口径(復)16.1 器高(残)4.35	外)黄灰 内)灰黄 断)灰黄	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ 内面ヨコナデ、ナデ	
161	土師器	S K - 402	口径(復)13.2 器高(残)3.3	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ、タタキ 内面ヨコナデ、板ナデ	外面煤付着
162	土師器	S K - 402	口径(復)19.4 器高(残)3.4	外)灰白 内)にぶい橙 断)淡赤橙	良好	やや粗	外面ヨコナデ 内面板ナデ	
163	土師器 小型丸底壺	S K - 402	口径(復)7.4 器高(残)3.55	外)にぶい黄橙 内)にぶい褐 断)にぶい黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ(ハケ後ナデカ)ケ ズリ、頸部にわずかにハケの痕あり 内面ヨコナデ、ナデ	
164	土師器杯	S K - 402	器高(残)5.0	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	密	外面板ナデ、ミガキ 内面シボリ痕、ナデ	
165	土製品板	S K - 402	長11.9 幅12.4 厚3.4	表)にぶい黄橙 裏)灰白 断)灰	良好	密	表面タタキ 裏面指ナデ 側面研磨	土師器甕転用カ
166	石製品石	S K - 402	長(残)8.8 幅8.5 厚5.8 重667.9g					研磨、L 敲打痕。研磨面も みられ砥石の転用カ
167	縄文土器 深鉢	N R - 401	器高(残)3.9	外)褐 内)褐 断)褐	良好	密	内外面磨滅のため調整不明	
168	土師器壺	N R - 401	口径(復)24.6 器高(残)4.1	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)暗灰	やや良	やや粗	外面波状文、ヨコナデ、ナデ 内面ヨコナデ、ナデ	外面に黒斑あり
169	土師器壺	N R - 401	口径(復)20.8 器高(残)6.65	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)灰	良好	やや粗	外面ヨコナデ 内面不明	内面に黒斑あり

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
170	土師器 甕	NR-401	口径(復)18.0 器高(残)4.2	外)黒褐 内)黄褐 断)黄灰	良好	密	外面ヨコナデ 内面ヨコナデ、ケズリ	
171	土師器 椀	NR-401	口径10.4 器高3.4	外)橙 内)橙 断)橙	やや不良	密	外面ミガキ 内面横方向のナデ、暗文(放射状)	内面に黒色の付着物、鉄分の錆着
172	土師器 皿	NR-401	口径(復)8.8 器高(残)1.55	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	密	外面回転ナデ、底部回転糸切り 内面回転ナデ	回転台土師器
173	土師器 皿	NR-401	口径(復)7.4 器高2.0	外)灰白 内)淡黄 断)淡黄	良好	密	内外面ナデ	
174	須恵器 蓋	NR-401	口径(復)12.0 器高(残)3.75	外)灰 内)灰 断)灰褐	堅緻	密	内外面回転ナデ	内面降灰あり
175	須恵器 蓋	NR-401	口径(復)16.4 器高(残)0.7	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
176	須恵器 杯身	NR-401	口径(復)13.8 器高(残)3.8	外)灰白 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	外面降灰あり
177	須恵器 杯	NR-401	口径(復)12.4 器高(残)3.75	外)灰 内)暗紫灰 断)暗紫灰	堅緻	密	外面回転ナデ、高台貼り付けのヨコナデ、ナデ 内面回転ナデ、ナデ	
178	須恵器 杯	NR-401	口径(復)13.3 器高(残)2.8	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、高台貼り付けのヨコナデ 内面回転ナデ	
179	須恵器 壺	NR-401	口径5.5 器高(残)5.3	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面指オサエ、回転ナデ 内面回転ナデ	
180	須恵器 壺	NR-401	口径(復)8.6 器高(残)6.4	外)灰(青っぽい) 内)灰(青っぽい) 断)青っぽい灰(灰っぽい)	堅緻	密	外面ナデ、ヨコナデ 内面回転ナデ、底部回転糸切り	
181	須恵器 不明	NR-401	器高(残)2.3	外)灰白 内)灰白 断)灰白	やや軟	やや粗	内外面ナデ	墨書あり
182	韓式系土器 甕(?)	NR-401	器高(残)4.0	外)明赤褐 内)にぶい赤褐 断)にぶい赤褐	良好	密	外面格子目タタキ 内面ナデ	軟質
183	韓式系土器 甕(?)	NR-401	器高(残)4.2	外)灰 内)灰 断)赤灰	堅緻	密	外面ナデ、縄文、1条の沈線 内面ナデ	硬質
184	埴輪 (底部?)	NR-401		外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面ヨコハケ後タテハケ 内面ケズリ後ナデ	
185	緑釉陶器 椀	NR-401	口径(復)14.5 器高(残)2.3	釉)濃緑 胎)灰白	良好	精良	調整不明 内外面施釉	
186	緑釉陶器 椀	NR-401	器高(残)3.7	釉)不明 胎)灰白	良好	精良	調整不明 内外面施釉	火を受けている
187	緑釉陶器 椀	NR-401	器高(残)3.5	釉)暗濃緑 胎)灰	良好	精良	調整不明 内外面施釉	火を受けている
188	緑釉陶器 椀	NR-401	高台径(復)6.9 器高(残)2.3	釉)濃緑 胎)灰白	良好	精良	調整不明 全面施釉	近江系 火を受けている
189	緑釉陶器 椀 or 皿	NR-401	高台径(復)6.5 器高(残)1.4	釉)濃緑(受火) 胎)灰白	良好	精良	調整不明 全面施釉	近江系 火を受けている
190	緑釉陶器 椀 or 皿	NR-401	高台径(復)6.4 器高(残)2.0	釉)オリーブ黄 胎)灰	良好	精良	調整不明、高台削り出し、目跡あり 高台内露胎、他は施釉	京都系
191	緑釉陶器 椀 or 皿	NR-401	器高(残)1.2	釉)明濃緑 胎)淡黄	良好	精良	調整不明 高台内露胎、他は施釉	近江系 or 東海系
192	灰釉陶器 壺	NR-401	高台径(復)9.0 器高(残)3.6	外)灰 内)灰 断)浅黄	堅緻	密	外面回転ナデ、糸切り痕 内面回転ナデ 断面施釉	
193	灰釉陶器 椀	NR-401	高台径(復)7.6 器高(残)2.4	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密	外面回転ケズリ 内面ヘラミガキ	釉葉は観察できない
194	白磁 皿	NR-401	器高(残)2.6	釉)灰白 胎)灰白	良好	密	内外面施釉	
195	丸瓦	NR-401	残長12.75 残幅8.9 厚3.8	凸)にぶい黄橙 凹)灰 断)灰	良好	密	凸面ナデ 凹面布目痕	
196	丸瓦	NR-401	残長14.8 残幅9.5 厚3.5	凸)黒灰 凹)黒灰 断)灰黄	良好	密	凸面ナデ 凹面布目痕	
197	丸瓦	NR-401	残長14.5 残幅9.3 厚3.4	凸)暗灰 凹)黒灰 断)灰黄	良好	密	凸面ナデ 凹面布目痕	
198	平瓦	NR-401	残長11.8 残幅11.3 厚2.1	凸)灰 凹)灰 断)灰白	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
199	平瓦	NR-401	残長14.2 残幅13.6 厚1.95	凸)灰 凹)黒灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
200	平瓦	NR-401	残長10.1 残幅12.4 厚2.3	凸)灰 凹)灰黄 断)灰白	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
201	平瓦	NR-401	残長14.2 残幅16.1 厚2.3	凸)黒灰 凹)灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
202	平瓦	NR-401	残長11.9 残幅9.5 厚1.5	凸)黒灰 凹)黒灰 断)灰黄	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
203	石器 石	NR-401	長2.63 幅1.71 厚0.39 重2.0g			サスカイト		押圧剥離の痕跡が顕著にみられる

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
204	石器 石製 器 不 品 明 錘	NR-401	長8.4 幅5.65 厚1.85 重136.7g			片岩		
205	石器 石製 品 不 明	NR-401	長6.4 幅5.4 厚1.7 重98.0g					研磨
206	石器 石製 品 不 石	NR-401	長11.6 幅9.6 重113.0g					自然面、打痕
207	石器 石製 品 不 石	NR-401	長(残)6.5 幅5.2 厚5.4 重258.2g					研磨、擦痕
208	石器 石製 品 不 石	NR-401	長(残)10.5 幅(残)7.0 厚5.4 重559.5g					研磨、玉用筋砥石カ
209	石器 石製 品 不 錘	NR-401	長3.55 幅3.95 厚0.95 重20.0g					研磨
210	石器 石製 模 不 造 鏡	NR-401	長3.15 幅3.15 厚1.05 重13.2g			滑石		研磨
211	銭貨 銭貨神功 開寶	NR-401	径2.6 厚み0.14 内孔0.7×0.65					765年
212	銭貨 銭貨貞観 永寶	NR-401	径1.9					870年
213	銭貨 銭貨乾元 大寶	NR-401	径2.05 厚み0.15 内孔0.45×0.45					958年
214	金属 金属製品 品耳 輪	NR-401	径2.1 厚み0.25					
215	金属 金属製品 品袴 帶金具 巡方	NR-401	長辺2.7 短辺2.5					
216	金属 金属製品 品釵 子	NR-401	長さ4.5					
217	縄文 縄文土器 器鉢	NR-402	器高(残) 4.6	外)黄褐 内)にぶい黄褐 断)黄褐	良好	粗	外面縄文、沈線文 内面ナデ	
218	弥生 弥生土器 器甕	NR-402	器高(残) 7.4	外)にぶい黄褐 内)黄灰 断)暗灰黄	良好	やや粗	外面ケズリ、刻み目突帯 内面板ナデ	内外面煤付着
219	弥生 弥生土器 器甕	NR-402	器高(残) 9.9	外)にぶい褐 内)にぶい黄褐 断)にぶい黄褐	良好	密	外面板ナデ、刻み目突帯 内面ナデよ指オサエ	外面煤付着
220	縄文 縄文土器 器鉢	NR-402	器高(残) 6.1	外)にぶい黄褐 内)褐 断)黒褐	良好	やや粗	外面ヨコナデ、ケズリ 内面ナデ	口縁に黒斑あり
221	弥生 弥生土器 器甕	NR-402	口径(復)23.0 器高(残) 6.25	外)橙 内)明褐 断)橙	良好	やや粗	外面ナデ、刻み目(磨滅著しい) 内面ナデ、指オサエ	
222	土師 土師器 器甕	NR-402	口径(復)14.4 器高(残) 6.0	外)浅黄 内)浅黄 断)黄灰	良好	やや粗	外面ヨコナデ、タタキ 内面ヨコナデ、板ナデ	
223	土師 土師器 器甕	NR-402	底径3.3 器高(残) 10.9	外)にぶい黄橙 内)明黄褐 断)にぶい橙	良好	やや粗	外面タタキ、ナデ 内面板ナデ	
224	土師 土師器 器有孔 鉢	NR-402	底径4.5 器高(残) 4.8	外)暗灰黄 内)黄褐 断)黄灰	良好	密	外面タタキ 内面ナデ	底部に板圧痕あり
225	土師 土師器 器甕	NR-402	口径(復)9.4 器高(残) 6.5	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面ヨコナデ、タタキ 内面ナデ	
226	弥生 弥生土器 器壺	NR-402	口径(復)16.6 器高(残) 7.0	外)褐 内)暗褐 断)暗褐	良好	密	外面ヨコ方向ナデ、ナデ 内面ナデ	
227	弥生 弥生土器 器壺	NR-402	口径(復)20.4 器高(残) 5.6	外)にぶい橙 内)橙 断)浅黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、ハケ、工具による施文 内面ヨコナデ、工具による施文、ミガキ	
228	土師 土師器 器甕	NR-402	最大径(復)16.1 器高(残) 5.6	外)灰黄 内)灰黄 断)灰黄	良好	密	外面ヨコナデ、ハケ、指オサエ、工具 痕あり 内面不明	
229	土師 土師器 器甕	NR-402	口径(復)17.8	外)にぶい黄褐 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	不良	密	外面ヨコナデ 内面ヨコナデ、ケズリ	
230	土師 土師器 器壺	NR-402	最大径(復)22.7 器高(残) 12.25	外)にぶい黄橙 内)灰青 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ 内面ヨコナデ、板ナデ、ナデ	内面に黒斑あり
231	弥生 弥生土器 器壺	NR-402	口径(最大)23.5 (実測箇所)22.8 器高(残)7.3	外)橙 内)橙 断)浅黄橙	やや良	密	内外面横方向のナデ、口縁部に施文	
232	土師 土師器 器甕	NR-402	口径(復)10.0 器高(残) 5.9	外)浅黄 内)にぶい橙 断)褐灰	良好	密	外面ヨコナデ、タテハケ後ヨコハケ 内面ヨコナデ、ケズリ	
233	土師 土師器 器壺	NR-402	口径(復)19.3 器高(残) 7.9	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)黄灰	良好	密	外面ヨコナデ 内面ハケ後ナデ消し	
234	弥生 弥生土器 器壺	NR-402	胴体径(復)29.2 器高(残)27.05	外)橙 内)灰白 断)灰白	良好	密	外面ナデ、ハケ 内面ケズリ、体部上部に横方向のナデ	外面煤付着
235	土師 土師器 器円盤(?)	NR-402	口径(復)11.8 器高(残) 8.15	外)橙 内)にぶい橙 断)にぶい赤褐	良好	密	外面ハケ目(磨滅のため調整不明) 内面ハケ目(磨滅のため調整不明)	外面黒斑あり
236	土師 土師器 器小型丸底壺	NR-402	口径(復)7.4 最大径(復)8.6 器高(残) 5.25	外)灰黄 内)にぶい黄 断)灰黄	良好	密	外面ナデ、ハケ後ナデ 内面ナデ	外面煤付着
237	土師 土師器 器甕	NR-402	口径(復)17.2 器高(残) 4.0	外)灰黄 内)黄灰 断)黄灰	良好	密	外面ナデ、ハケ 内面板ナデ、ヘラケズリ	

挿図 番号	器 種	出土地点	法量 (cm)	色 調	焼 成	胎 土	技 法 の 特 徴	備 考
238	土 師 器 甕	NR-402	口径(復)13.8 器高(残)4.9	外)オリーブ黒 内)ぶい褐 断)ぶい褐	良好	密	外面ヨコナデ、タテハケ後ヨコハケ 内面ヨコナデ、ケズリ	
239	土 師 器 甕	NR-402	口径(復)13.0 最大径(復)18.2 器高(残)10.3	外)浅黄橙 内)灰白 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ、ハケ 内面ヨコナデ、指オサエ、ケズリ	外面煤付着
240	土 師 器 小型丸底鉢	NR-402	口径(復)16.0 器高(残)4.1	外)ぶい橙 内)ぶい橙 断)灰黄	良好	密	外面ナデ 内面ナデ	
241	土 師 器 鉢	NR-402	口径(復)14.0 器高(残)5.0	外)橙 内)橙 断)橙	良好	密	内外面ヨコナデ、ナデ	
242	土 師 器	NR-402	口径(復)22.2 器高(残)9.9	外)橙 内)橙 断)橙	良好	やや粗	外面タテハケ、ヨコハケ 内面板状工具ナデ	外面黒斑あり
243	弥生土器高 杯	NR-402	口径22.4 器高(残)6.8	外)ぶい黄橙 内)灰黄 断)褐灰	良好	密	口縁部外面刻み目、沈線、同内面帯描波状文、 体部外面縦方向のミガキ、櫛描波状文(7条)、 列点文、同内面縦方向のミガキ	体部外面の列点文は櫛によるもの
244	土師器高杯	NR-402	口径15.5 器高(残)12.0	外)灰白 内)浅黄橙 断)浅黄橙	良好	やや粗	坏部内外面ヨコハケ 脚部外面ヘラナデ 脚部内面ヘラケズリ、絞り目	
245	土 師 器 高 杯	NR-402	口径(復)15.8 器高(残)4.65	外)橙 内)橙 断)黄灰	良好	密	内外面ヨコナデ	
246	土師器高杯	NR-402	口径16.6 器高(残)5.2	外)浅黄橙 内)浅黄橙 断)灰白	良好	密	内外面ヨコナデ、ナデ、外面に粘土継 ぎ目あり	
247	土師器高杯	NR-402	最大径(復)8.6 器高(残)2.9	外)橙 内)橙 断)橙	やや軟	密	内外面ヨコナデ	
248	土 師 器 高 杯	NR-402	底径(復)11.2 器高(残)9.6	外)橙 内)浅黄橙 断)浅黄橙	良好	やや粗	外面タテミガキ、ケズリ 内面ナデ、シボリ	
249	土 師 器 高 杯	NR-402	杯部径(復)11.0 器高(残)13.9	外)ぶい橙 内)ぶい橙 断)褐灰	良好	やや粗	外面ハケ後ミガキ 内面シボリ目、ナデ	裾部に4ヶ所(推定)透し孔 が入ると思われる
250	土 師 器 台	NR-402	最大径(残)13.4 器高(残)3.7	外)ぶい黄橙 内)橙 断)橙	やや軟	やや粗	外面タテハケ、ヨコハケ後波状文 内面ミガキ	
251	土 師 器 台	NR-402	底径(復)11.0 器高(復)5.0	外)橙 内)橙 断)橙	良好	密	外面ナデ 内面不明	
252	須 惠 器 杯 蓋	NR-402	口径(復)13.0 器高(残)4.7	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面回転ナデ	
253	須 惠 器 杯 蓋	NR-402	口径(復)14.6 器高(残)4.8	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
254	須 惠 器 杯 蓋	NR-402	口径(復)14.3 器高4.3	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ、ナデ	
255	須 惠 器 杯 蓋	NR-402	口径(復)10.2 器高3.3	外)灰白 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	口縁部内外面ヨコナデ 外面ナデ、回転ヘラケズリ 内面ナデ	
256	須 惠 器 杯	NR-402	口径12.1 最大径14.5 器高5.35	外)明オリーブ灰 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ、ナデ	
257	須 惠 器 杯	NR-402	口径(復)11.8 最大径(復)14.0 器高3.85	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ、ナデ	
258	須 惠 器 杯	NR-402	口径(復)13.4 最大径(復)16.0 器高(残)4.2	外)灰 内)灰黄 断)灰黄	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
259	須 惠 器 杯 身	NR-402	口径11.2 最大径13.8 器高4.1	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	調整方向は時計回り
260	須 惠 器 壺	NR-402	口径(復)21.4 器高(残)6.1	外)灰 内)灰 断)灰赤	良好	密	外面カキ目、回転ナデ、波状文 内面回転ナデ	
261	須 惠 器 壺	NR-402	口径(復)18.0 器高(残)5.6	外)褐灰 内)灰 断)青灰	堅緻	密	外面回転ナデ、つまみだし 内面回転ナデ	降灰あり
262	須 惠 器 甕	NR-402	口径(復)14.7 器高(残)5.0	外)灰白 内)灰白 断)黄褐	堅緻	密	外面回転ナデ 内面ナデ	
263	須 惠 器 高 杯	NR-402	底径10.0 器高(残)4.6	外)灰 内)ぶい橙 断)ぶい橙	軟(土師 質)	密	内外面回転ナデ	穿孔(円形)は3ヶ所確認、 おそらく4ヶ所はあると思 われる
264	須 惠 器 平 瓶	NR-402	最大径(復)18.7 器高(残)11.8	外)明青灰 内)明青灰 断)灰白	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
265	須 惠 器 高 杯	NR-402	最大径(復)15.3 器高(残)12.55	外)暗青灰 内)暗青灰 断)暗青灰	堅緻	密	外面回転ナデ、カキ目、櫛描波状文 内面回転ナデ、指オサエ、ナデ、工具 痕カ	内外面とも降灰あり、長方 形の透し孔5ヶ所あり
266	韓 式 系 土 器 壺	NR-402	器高(残)3.4	外)ぶい橙 内)ぶい橙 断)ぶい橙	良好	密	外面格子目タタキ 内面ナデ	軟質
267	韓 式 系 土 器 壺 (?)	NR-402	器高(残)3.2	外)暗灰黄 内)黄灰 断)明褐	良好	密	外面5条の沈線、その間に縄席文 内面ナデ	軟質
268	須 惠 器 蓋	NR-402	器高(残)3.5	外)灰 内)灰 断)褐灰	良好	密	外面回転ナデ、縄席文 内面回転ナデ、ナデ	
269	縄 文 土 器 浅 鉢	NR-402	器高(残)4.15	外)灰白 内)灰白 断)ぶい黄褐	良好	やや粗	外面ナデ、ケズリ 内面ヨコナデ、ナデ	
270	製 塩 土 器	NR-402	口径(復)5.9 器高(残)3.05	外)ぶい黄橙 内)浅黄橙 断)暗灰	良好	密	内外面ナデ	
271	手 捏 ね 土 器	NR-402	底径4.2 器高(残)3.0	外)灰黄 内)ぶい黄 断)灰	良好	密	外面ナデ、工具痕あり 内面指ナデ	

挿図 番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
272	手捏ね土器 蓋	NR-402	口径(復)10.0 器高3.2	外)浅黄 内)浅黄 断)灰黄	良好	密	外面ナデ 内面ナデ	外面黒斑あり
273	土師器 杯(手捏ね)	NR-402	口径(復)10.6 器高4.2	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい橙	良好	密	外面ナデ 内面ナデ、ハケ	
274	弥生土器手 捏ね土器壺	NR-402	口径6.15 最大径6.9 器高7.7	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)橙	良好	やや粗	外面ハケ目、指オサエ 内面指オサエ、指ナデ、外面に粘土の つなぎ目見える	
275	石器 石 器 鎌	NR-402	長2.86 幅2.25 厚0.33 重1.6g			サスカイト		磨滅少ない、調整粗く未製 品の可能性あり
276	石器 石 器 鎌	NR-402	長3.06 幅1.59 厚0.4 重1.5g			サスカイト		全体にローリング受ける
277	石器 石 器 鎌	NR-402	長3.67 幅1.75 厚0.48 重2.9g			サスカイト		全体にローリング受ける
278	石器 石 器 鎌	NR-402	長4.32 幅1.43 厚0.48 重2.7g			サスカイト		全体にややローリング受け る
279	石器 石 尖 頭 器	NR-402	長8.0 幅3.2 厚1.25 重33.0g			サスカイト		全面剥離だがローリングの ため不明瞭
280	石器 石 器 匙	NR-402	長5.45 幅3.4 厚0.85 重11.0g			サスカイト	剥離は長く強い指圧剥離が行われたと 考えられる	使用痕はあまりみられない
281	石製 石 製 品 丁	NR-402	長(残)3.0 幅(残)4.6 厚0.8 重12.8g					研磨、擦痕、一部に敲打痕 らしき痕跡あり
282	石製 石 製 品 石	NR-402	長(残)8.1 幅3.4 厚7.9 重721.6g					4面あり
283	石製 石 製 品 石	NR-402	長(残)5.9 幅(残)2.2 厚1.1 重20.5g					研磨、擦痕
284	石製 石 製 品 石	NR-402	長18.0 幅7.2 重1376.9g					研磨、敲打痕、玉砥石
285	石製 石 製 品 石	NR-402	長16.0 幅7.0 厚1.7 重264.2g					研磨、擦痕、敲打痕、玉砥 石
286	石製 石 製 品 石	NR-402	長17.1 幅5.9 厚2.5 重328.2g					研磨、擦痕、敲打痕、玉砥 石
287	縄文土器 縄 文 土 器 鉢	NR-403	器高(残) 5.4	外)灰 内)にぶい黄 断)黄灰	良好	やや粗	外面縄文、沈線文 内面指オサエ	
288	縄文土器 縄 文 土 器 明	NR-403	器高(残) 3.5	外)にぶい黄褐 内)にぶい黄褐 断)にぶい黄褐	良好	やや粗	外面沈線文 内面不明	
289	縄文土器 縄 文 土 器 明	NR-403	器高(残) 3.7	外)暗灰黄 内)にぶい黄橙 断)黄灰	良好	やや粗	外面縄文 内面不明	
290	縄文土器 縄 深 土 器 鉢	NR-403	器高(残) 7.7	外)橙 内)明褐 断)橙	良好	やや粗	外面縄文 内面ナデ	
291	縄文土器 縄 文 土 器 鉢	NR-403	器高(残) 5.7	外)にぶい黄橙 内)暗灰褐 断)暗灰褐	良好	やや粗	外面不明 内面指オサエとナデ	
292	縄文土器 縄 深 土 器 鉢	NR-403	器高(残) 2.9	外)にぶい黄褐 内)灰黄褐 断)にぶい黄褐	良好	密	外面ナデ、貼付突帯に刻み目あり 内面ナデ	
293	土師器 土 師 甕	NR-403	口径(復)15.6 器高(残) 1.25	外)暗灰黄 内)黄褐 断)にぶい黄	良好	密	内外面ヨコナデ、ナデ	外面煤付着
294	弥生土器 弥 生 土 器 杯	NR-403	底径(復)10.9 器高(残) 3.65	外)にぶい褐 内)にぶい黄褐 断)灰黄褐	良好	やや粗	外面ナデ、1条沈線(磨滅) 内面ナデ	透し孔あり
295	石削 石 器 器	NR-403	長8.47 幅3.65 厚1.19 重28.9g			サスカイト		
296	石削 石 器 器	NR-403	長13.5 幅3.9 厚1.7 重107.4g			サスカイト	打ち欠きにより微細な刃部を作る	
297	石削 石 器 器	NR-403	長7.0 幅4.2 厚1.65 重38.1g			サスカイト		二次加工部位は風化が浅い
298	石削 石 器 器	NR-403	長3.52 幅3.5 厚0.93 重10.8g			サスカイト		
299	石製 石 製 品 石	NR-403	長5.3 幅1.4 厚1.0 重15.5g					研磨
300	石製 石 製 品 石	NR-403	長(残)7.5 幅2.5 厚1.2 重36.5g					研磨、無数の擦痕
301	石製 石 製 品 石	NR-403	長(残)14.6 幅12.7 厚6.6 重1802.8g					研磨、敲打痕、玉用筋砥石 カ
302	縄文土器 縄 文 土 器 鉢	第XVI層	器高(残) 4.2	外)暗灰黄 内)黄褐 断)にぶい黄褐	良好	粗	外面縄文、沈線文 内面指オサエ	
303	縄文土器 縄 深 土 器 鉢	第XVI層	器高(残) 6.2	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面縄文、沈線文 内面ハケ目	穿孔1ヶ所あり
304	縄文土器 縄 文 土 器 鉢	第XVI層	器高(残) 3.4	外)暗灰褐 内)黒褐 断)黒褐	良好	やや粗	外面ナデ、沈線文 内面指オサエと「ナデ	
305	弥生土器 弥 生 土 器 壺	第XVI層	器高(残)1.2	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰	やや良	密	外面ナデ 内面沈線、ナデ	

挿図 番号	器 種	出土地点	法量 (cm)	色 調	焼 成	胎 土	技 法 の 特 徴	備 考
306	弥生土器 壺	第XVI層	口径(復)18.8 器高(残)2.5	外)明赤褐 内)ぶい黄橙 断)黒褐	良好	密	外面ナデ、波状文 内面波状文	内面に黒斑あり
307	土師器壺	第XVI層	口径15.25 最大径(復)20.6 器高(残)14.2	外)ぶい黄橙 内)明赤褐 断)灰	不良	やや粗	内外面磨滅のため不明、外面体部へラ ミガキ(磨滅のため観察困難)	
308	土師器壺	第XVI層	口径(復)11.0 器高(残)5.2	外)ぶい黄橙 内)ぶい黄橙 断)黒	良好	密	外面ヨコナデ、タテハケ、ナデ消し、 内面押さえ、ナデ	
309	土師器甕	第XVI層	口径(復)16.6 器高(残)6.2	外)ぶい黄褐 内)ぶい橙 断)黄灰	良好	密	外面口縁部ヨコナデ、体板状工具によ るナデ 内面板状工具によるナデ	
310	弥生土器甕	第XVI層	口径(復)16.0 器高(残)8.5	外)ぶい黄橙 内)灰黄褐 断)褐灰	良好	やや粗	外面口縁部ヨコナデ、体部タタキ 内面口縁部ヨコハケとナデ消し、体部 板状工具によるナデ	
311	弥生土器壺	第XVI層	口径15.2 器高(残)15.0	外)ぶい橙 内)ぶい褐 断)灰黄	良好	密	外面ナデ、タタキの後ナデ消し、ハケ目 内面ナデ	外面煤付着
312	土 師 器 鉢	第XVI層	口径(復)9.4 器高(残)4.4	外)黄橙 内)ぶい黄橙 断)灰黄褐	良好	密	外面ヨコナデ、タタキ 内面ヨコナデ、ナデ	
313	弥生土器鉢	第XVI層	口径(復)14.4 底径4.9 器高6.4	外)ぶい黄橙 内)ぶい黄橙 断)暗灰	やや良	密	外面ナデ、指オサエ 内面ハケ目の後ナデ消し、ナデ、板ナデ	黒斑あり
314	石 器 石 鎌	第XVI層	長5.72 幅1.86 厚0.38 重3.6g			サヌカイト		全体にややローリング受ける、 両面に素材面残す
315	石 器 石 鎌	第XVI層	長3.58 幅1.59 厚0.46 重2.2g			サヌカイト		全体に激しいローリング受ける、 衝撃剥離により縦に半裁している

写 真 图 版



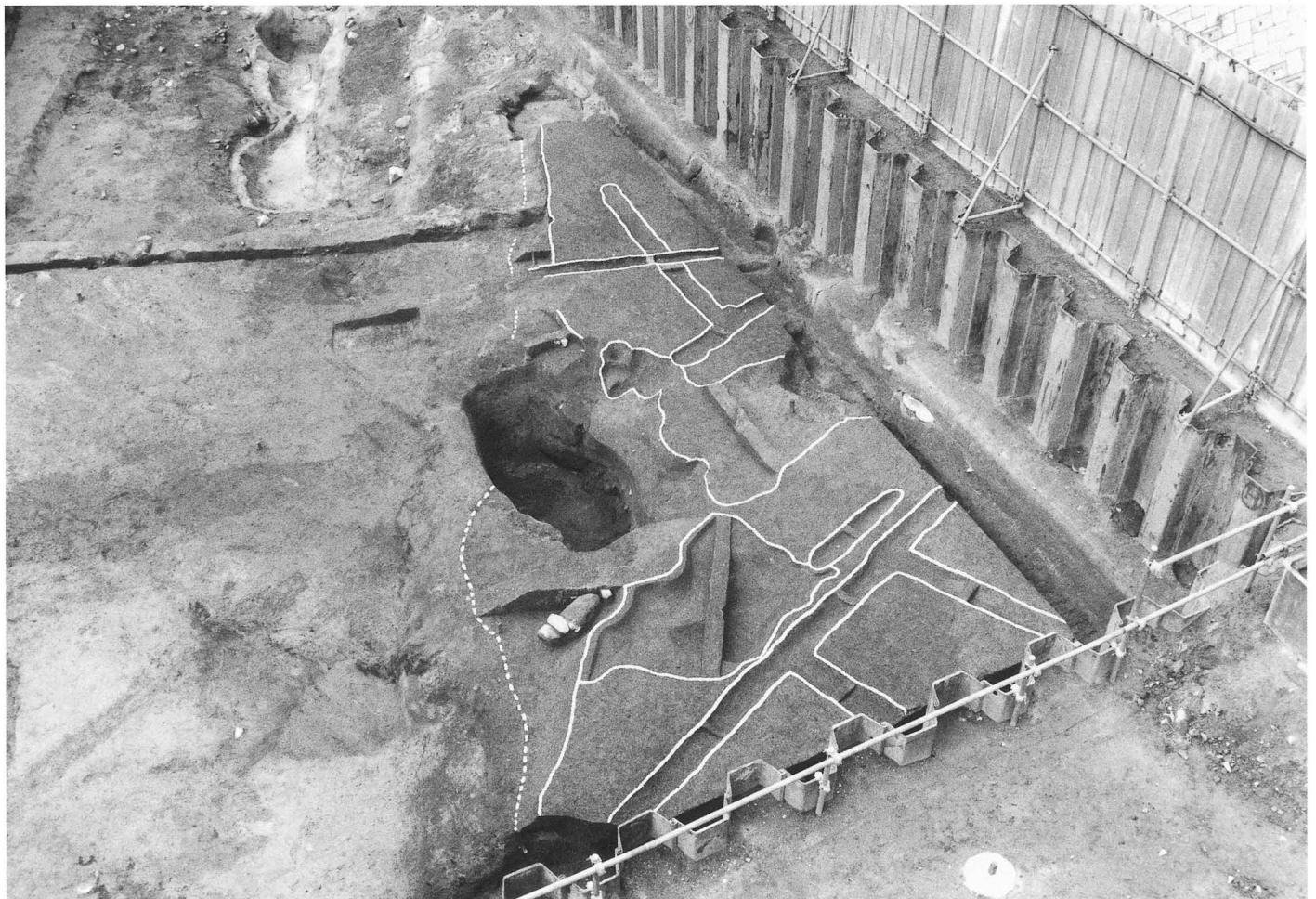
1. 調査地遠景 (西より)



2. 第1遺構面全景 (南東より)



1. 第2遺構面東半部（北西より）



2. 第2遺構面全景（南東より）



1. 第3遺構面全景（北東より）



2. 第3遺構面東半部（北西より）

図版 4
遺構(4)



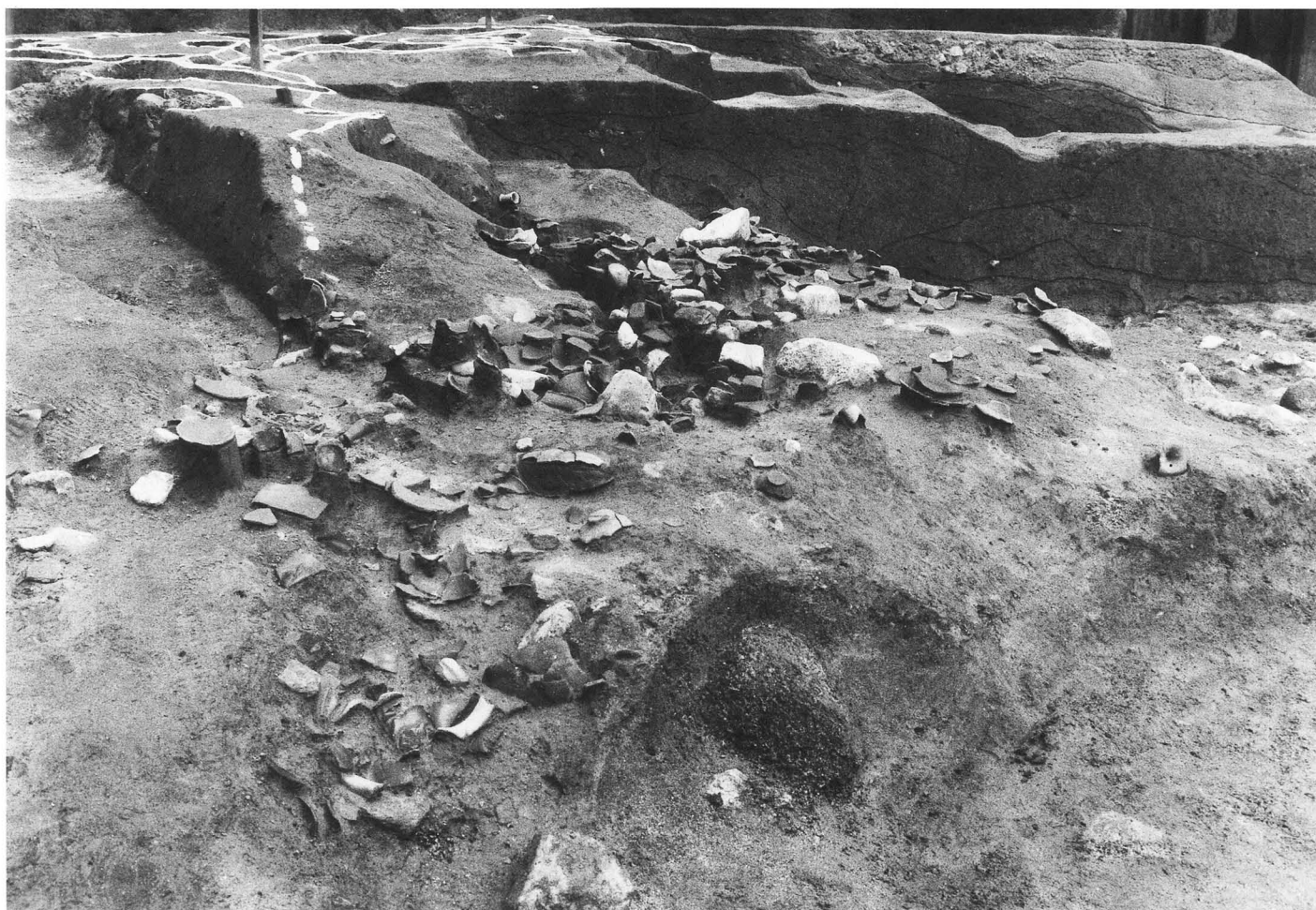
1. 第3遺構面北東部(南東より)



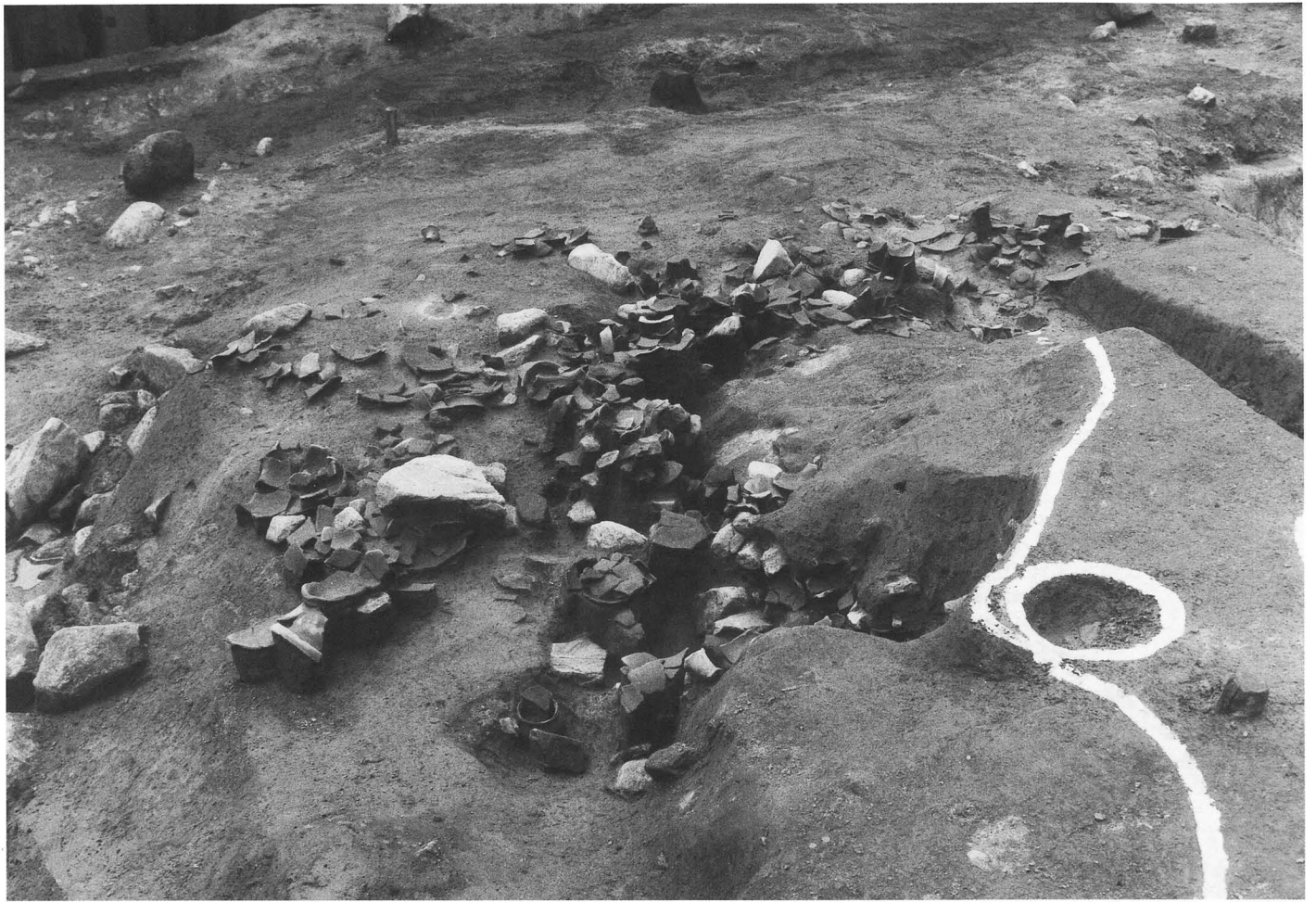
2. NR-301断面(北西より)



1. 土器群 (南東より)



2. 土器群 (南西より)



1. 土器群 (北東より)



2. 土器群 (部分接写①)



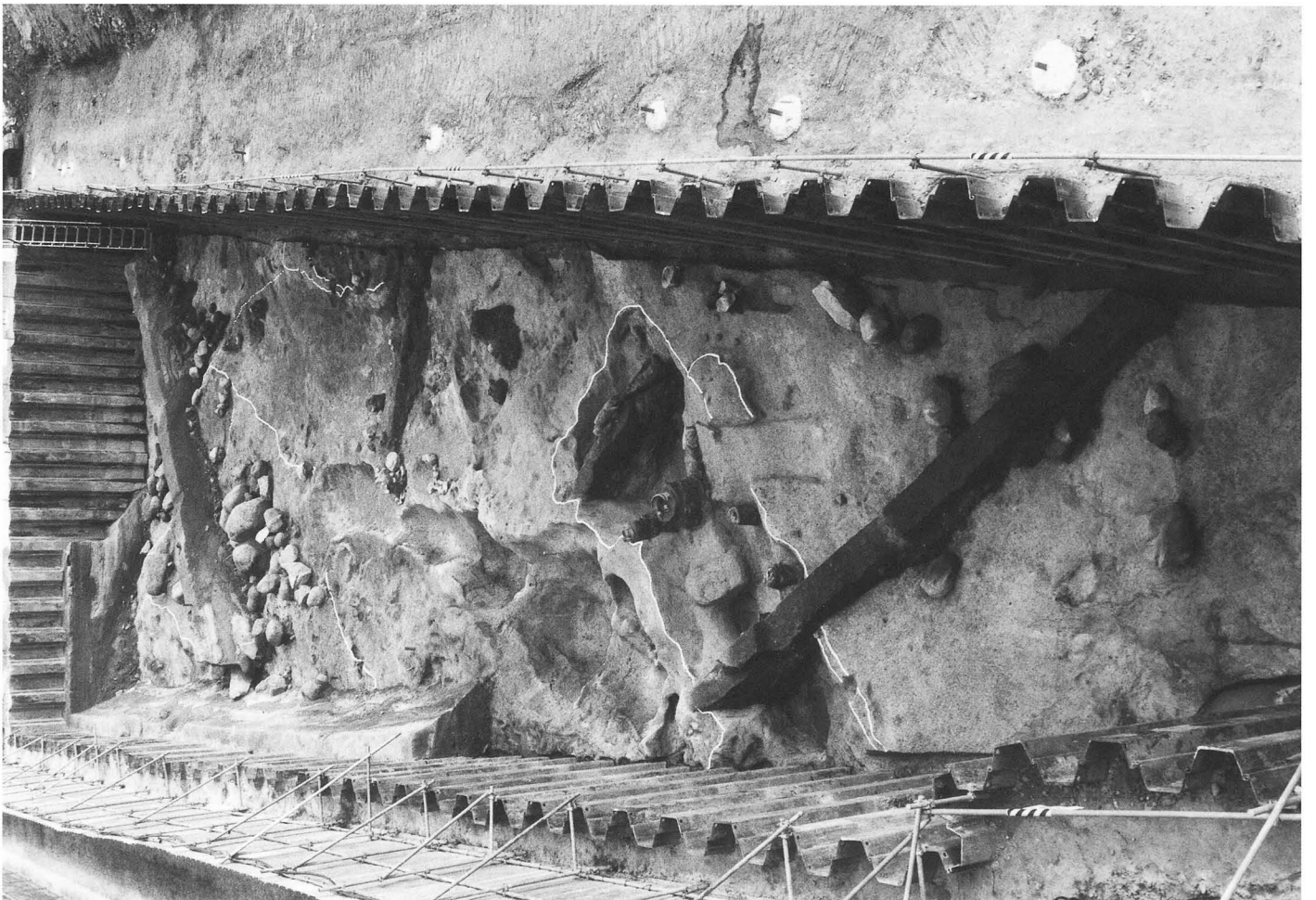
1. 土器群 (部分接写②)



2. 土器群 (部分接写③)



1. 第4遺構面全景(南東より)



2. 第4遺構面全景(北西より)



1. SK-401・402 (北西より)



2. SK-401・402 (南東より)



1. SK-401断面 (北より)



2. SK-402断面 (北西より)



1. S K-401遺物出土状況①



2. 同上 (接写)



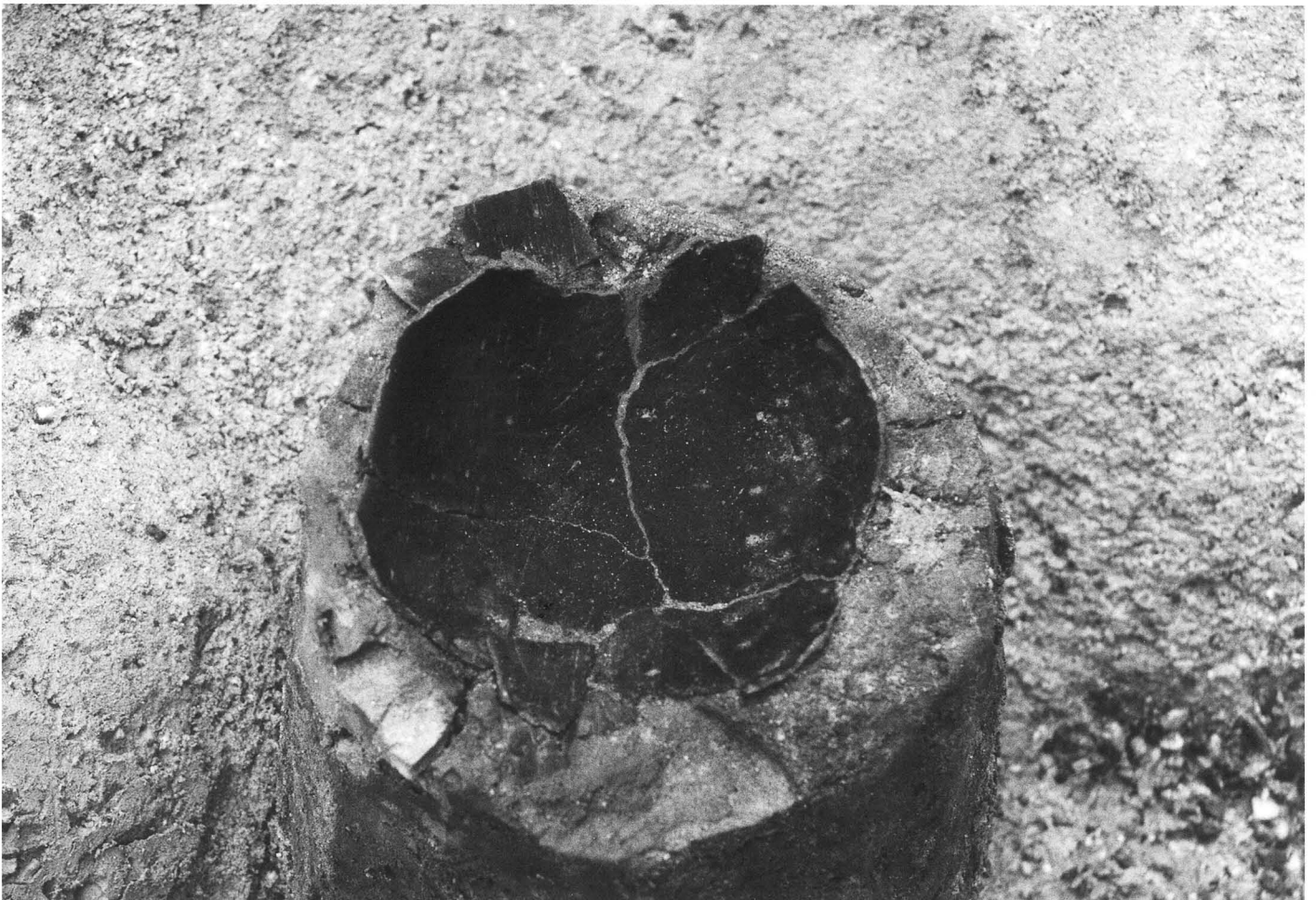
1. S K-401遺物出土状況②



2. S K-401遺物出土状況③



1. SK-402遺物出土状況①



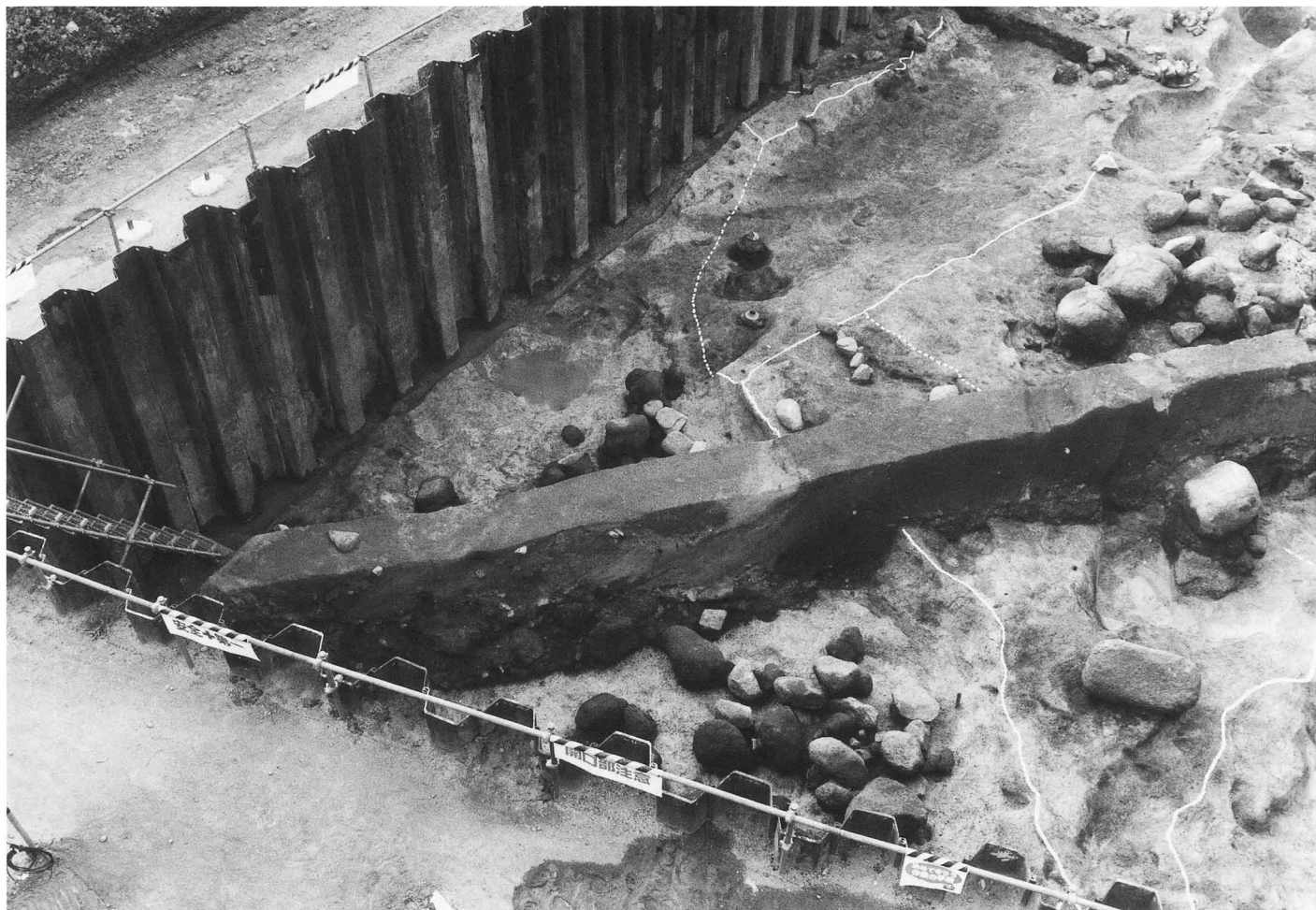
2. SK-402遺物出土状況②



1. NR-401-402-403 (北西より)



2. NR-401-402-403 (南東より)



1. NR-401 (北東より)



2. NR-403 (南西より)



1. NR-402遺物出土状況①



2. NR-402遺物出土状況②



1. NR-402遺物出土状況③



2. NR-402遺物出土状況④

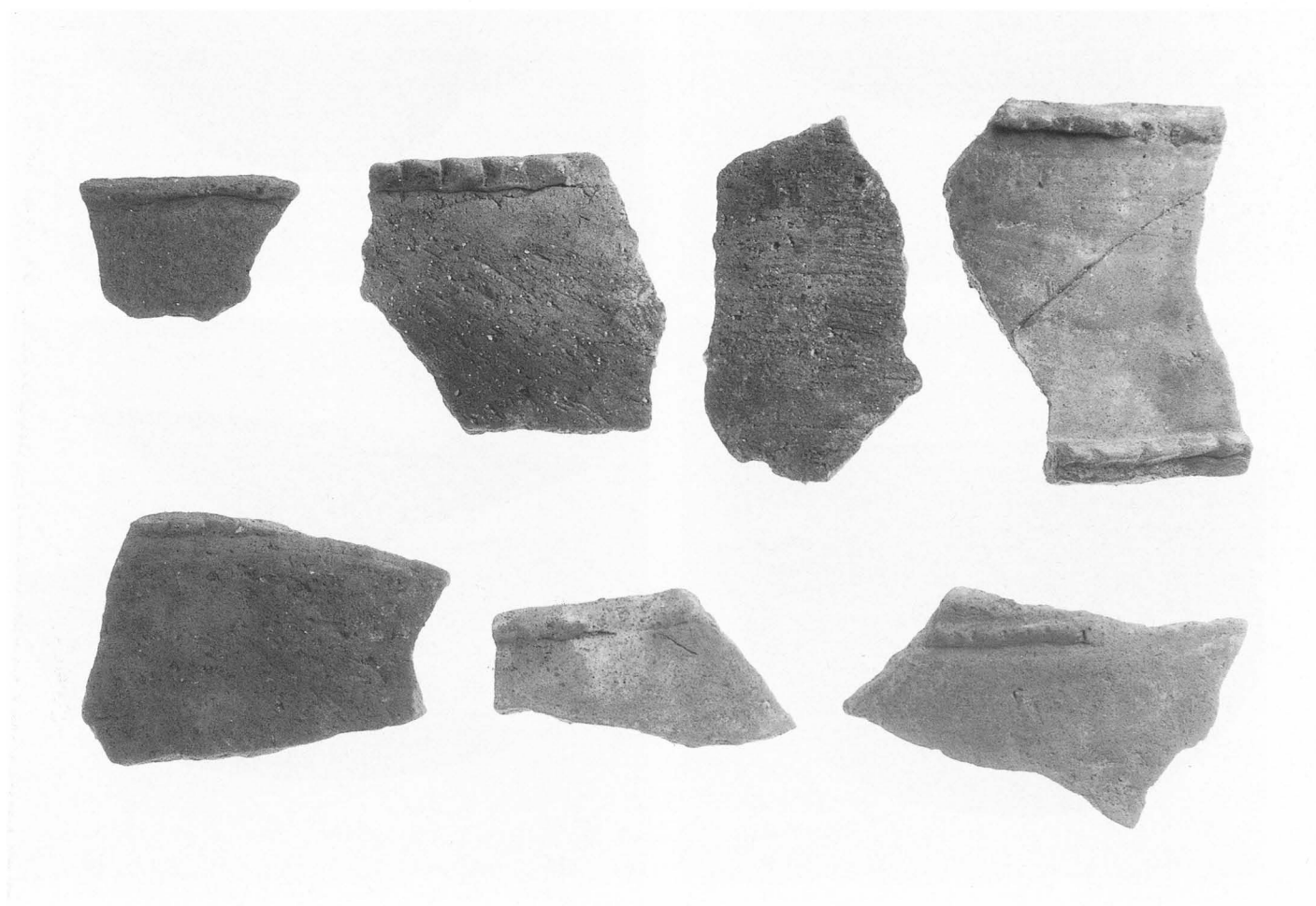


1. NR-402遺物出土状況⑤



2. NR-402遺物出土状況⑥

図版19 出土遺物(1)〔土器〕







11



13



14



15



16



17

図版22
出土遺物(4)
〔土器〕



18



20



22



23



24



26



図版24
出土遺物(6)
〔土器〕



46



49



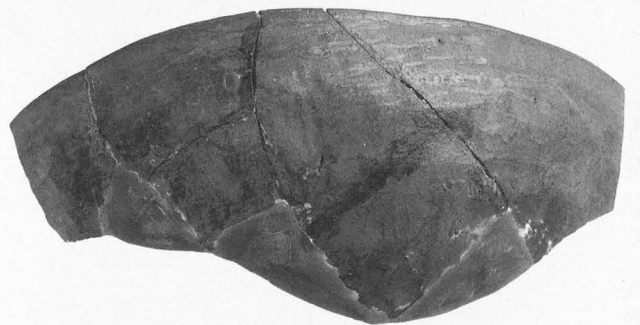
50



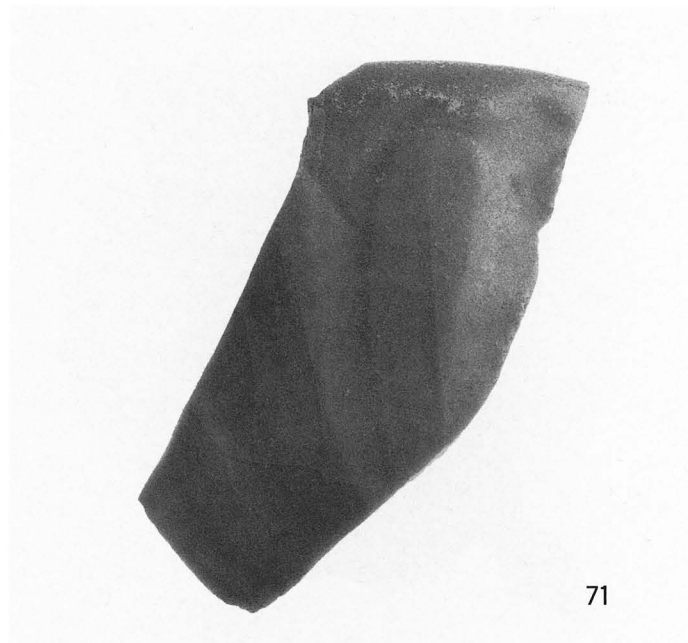
51



52



60





102



103



106



116



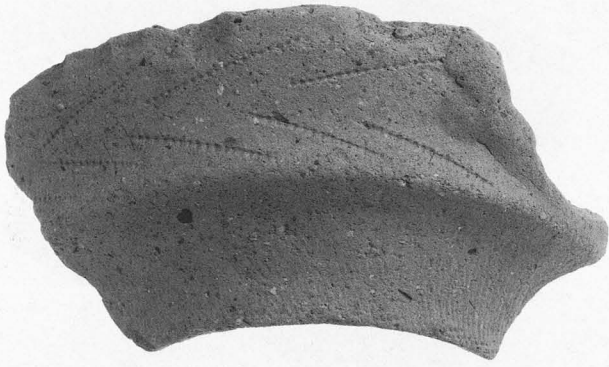
117



119







227



227'



231



243



246



249



252



255



256



258



263



274



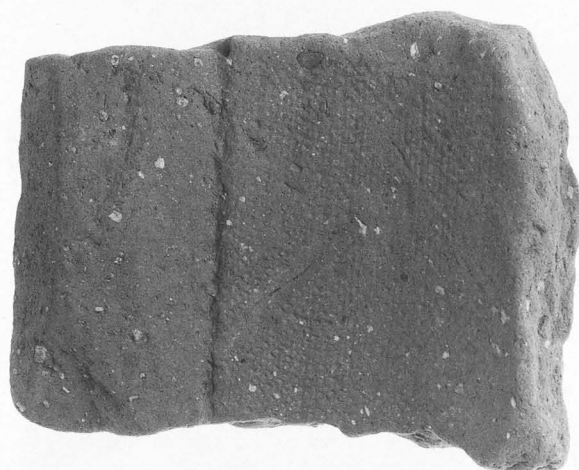
79



79'



81



81'



82



82'



83



83'



84



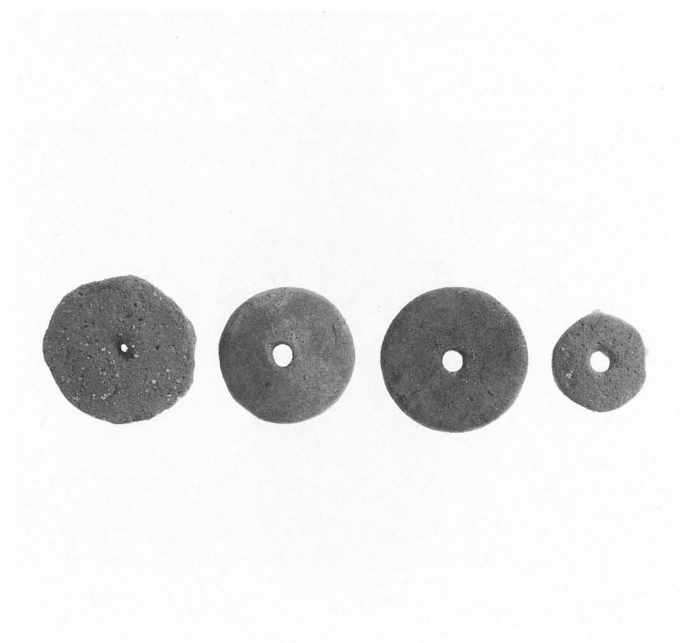
84'

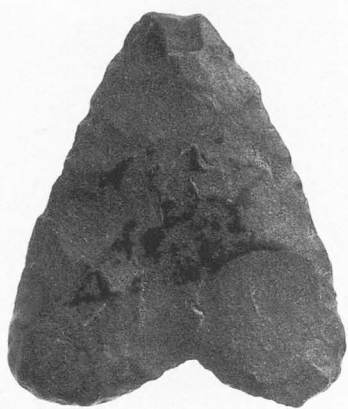


197

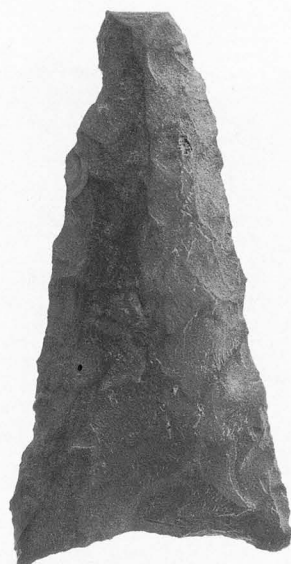


197'





87



88



90



91



92



204



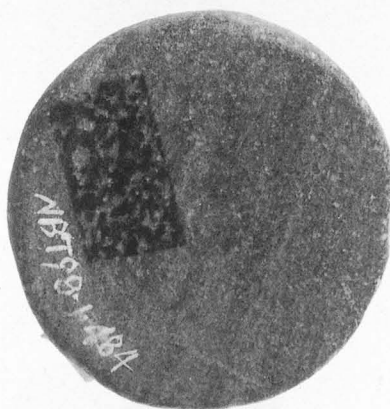
209



210



276



210'



277



278



279



280



285



285'



286



286'





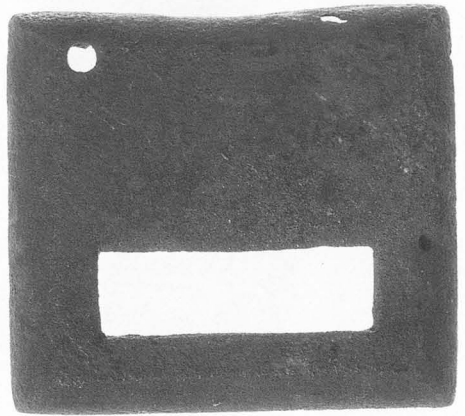
211



213



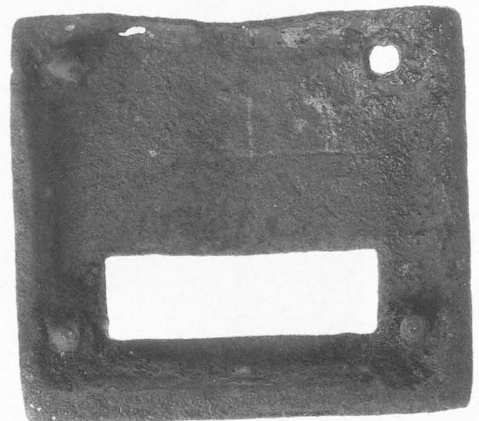
214



215



216



215'

報告書抄録

ふりがな	なべたがわ いせき							
書名	鍋田川遺跡Ⅲ							
副書名	大阪産業大学校舎（15号館）建設に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第28集							
編著者名	中達健一							
編集機関	大東市教育委員会							
所在地	〒574-0076 大阪府大東市曙町4番6号 TEL 072-870-9105							
発行年月日	平成20年（2008）3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なべたがわいせき 鍋田川遺跡	おおさかふだいとうし 大阪府大東市 なかがいと 中垣内	27218	6	34° 42′ 25″	135° 38′ 51″	1998年8月3日 ） 1998年11月21日	511.94m ²	大阪産業大学 校舎（15号館） 建設
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構		主な遺物		特記事項	
なべたがわいせき 鍋田川遺跡	集落	弥生時代以前	自然河川 土器群		中～晩期の縄文土器 後期の弥生土器 石製品		祭祀的状况を 窺わせる弥生 時代後期の土 器群	
		古墳時代	土坑、自然河川		土師器、須恵器 石製品		瀬戸内系の土 師器	
		奈良～ 平安時代	自然河川		土師器、須恵器 黒色土器、瓦器 石製品、金属製品		官衙の存在を 想定させる 銚子の出土や 釵子を推定さ せる金属製品 の出土	
		中世	土坑、ピット 落込み状遺構、鋤溝 自然河川		土師器、須恵器、瓦器 瓦質土器、陶器			
		近世以降	土坑、ピット、鋤溝 自然河川		陶器、染付磁器、瓦			

印刷物番号

19—63

大東市埋蔵文化財調査報告第28集

鍋田川遺跡Ⅲ

— 大阪産業大学校舎（15号館）建設に伴う発掘調査報告書 —

2008年3月31日発行

編集・発行 大東市教育委員会

〒574-0076 大東市曙町4番6号
TEL. 072-870-9105

印刷・製本 株式会社ミラテック

〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番9号
TEL. 06-6354-3081
